Dell Precision™ M4300

ユーザーズガイド

www.dell.com | support.dell.com

メモ、注意、警告

 **メモ：**コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意：**ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。**

略語について

略語の一覧表は、141 ページの「用語集」を参照してください。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合は、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

この文書の情報は、事前の通知なく変更されることがあります。
© 2007–2008 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複写は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、Dell Precision、ExpressCharge、TravelLite、Strike Zone、Wi-Fi Catcher、および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel は Intel Corporation の登録商標、Core は Intel Corporation の商標です。Microsoft、Outlook、Windows、および Windows Vista は Microsoft Corporation の登録商標、Windows Vista Start ボタンは Microsoft Corporation の商標です。Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標で、Dell が使用権を所有します。EMC は EMC Corporation の登録商標です。ENERGY STAR は U.S. Environmental Protection Agency の登録商標です。Dell Inc. は ENERGY STAR と提携しており、本製品は ENERGY STAR のエネルギー効率に関するガイドラインに適合しています。

本書では、上記記載以外の商標および会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

モデル PP04X

2008 年 8 月　　P/N TX453　　Rev. A03

目次

4 キーボードとタッチパッドの使い方

5 マルチメディアの使い方

6 ディスプレイの使い方

7 ネットワークのセットアップと使い方

8 カードの使い方

9 コンピュータのセキュリティ保護

10 トラブルシューティング

13 ソフトウェアの再インストール

14 部品の増設および交換

1

情報の検索方法

メモ：一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合がありま す。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。

メモ：追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• コンピュータの診断プログラム • コンピュータのドライバ • デバイスのマニュアル • ノートブックシステムソフトウェア（NSS）	**Drivers and Utilities メディア** **メモ：**『Drivers and Utilities』メディアはオプションのため、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。 マニュアルおよびドライバは、本コンピュータにすでにインストールされています。そのメディアを使用して、ドライバを再インストールしたり（94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」参照）、Dell Diagnostics（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」参照）を実行したり、マニュアルにアクセスすることができます。  メディア内に Readme ファイルが含まれる場合があります。この Readme ファイルでは、コンピュータの技術的な変更に関する最新アップデート情報や、技術者または専門知識をお持ちのユーザを対象とした高度な技術資料を参照できます。 **メモ：**ドライバおよびマニュアルのアップデート版は、**support.jp.dell.com** で入手できます。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• コンピュータのセットアップ方法 • 基本的なトラブルシューティングの情報 • Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行方法	**クイックリファレンスガイド** **メモ：**このマニュアルはオプションの場合があるため、必ずしもお使いのコンピュータに付属しているとは限りません。  **メモ：**このマニュアルは、PDF 形式のものをウェブサイト（**support.jp.dell.com**）でご覧いただけます。
• 安全にお使いいただくための注意 • 認可機関の情報 • 作業姿勢に関する情報 • エンドユーザライセンス契約	**Dell™ 製品情報ガイド** 
• サービスタグとエクスプレスサービスコード • Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグおよび Microsoft® Windows® ライセンス** これらのラベルはお使いのコンピュータに貼られています。 エクスプレスサービスコードを利用すると、Dell テクニカルサポートに直接電話で問い合わせることができます。 

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• 技術情報 — トラブル解決ナビ、Q&A • サービスと保証 — 問い合わせ先、保証、および修理に関する情報 • サービスおよびサポート — サービス契約 • Dell テクニカル Update Service — お使いのコンピュータに関するソフトウェアおよびハードウェアのアップデートを E- メールにて事前に通知するサービスです。 • 参照資料 — コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細、製品の仕様、およびホワイトペーパー • ダウンロード — 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート • ノートブックシステムソフトウェア（NSS）— お使いのコンピュータのオペレーティングシステムを再インストールする場合、NSS ユーティリティも再インストールする必要があります。NSS は、お使いのオペレーティングシステムのための重要な更新を提供し、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel® プロセッサ、光学ドライブ、および USB デバイスをサポートします。NSS はお使いのデルコンピュータが正しく動作するために必要なものです。ソフトウェアはお使いのコンピュータおよびオペレーティングシステムを自動的に検知して、設定に適した更新をインストールします。	**デルサポートサイト — support.jp.dell.com** **メモ：**適切なサポートサイトを表示するには、お住まいの地域または業務部門を選択します。 **メモ：**企業、自治体、および教育機関のお客様専用のデルサポートウェブサイト **HTTP://support.us.dell.com** もご利用いただけます。 ノートブックシステムソフトウェアは、**support.jp.dell.com** にてダウンロードできます。 **メモ：support.jp.dell.com** のユーザーインタフェースは、選択の仕方によって異なります。
• ソフトウェアのアップグレードおよびトラブルシューティングのヒント — よくあるお問い合わせ（FAQ）、最新トピック、およびお使いのコンピュータ環境の一般的な状態	**デルサポートユーティリティ** デルサポートユーティリティは、お使いのコンピュータにインストールされている自動アップグレードおよび通知システムです。このサポートは、お使いのコンピュータ環境のリアルタイムな状態のスキャン、ソフトウェアのアップデート、および関連するセルフサポート情報を提供します。デルサポートユーティリティは、タスクバーの アイコンからアクセスします。詳細に関しては、70 ページの「デルサポートユーティリティ」を参照してください。
• Windows XP および Windows Vista® の使い方 • プログラムとファイルの操作方法 • デスクトップのカスタマイズ方法	**Windows ヘルプとサポートセンター** 1 **スタート** あるいは → **ヘルプとサポート** をクリックします。 2 問題に関連する用語や文節をボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 3 問題に関連するトピックをクリックします。 4 画面に表示される指示に従ってください。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• ネットワークアクティビティ、電力の管理ウィザード、ホットキー、および Dell QuickSet で制御されるその他のアイテムに関する詳細情報	**Dell QuickSet ヘルプ** 『Dell QuickSet ヘルプ』を表示するには、Microsoft® Windows® タスクバーにある Quickset アイコンを右クリックします。 Dell QuickSet の詳細については、123 ページの「Dell™ QuickSet」を参照してください。
• オペレーティングシステムの再インストール方法	**オペレーティングシステムメディア** **メモ：**『オペレーティングシステム』メディアはオプションのため、出荷時にお使いのコンピュータに必ずしも付属しているわけではありません。 オペレーティングシステムは、本コンピュータにすでにインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、『オペレーティングシステム』メディア（98 ページの「Windows の再インストール」参照）を使用します。  オペレーティングシステムを再インストールした後に、『Drivers and Utilities』メディアを使用して、コンピュータに同梱のデバイスドライバを再インストールします。 オペレーティングシステムの Product key（プロダクトキー）ラベルは、コンピュータに貼付されています。 **メモ：**メディアの色は、ご注文のオペレーティングシステムによって異なります。

2

お使いのコンピュータについて

正面図



1	ディスプレイラッチ	2	ディスプレイ	3	電源ボタン
4	デバイスステータスライト	5	スピーカ（2）	6	キーボード
7	タッチパッド	8	タッチパッドボタン / トラックスティックボタン	9	トラックスティック
10	キーボードステータスライト	11	ボリュームコントロールボタン	12	ミュートボタン
13	環境照明センサー				

ディスプレイラッチ — ディスプレイを閉じておくために使用します。

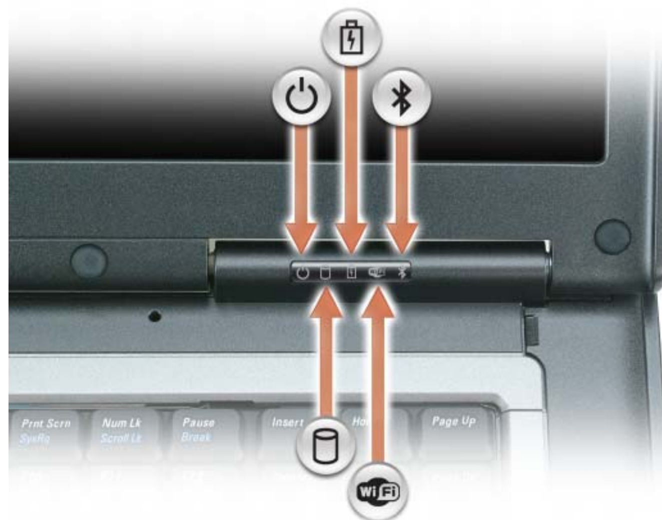
ディスプレイ — ディスプレイの詳細については、43 ページの「ディスプレイの使い方」を参照してください。

電源ボタン — コンピュータに電源を入れるか、または 省電力モード（29 ページの「省電力モード」参照）を終了するときに、電源ボタンを押します。

注意 : データの損失を防ぐため、コンピュータの電源を切る際は、電源ボタンを押すのではなく、Microsoft® Windows® オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。

コンピュータが応答しなくなった場合、コンピュータの電源が完全に切れるまで、電源ボタンを押し続けます（数秒かかることがあります）。

デバイスステータスライト



 コンピュータに電源を入れると点灯し、コンピュータが省電力モードに入っている際は点滅します。

 コンピュータがデータを読み取ったり、書き込んだりしている場合に点灯します。

 **注意 :** データの損失を防ぐため、 のライトが点滅している間は、絶対にコンピュータの電源を切らないでください。

 バッテリが充電状態の場合、常時点灯、または点滅します。

 ワイヤレスデバイスが有効になると点灯します。WiFi を有効または無効にするには、コンピュータ左側面のワイヤレススイッチを使用します。

 Bluetooth® ワイヤレステクノロジが有効になっている場合に点灯します。Bluetooth ワイヤレステクノロジを有効または無効にするには、コンピュータ左側面のワイヤレススイッチを使用します。

メモ : Bluetooth ワイヤレステクノロジは、お使いのコンピュータのオプション機能です。コンピュータと共に Bluetooth ワイヤレステクノロジをご注文になった場合にのみ、 アイコンが有効になります。詳細に関しては、Bluetooth ワイヤレステクノロジに付属のマニュアルを参照してください。

コンピュータがコンセントに接続されている場合、 のライトは次のように動作します。

– 緑色の点灯 — バッテリが充電中です。
– 緑色の点滅 — バッテリが充電完了しました。
– 消灯 — バッテリが十分に充電されています（または、バッテリの充電に外部電源を使用できません）。

コンピュータをバッテリで作動している場合、 のライトは次のように動作します。

– 消灯 — バッテリが十分に充電されています（または、コンピュータの電源が切れています）。
– 橙色の点滅 — バッテリの充電残量が低下しています。
– 橙色の点灯 — バッテリの充電残量が非常に低下しています。

スピーカ — 内蔵スピーカの音量を調節するには、ボリュームコントロールボタンまたはミュートボタンを押します。

キーボード — キーボードにはテンキーパッドや、Windows のロゴキーなどが含まれています。お使いのコンピュータがサポートするキーボードショートカットの機能に関しては、33 ページの「テンキーパッド」を参照してください。

タッチパッド — マウスの機能と同じように使うことができます。詳細に関しては、35 ページの「タッチパッド」を参照してください。

タッチパッド / トラックスティックボタン — マウスの機能と同じように使うことができます。詳細に関しては、35 ページの「タッチパッド」を参照してください。

トラックスティック — マウスの機能と同じように使うことができます（36 ページの「タッチパッドおよびトラックスティックのカスタマイズ」を参照）。

指紋リーダー（オプション）— お使いの Dell™ コンピュータのセキュリティ保護をサポートします。指紋リーダーの上で指をスライドさせると、ユーザー固有の指紋を読み取り身元確認が行われます。指紋リーダーを制御するセキュリティ管理ソフトウェアの有効化と使い方に関しては、61 ページの「コンピュータのセキュリティ保護」を参照してください。

キーボードステータスライト



キーボードの上にある緑色のライトの示す意味は、以下のとおりです。

テンキーパッドが有効になると点灯します。

英字が常に大文字で入力される機能が有効になると点灯します。

Scroll Lock 機能が有効になると点灯します。

ボリュームコントロールボタン — これらのボタンを押してスピーカの音量を調節します。

ミュートボタン — このボタンを押してスピーカの音をオフにします。

環境照明センサー — ディスプレイの輝度を制御するのに使用します。詳細に関しては、46 ページの「環境照明センサーの使い方」を参照してください。

左側面図



1	セキュリティケーブルスロット	2	通気孔	3	IEEE 1394 コネクタ
4	オーディオコネクタ	5	ExpressCard スロット	6	ワイヤレススイッチ
7	Wi-Fi Catcher™ light	8	PC カードスロット	9	スマートカードスロット

セキュリティケーブルスロット — 市販の盗難防止用品をコンピュータに取り付けることができます。詳細に関しては、61 ページの「セキュリティケーブルロック」を参照してください。

 **注意 :** 盗難防止デバイスを購入する前に、セキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通気孔 — コンピュータは内蔵ファンを使って、通気孔から空気が流れるようになっています。これによって、コンピュータがオーバーヒートすることを防ぎます。

 **警告 : 通気孔を塞いだり、物を押し込んだり、埃や異物が入ったりすることがないようにしてください。コンピュータの稼動中は、ブリーフケースの中など空気の流れの悪い環境に Dell™ コンピュータを置かないでください。空気の流れを妨げると、火災の原因になったり、コンピュータに損傷を与えたりする恐れがあります。**

 **メモ :** コンピュータは熱を持った場合にファンを動作させせます。ファンからノイズが聞こえる場合がありますが、これは一般的な現象で、ファンやコンピュータに問題が発生したわけではありません。

IEEE 1394 コネクタ — デジタルビデオカメラのような、IEEE 1394 高速転送率をサポートするデバイスを接続します。

オーディオコネクタ



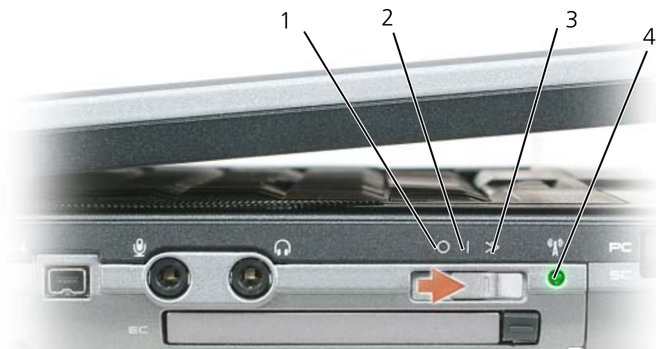
のコネクタにはヘッドフォンを接続します。

のコネクタにはマイクを接続します。

EXPRESSCARD スロット — PCI ExpressCard（34 mm または 54 mm）または USB ベースの ExpressCard をサポートします（57 ページの「カードの使い方」を参照）。

ワイヤレススイッチ — WiFi や Bluetooth ワイヤレステクノロジの内蔵カードなど、ワイヤレスデバイスの電源オンおよびオフ、および WiFi ネットワークの取り込みを行います。ワイヤレスネットワークのスキャンの詳細に関しては、56 ページの「Dell™ Wi-Fi Catcher™ ネットワークロケータ」を参照してください。

 **メモ :** ワイヤレススイッチは、モバイルブロードバンドネットワークや Bluetooth テクノロジの内蔵カードを使用したネットワークは検出しません。



1	「オフ」の位置	2	「オン」の位置	3	「一時的」の位置
4	Wi-Fi Catcher ライト				

ワイヤレススイッチの位置

「オフ」	ワイヤレスデバイスを無効にします。
「オン」	ワイヤレスデバイスを有効にします。
「一時的」	WiFi ネットワークを取り込みます。詳細に関しては、56 ページの「Dell™ Wi-Fi Catcher™ ネットワークロケータ」を参照してください。

WI-FI CATCHER™ ライト — ライトは、次のように動作します。

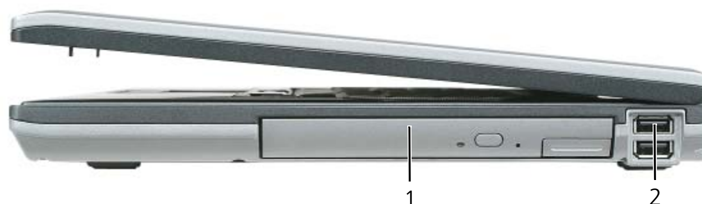
– 緑色の点滅 — ネットワークを検索中です
– 緑色の点灯 — 強いネットワークが見つかりました
– 黄色の点灯 — 弱いネットワークが見つかりました
– 黄色の点滅 — エラー
– 消灯 — 信号は見つかりませんでした

 **メモ :** Dell Wi-Fi Catcher ネットワークロケータのライトは、コンピュータがオフで、ワイヤレスネットワークがセットアップユーティリティで有効に設定されている場合に点灯します。Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用して作業をしている間は、このライトは点灯しません。

PC カードスロット — モデムまたはネットワークアダプタなどの PC カードを 1 枚サポートします。コンピュータにほこりが入るのを防ぐため、コンピュータはスロットにダミーカードが取り付けられた状態で出荷されています。詳細に関しては、57 ページの「カードの使い方」を参照してください。

スマートカードスロット — スマートカードを 1 枚サポートします（61 ページの「スマートカード」を参照）。

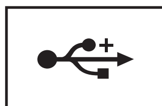
右側面図



1	メディアベイ	2	USB コネクタ（2）

メディアベイ — フロッピードライブ、光学ドライブ、セカンドバッテリ、またはセカンドハードディスクドライブをサポートします（104 ページの「メディアベイ」を参照）。

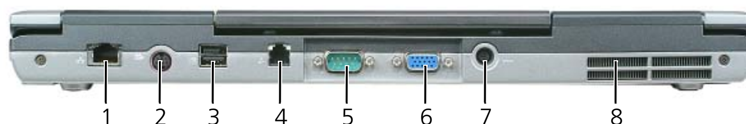
USB コネクタ



マウス、キーボード、またはプリンタなどの USB デバイスをコンピュータに接続します。

背面図

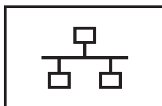
⚠ **警告：通気孔を塞いだり、物を押し込んだり、埃や異物が入ったりすることがないようにしてください。コンピュータの稼動中は、ブリーフケースの中など空気の流れの悪い環境にコンピュータを置かないでください。空気の流れを妨げると、火災の原因になったり、コンピュータに損傷を与えたりする恐れがあります。**



1	ネットワークコネクタ（RJ-45）	2	S ビデオ TV 出力コネクタ	3	パワード USB コネクタ
4	モデムコネクタ（RJ-11）	5	シリアルコネクタ	6	ビデオコネクタ
7	AC アダプタコネクタ	8	通気孔		

ネットワーク コネクタ（RJ-45）


注意 : ネットワークコネクタは、モデムコネクタよりも若干大きめです。コンピュータの損傷を防ぐため、電話回線をネットワークコネクタに接続しないでください。



コンピュータをネットワークに接続します。コネクタの横にある 2 個のライトは、ワイヤネットワーク接続のステータスと活動状況を示します。

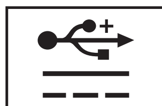
ネットワークアダプタの使い方に関しては、コンピュータに付属しているデバイスのユーザーズガイドをご覧ください（49 ページの「ネットワークまたはブロードバンドモデムケーブルの接続」を参照）。

S ビデオ TV 出力コネクタ



コンピュータを TV に接続します。

パワード USB 2.0 コネクタ



マウス、キーボード、またはプリンタなどの USB 2.0 準拠デバイスをコンピュータに接続します。5 V より大きい電力を必要とする周辺機器にも使用できます。

モデムコネクタ（RJ-11）



電話線をモデムコネクタに接続します（オプションの内蔵モデムを注文した場合）。

モデムの使い方の詳細については、コンピュータに付属のオンラインモデムのマニュアルを参照してください（9 ページの「情報の検索方法」を参照）。

シリアルコネクタ



マウスまたはハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスを接続します。

ビデオコネクタ



モニタなどのビデオデバイスを接続します。

AC アダプタコネクタ — AC アダプタをコンピュータに接続します。



AC アダプタは AC 電力をコンピュータに必要な DC 電力へと変換します。AC アダプタは、コンピュータの電源のオンまたはオフにかかわらず接続できます。

 **警告 : AC アダプタは世界各国のコンセントに適合しています。ただし、電源コネクタおよび電源タップは国によって異なります。互換性のないケーブルを使用したり、ケーブルを不適切に電源タップまたはコンセントに接続したりすると、火災の原因になったり、装置に損傷を与えたりする恐れがあります。**

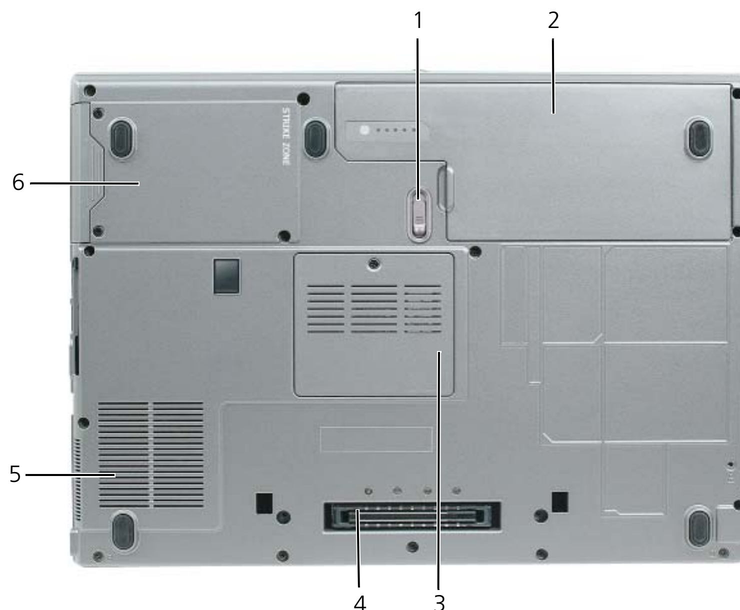
 **注意 :** ケーブルの損傷を防ぐため、AC アダプタケーブルをコンピュータから外す場合は、コネクタを持ち（ケーブル自体を引っ張らないでください）、しっかりと、かつ慎重に引き抜いてください。AC アダプタケーブルをまとめる場合、ケーブルの損傷を防ぐため、AC アダプタのコネクタの角度に従ってください。

通気孔 — コンピュータは内蔵ファンを使って、通気孔から空気が流れるようになっています。これによって、コンピュータがオーバーヒートすることを防ぎます。

 **警告 : 通気孔を塞いだり、物を押し込んだり、埃や異物が入ったりすることがないようにしてください。コンピュータの稼動中は、ブリーフケースの中など空気の流れの悪い環境にコンピュータを置かないでください。空気の流れを妨げると、火災の原因になったり、コンピュータに損傷を与えたりする恐れがあります。**

 **メモ :** コンピュータは熱を持った場合にファンを動作させます。ファンからノイズが聞こえる場合がありますが、これは一般的な現象で、ファンやコンピュータに問題が発生したわけではありません。

底面図



1	バッテリベイリリースラッチ	2	バッテリ	3	メモリモジュールカバー
4	ドッキングデバイスコネクタ	5	ファン通気孔	6	ハードディスクドライブ

バッテリベイリリースラッチ — バッテリを取り外します。手順に関しては、31 ページの「バッテリの交換」を参照してください。

バッテリ — バッテリを取り付けると、コンセントに接続しなくてもコンピュータを使うことができます（27 ページの「バッテリの使い方」を参照）。

メモリモジュールカバー — セカンドメモリモジュールの実装部のカバーです（109 ページの「メモリ」を参照）。

ドッキングデバイスコネクタ — メディアベースまたはその他のドッキングデバイスをコンピュータに取り付けます。詳細については、ドッキングデバイスに付属のデルマニュアルを参照してください。

ファンの通気孔 — コンピュータは内蔵ファンを使って、ファン通気孔から空気が流れるようになっています。これによって、コンピュータがオーバーヒートするのを防止します。

警告 : 通気孔を塞いだり、物を押し込んだり、埃や異物が入ったりすることがないようにしてください。コンピュータの稼動中は、ブリーフケースの中など空気の流れの悪い環境にコンピュータを置かないでください。空気の流れを妨げると、火災の原因になったり、コンピュータに損傷を与えたりする恐れがあります。

メモ : コンピュータは熱を持った場合にファンを動作させます。ファンからノイズが聞こえる場合がありますが、これは一般的な現象で、ファンやコンピュータに問題が発生したわけではありません。

ハードドライブ — ソフトウェアおよびデータを保存します。

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft® Windows® のオペレーティングシステムでは、転送元のコンピュータから新しいコンピュータにデータを転送するためのファイルと設定の転送ウィザードを提供しています。下記のデータが転送できます。

- E- メールメッセージ
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。



メモ : 情報を元のコンピュータから新しいコンピュータに転送するには、シリアルケーブルを 2 台のコンピュータの入力 / 出力（I/O）ポートに直接接続します。データをシリアル接続を介して転送するには、コントロールパネルからネットワーク接続ユーティリティにアクセスして、詳細設定接続の設定、およびホストコンピュータやゲストコンピュータの指定など、追加の設定手順を実行する必要があります。

2 台のコンピュータで直接ケーブルを設置する手順に関しては、マイクロソフトのウェブサイトにて「直接ケーブル接続を構成する方法」という文書を参照してください。この情報は、特定の国では使用できない場合もあります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、ファイルと設定の転送ウィザードを実行する必要があります。このプロセスを実行するには、オプションの『オペレーティングシステム』メディアを使用するか、またはファイルと設定の転送ウィザードからウィザードディスクを作成することができます。

オペレーティングシステムメディアを使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合



メモ : この手順では、『オペレーティングシステム』メディアが必要となります。このメディアはオプションなので、必ずしもすべてのコンピュータに付属しているとは限りません。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1. **ファイルと設定の転送ウィザード**
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか ?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックして、**次へ** をクリックします。
5. **古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このとき、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム』メディアを挿入します。
2. **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択** で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で **転送元の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。

7 **何を転送しますか ?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1 新しいコンピュータの **古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。

2 **ファイルと設定はどこにありますか ?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータにコピーします。

設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

オペレーティングシステムメディアを使用せずにファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

『オペレーティングシステム』メディアを使用せずに、ファイルと設定の転送ウィザードを実行するには、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアに生成できるウィザードディスクを作成する必要があります。

ウィザードディスクを作成するには、Windows XP を搭載した新しいコンピュータを使用して、以下の手順を実行します。

1 **スタート** → **ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。

2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。

3 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** → **次へ** をクリックします。

4 **Windows XP CD がありますか ?** 画面で、**ウィザードディスクを次のドライブに作成** → **次へ** をクリックします。

5 書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアを挿入して、**OK** をクリックします。

6 ディスク作成が完了したら、元のコンピュータに移動してください というメッセージが表示されますが、**次へ** はクリックしないでください。

7 元のコンピュータに移動します。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1 元のコンピュータで、ウィザードディスクを挿入します。

2 **スタート** → **ファイル名を指定して実行** をクリックします。

3 **ファイル名を指定して実行** ウィンドウの **名前** フィールドで、**fastwiz**（該当するリムーバブルメディア）へのパスを参照して入力し **OK** をクリックします。

4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。

5 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で **転送元の古いコンピュータ** → **次へ** をクリックします。

6 **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。

7 **何を転送しますか ?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1 新しいコンピュータの **古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。

2 **ファイルと設定はどこにありますか ?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。画面の指示に従います。

ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータにコピーします。

設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

3 **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Transfer files and settings**（ファイルと設定の転送）→ **Start Windows Easy Transfer**（Windows 転送ツールを開始します）をクリックします。

2 **User Account Control**（ユーザーアカウントの管理）ダイアログボックスで、**Continue**（続行）をクリックします。

3 **Start a new transfer**（新しい転送を開始する）あるいは **Continue a transfer in progress**（実行中の転送を続行する）をクリックします。

Windows 簡易転送ウィザードで、画面に表示される手順に従います。

3

バッテリの使い方

バッテリの性能

メモ：デルの保証情報に関しては、『サービス & サポートのご案内』を参照してください。

コンピュータの性能を最大に保ち BIOS の設定を保持するため、Dell™ ノートブックコンピュータは、常にメインバッテリを搭載した状態でお使いください。バッテリベイにはバッテリが 1 つ、標準で搭載されています。

メモ：バッテリはフル充電されていない場合がありますので、コンピュータを初めて使用するときは、AC アダプタを使って新しいコンピュータをコンセントに接続してください。充分な駆動時間を得るには、バッテリがフル充電されるまで、AC アダプタを使ってコンピュータを動作させます。バッテリ充電ステータスを表示するには、**コントロールパネル** → **電源オプション** にアクセスし、**電源メーター** タブをクリックします。

メモ：バッテリ駆動時間（バッテリが電力を供給できる時間）は、時間の経過に従って短くなります。バッテリの使用頻度および使用状況によって駆動時間が変わるので、コンピュータの寿命がある間でも新しくバッテリを購入する必要がある場合もあります。

バッテリの動作時間は、使用状況によって異なります。オプションのセカンドバッテリをメディアベイに取り付けると、動作時間を大幅に長くすることができます。

次のような場合、バッテリの持続時間は著しく短くなりますが、他の方法でも短くなる場合もあります。

- 光学ドライブを使用している場合
- ワイヤレス通信デバイス、PC カード、ExpressCard、メディアメモリカード、または USB デバイスを使用している場合
- ディスプレイの輝度を高く設定したり、3D スクリーンセーバー、または 3D ゲームなどの電力を集中的に使用するプログラムを使用したりしている場合
- 最大パフォーマンスモードで、コンピュータを実行している場合（30 ページの「電源管理の設定」を参照）

メモ：CD または DVD に書き込みをする際は、コンピュータをコンセントに接続することをお勧めします。

コンピュータにバッテリを挿入する前に、バッテリの充電チェックができます（28 ページの「バッテリの充電チェック」を参照）。バッテリの充電量が少なくなると、警告を発するように電力の管理オプションを設定することもできます（30 ページの「電源管理の設定」を参照）。

警告：適切でないバッテリを使用すると、火災または爆発を引き起こす可能性があります。交換するバッテリは、必ずデルが販売している適切なものをお使いください。リチウムイオンバッテリは、お使いの Dell コンピュータで動作するように設計されています。お使いのコンピュータに別のコンピュータのバッテリを使用しないでください。

警告：バッテリを家庭用のごみと一緒に捨てないでください。不要になったバッテリは、貴重な資源を守るために廃棄しないで、デル担当窓口：デル PC リサイクルデスク（個人のお客様：044-556-4298、企業のお客様：044-556-3481）へお問い合わせください。『製品情報ガイド』にある「バッテリの廃棄」を参照してください。

 **警告：バッテリの取り扱いを誤ると、火災や化学燃焼を引き起こす可能性があります。バッテリに穴をあけたり、燃やしたり、分解したり、または温度が 65 ℃ を超える場所に置いたりしないでください。バッテリはお子様の手の届かないところに保管してください。損傷のあるバッテリ、または漏れているバッテリの取り扱いには、特に気を付けてください。バッテリが損傷していると、セルから電解液が漏れ出し、けがをしたり装置を損傷したりする恐れがあります。**

バッテリの充電チェック

Dell QuickSet バッテリメーター、Microsoft Windows **電源メーター** ウィンドウとバッテリメーターアイコン（ または ）、バッテリ電源ゲージと機能ゲージ、およびバッテリの低下を知らせる警告は、バッテリ充電の情報を提供します。

Dell™ QuickSet バッテリメーター

Dell QuickSet がインストールされている場合は、<Fn><F3> を同時に押して QuickSet バッテリメーターを表示します。バッテリメーターには、お使いのコンピュータのバッテリのステータス、バッテリ性能、充電レベル、および充電完了時間が表示されます。

QuickSet の詳細に関しては、Microsoft® Windows® タスクバーの QuickSet アイコンをクリックし、次に **ヘルプ** をクリックします。

Microsoft® Windows® 電源メーター

Windows の電源メーターは、バッテリの充電残量を示します。電源メーターを確認するには、タスクバーのバッテリメーターアイコン（ または ）をダブルクリックします。

コンピュータがコンセントに接続されている場合、 アイコンが表示されます。

充電ゲージ

バッテリの充電ゲージにあるステータスボタンを一度押すかまたは押し続けると、次のことが確認できます。

- バッテリの充電量（ステータスボタンを短く押して確認します）
- バッテリ性能（ステータスボタンを押し続けて確認します）

バッテリの動作時間は、充電される回数によって大きく左右されます。充放電を何百回も繰り返すと、バッテリの充電機能またはバッテリ性能は次第に低下します。つまり、バッテリに「充電済み」のステータスが表示されても、充電容量（性能）は低下したままの場合があります。

バッテリの充電チェック

バッテリの充電量をチェックするには、充電ゲージにあるステータスボタンを短く押すと、充電レベルライトが点灯します。各々のライトはバッテリの総充電量の約 20 % を表します。たとえば、バッテリの充電残量が 80 % なら 4 つのライトが点灯します。どのライトも点灯していない場合、バッテリの充電残量が残っていないことになります。

バッテリ性能のチェック

 **メモ：**バッテリ性能は、下記に示すように、バッテリの充電ゲージを使用するか、Dell QuickSet のバッテリメーターを使用してチェックすることができます。QuickSet の詳細に関しては、Microsoft® Windows® タスクバーの QuickSet アイコンを右クリックし、次に **ヘルプ** をクリックします。

充電ゲージを使用してバッテリ性能をチェックするには、バッテリ充電ゲージのステータスボタンを 3 秒以上押し続けます。どのライトも点灯しない場合、バッテリの機能は良好で、初期の充電容量の 80 % 以上を維持しています。各ライトは機能低下の割合を示します。ライトが 5 つ点灯した場合、バッテリの充電容量は 60 % 以下になっていますので、バッテリを交換することをお勧めします。バッテリの動作時間の詳細に関しては、125 ページの「仕様」を参照してください。

バッテリの低下を知らせる警告

 **注意 :** データの損失またはデータの破損を防ぐため、バッテリの低下を知らせる警告音が鳴ったら、すぐに作業中のファイルを保存してください。次に、コンピュータをコンセントに接続します。バッテリの充電残量が完全になくなると、自動的に休止状態 モードに入ります。

デフォルトでは、ポップアップウィンドウの警告は、バッテリの全充電量の約 90 % を消費した時点で発せられます。バッテリアラームの設定は、QuickSet または **電源オプションのプロパティ** ウィンドウで変更できます。QuickSet または電源オプションのプロパティウィンドウへのアクセスの詳細に関しては、30 ページの「電源管理の設定」を参照してください。

バッテリ電源の節約

バッテリ電源を節約するには次の手順を実行してください。

- バッテリの寿命は、使用および充電される回数によって大きく異なってきますので、コンピュータはできるだけコンセントに接続してお使いください。
- 長時間コンピュータから離れるときは、コンピュータをスタンバイモードまたは休止状態モードにしてください（29 ページの「省電力モード」を参照）。
- 電源の管理ウィザードを使用してコンピュータの電力消費を最適化するオプションを選択してください。電源ボタンを押してディスプレイを閉じるか、または <Fn><Esc> を押すと、これらのオプションの設定を変更することができます。

 **メモ :** バッテリ電力を節約する方法に関する詳細は、29 ページの「省電力モード」を参照してください。

省電力モード

スタンバイモード

スタンバイモードは、あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないでおくと（タイムアウト）、ディスプレイとハードディスクドライブの電源を切ることによって電力を節約するモードです。スタンバイモードを終了すると、コンピュータはスタンバイモードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

 **注意 :** スタンバイモードのときに AC 電源が切れたりバッテリを使い切ってしまうと、データを損失する恐れがあります。

スタンバイモードを起動するには、以下の手順を実行します。

- **スタート** → **シャットダウン** → **スタンバイ** をクリックします。

  または

- **電源オプションのプロパティ** ウィンドウまたは QuickSet 電源の管理ウィザードで電源の管理オプションをどのように設定したかによって、次のいずれかの方法が使用されます。
  - 電源ボタンを押す
  - ディスプレイを閉じる
  - <Fn><Esc> を押す

スタンバイモードから通常の動作状態に戻るには、電源の管理オプションの設定に応じて電源ボタンを押すか、ディスプレイを開きます。キーを押したり、タッチパッドやトラックスティックに触れてもコンピュータはスタンバイモードから復帰しません。

休止モード

休止状態モードでは、システム情報をハードディスクドライブの予約領域にコピーしてから、コンピュータの電源を切ることによって電力を節約します。休止状態モードから復帰すると、コンピュータは休止状態モードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

 **注意 :** お使いのコンピュータが休止状態モードに入っている場合、コンピュータからデバイスまたはドッキングデバイスを取り外すことはできません。

バッテリの充電レベルが極端に低くなった場合、コンピュータは休止状態モードに入ります。

手動で休止状態モードを起動するには、以下の手順を実行します。

- **スタート** → **終了オプション** をクリックし、<Shift> を押しながら、**休止状態** をクリックします。

  または

- **電源オプションのプロパティ** ウィンドウまたは QuickSet 電源の管理ウィザードで電源の管理オプションをどのように設定しているかによって、次のいずれかの方法で休止状態モードに入ります。
  - 電源ボタンを押す
  - ディスプレイを閉じる
  - <Fn><Esc> を押す

 **メモ :** PC カードまたは ExpressCard によっては、休止状態モードから復帰した後、正常に動作しないものがあります。カードを取り出して挿入しなおすか（57 ページの「PC カードまたは ExpressCard の取り付け」を参照）、コンピュータを再起動させてください。

休止状態モードから通常の動作状態に戻るには、電源ボタンを押します。コンピュータが通常の動作状態に戻るのに、若干時間がかかることがあります。キーを押したり、タッチパッドやトラックスティックに触れてもコンピュータは休止状態モードから復帰しません。休止状態モードの詳細に関しては、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

電源管理の設定

QuickSet 電力の管理ウィザードまたは Windows 電源オプションのプロパティを使用して、お使いのコンピュータの電力管理の設定を行うことができます。

- QuickSet 電源の管理ウィザードにアクセスするには、Microsoft® Windows® タスクバーにある QuickSet アイコンをダブルクリックします。QuickSet の詳細に関しては、電源の管理ウィザードの **ヘルプ** ボタンをクリックしてください。
- **電源オプションのプロパティ** ウィンドウにアクセスするには、**スタート** → **コントロールパネル** → **パフォーマンスとメンテナンス** → **電源オプション** をクリックします。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウにあるフィールドの詳細に関しては、タイトルバーの疑問符アイコンをクリックし、知りたい情報に該当する領域をクリックします。

バッテリの充電

 **メモ：** Dell™ ExpressCharge™ を使用して、完全に切れてしまったバッテリを充電するには、コンピュータの電源が切れている場合で 80 % の充電に約 1 時間、100 % の充電に約 2 時間かかります。コンピュータの電源が入っている場合は、充電時間は長くなります。バッテリを充電したまま、コンピュータをそのままにしておいても問題ありません。バッテリの内部回路によって過剰充電が防止されます。

コンピュータをコンセントに接続したり、コンセントに接続されているコンピュータにバッテリを取り付けたりすると、コンピュータはバッテリの充電状態と温度をチェックします。その後、AC アダプタは必要に応じてバッテリを充電し、その充電量を保持します。

バッテリがコンピュータの使用中に高温になったり高温の環境に置かれたりすると、コンピュータをコンセントに接続してもバッテリが充電されない場合があります。

のライトが緑色と橙色を交互に繰り返して点滅する場合、バッテリが高温すぎて充電が開始できない状態です。コンピュータをコンセントから抜き、コンピュータとバッテリを室温に戻します。次に、コンピュータをコンセントに接続し、充電を継続します。

バッテリの問題解決の詳細に関しては、81 ページの「電源の問題」を参照してください。

バッテリの交換

 **警告：以下の手順を実行する前に、コンピュータの電源を切り、AC アダプタをコンセントとコンピュータから外し、モデムを壁のコネクタとコンピュータから外し、その他すべての外付けケーブルをコンピュータから取り外します。**

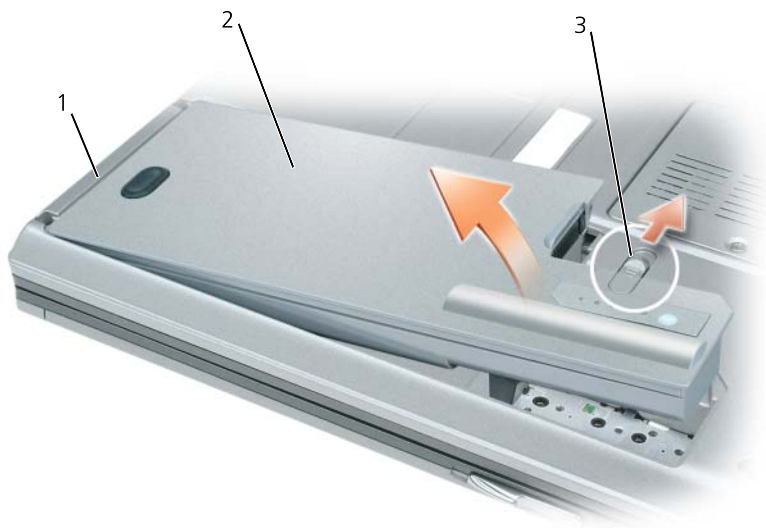
 **警告：適切でないバッテリを使用すると、火災または爆発を引き起こす可能性があります。交換するバッテリは、必ずデルが販売している適切なものをお使いください。バッテリは、お使いの Dell™ コンピュータで動作するように設計されています。お使いのコンピュータに別のコンピュータのバッテリを使用しないでください。**

 **注意：** 起こり得るコネクタの損傷を防ぐため、すべての外付けケーブルをコンピュータから取り外してください。

メディアベイにあるセカンドバッテリの交換については、104 ページの「メディアベイ」を参照してください。

バッテリを取り外すには次の手順を実行します。

1. コンピュータをドッキングデバイスに接続している場合は、ドッキングを解除します。ドッキングデバイスの手順については、付属のマニュアルを参照してください。
2. コンピュータの電源が切れていることを確認します。
3. カチッという感触が得られるまで、コンピュータ底部のバッテリベイリリースラッチをスライドさせます。
4. バッテリのタブを使って、コンピュータからバッテリを取り外します。



1	バッテリタブ	2	バッテリ	3	バッテリベイリリースラッチ

バッテリを交換する場合、バッテリをベイに置き、バッテリベイリリースラッチ部でカチッという感触が得られるまで押し下げます。

バッテリの保管

長期間コンピュータを保管する場合は、バッテリを取り外してください。バッテリは、長期間保管していると放電してしまいます。長期保管後にコンピュータをお使いになるときは、完全にバッテリを再充電してください（31 ページの「バッテリの充電」を参照）。

4

キーボードとタッチパッドの使い方

テンキーパッド



テンキーパッドは、外付けキーボードのテンキーパッドの機能と同じように使用できます。キーパッドの各キーには、複数の機能があります。キーパッドの数字と記号文字は、キーパッドキーの右側に青色で記されています。数字または記号を入力するには、<Fn> を押しながら必要なキーを押します。

- キーパッドを有効にするには、<Num Lk> を押します。 のライトが点灯すると、キーパッドが有効であることを示しています。
- キーパッドを無効にするには、もう一度 <Num Lk> を押します。

キーの組み合わせ

システム関連

<Ctrl><Shift><Esc>	**タスクマネージャ**ウィンドウを開きます。

バッテリ

<Fn><F3>	Dell™ QuickSet バッテリメーターを表示します。

ディスプレイ関連

<Fn><F7>	内蔵ディスプレイまたは外付けモニタの画面出力を全画面表示から、本来の解像度ではない標準アスペクト比に変換して中央表示に切り替えます。
<Fn><F8>	画面モードの表示を次の画面オプションに切り替えます。このオプションには、内蔵ディスプレイ、外付けモニタ、内蔵ディスプレイと外付けモニタの両方が含まれています。
<Fn> と左矢印キー	環境照明センサーを有効にします。環境照明センサーは、現在の環境下での光源レベルに基づいて、ディスプレイの輝度を制御します。
<Fn> と上矢印キー	内蔵ディスプレイの輝度を上げます（外付けモニタには適用されません）。
<Fn> と下矢印キー	内蔵ディスプレイの輝度を下げます（外付けモニタには適用されません）。

電源管理

<Fn><Esc>	省電力モードを起動します。**電源オプションのプロパティ**ウィンドウの **詳細設定** タブを使って、異なる省電力モードを起動するために、ショートカットキーの設定を変更することができます（30 ページの「電源管理の設定」を参照）。
<Fn><F1>	コンピュータを休止状態モードにします。Dell QuickSet が必要です（123 ページの「Dell™ QuickSet」を参照）。

Microsoft® Windows® ロゴキー関連

Windows ロゴキーと <m>	現在開いているすべてのウィンドウを最小化します。
Windows ロゴキーと <Shift><m>	最小化されたウィンドウを元に戻します。このキーの組み合わせは、Windows ロゴキーと <m> キーの組み合わせを使用した後で、最小化されたウィンドウを元に戻すための切り替えとして作動します。
Windows ロゴキーと <e>	Windows エクスプローラを開きます。

Windows ロゴキーと <r>	**ファイルを指定して実行** ダイアログボックスを開きます。
Windows ロゴキーと <f>	**検索結果** ダイアログボックスを開きます。
Windows ロゴキーと <Ctrl><f>	**検索結果ーコンピュータ** ダイアログボックスを開きます（ネットワークに接続している場合）。
Windows ロゴキーと <Pause>	**システムのプロパティ** ダイアログボックスを開きます。

文字の表示間隔など、キーボードの動作を調整するには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **キーボード** をクリックします。コントロールパネルの詳細については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください（**スタート** ボタンあるいは Windows Vista® スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリック）。

タッチパッド

タッチパッドは、指の圧力と動きを検知して画面のカーソルを動かします。マウスの機能と同じように、タッチパッドとタッチパッドボタンを使うことができます。



1 タッチパッド　2 指紋リーダー（オプション）　3 タッチパッドボタン

 **メモ：**コンピュータと一緒にオプションの指紋リーダーを注文された場合は、タッチパッドボタンの間に指紋リーダーが配置されています。

- カーソルを動かすには、タッチパッド上でそっと指をスライドさせます。
- オブジェクトを選択するには、タッチパッドの表面を軽く 1 回たたくか、または親指で左のタッチパッドボタンを押します。

- オブジェクトを選択して移動（またはドラッグ）するには、選択したいオブジェクトにカーソルを合わせてタッチパッドを 2 回たたきます。2 回目にたたいたときにタッチパッドから指を離さずに、そのままタッチパッドの表面で指をスライドしてオブジェクトを移動させます。
- オブジェクトをダブルクリックするには、ダブルクリックするオブジェクトにカーソルを合わせて、タッチパッド上を 2 回たたくか、または親指で左のタッチパッドボタンを 2 回押します。

トラックスティックを使ってカーソルを移動することもできます。トラックスティックを上下左右に押して、ディスプレイ上のカーソルの向きを変更します。マウスの機能と同じように、トラックスティックとトラックスティックボタンを使用します。

タッチパッドおよびトラックスティックのカスタマイズ

マウスのプロパティ ウィンドウを使って、タッチパッドおよびトラックスティックを無効にしたり、設定を調節したりすることができます。

1. **コントロールパネル** → **マウス** をクリックします。コントロールパネルについては、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。**スタート** ボタンまたは Windows Vista® スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。
2. **マウスのプロパティ** ウィンドウで、以下の手順を実行します。
   - **デバイスの選択** をクリックして、タッチパッドおよびトラックスティックを無効にします。
   - **タッチパッド** をクリックして、タッチパッドおよびトラックスティックの設定を調節します。
3. **OK** をクリックし、設定を保存してウィンドウを閉じます。

トラックスティックキャップの取り替え

トラックスティックキャップを長期に使用して磨耗した場合またはキャップを違う色にしたい場合には、取り替えることができます。



1 トラックスティックからキャップを取り外します。
2 新しいキャップを四角いトラックスティック軸に合わせ、慎重に軸にかぶせます。

注意：トラックスティックが正しく軸に装着されていない場合、トラックスティックがディスプレイに損傷を与える恐れがあります。

3 トラックスティックを動かして、キャップが正しく装着されているかを確認してください。

5

マルチメディアの使い方

CD または DVD の再生

注意 : CD または DVD のトレイを開閉する場合は、トレイの上から力を掛けないでください。ドライブを使用しないときは、トレイは閉じておいてください。

注意 : CD または DVD の再生中は、コンピュータを動かさないでください。

1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。

2 トレイを引き出します。



3 トレイの中央にラベルのある方を上にしてディスクを置き、ディスクをスピンドルにきちんとはめ込みます。

メモ : 別のコンピュータに付属しているモジュールをお使いの場合、DVD の再生やデータの書き込みに必要なドライバとソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については、『Drivers and Utilities』メディアを参照してください（『Drivers and Utilities』メディアはオプションのため、お使いのコンピュータや国によって利用できない場合があります）。

4 トレイをドライブに押し戻します。

データ保存のための CD フォーマット、ミュージック CD の作成、CD のコピーについては、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

メモ： CD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

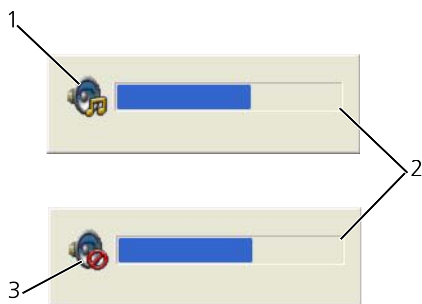
音量の調整

メモ： スピーカが無音（ミュート）に設定されている場合、CD または DVD の音声を聞くことができません。

1. **ボリューム調整** ウィンドウを開きます。
2. **ボリュームコントロール** の列にある音量つまみをクリックしてドラッグし、上下にスライドさせてボリュームを調整します。

ボリュームコントロールオプションの詳細に関しては、**ボリュームコントロール** ウィンドウの **ヘルプ** をクリックしてください。

音量メーターにミュートを含む現在のボリュームレベルが表示されます。タスクバーにある QuickSet アイコンをクリックして、**Disable On Screen Volume Meter**（画面の音量メーターを無効にする）を選択、または選択解除するか、あるいはボリュームコントロールボタンを押して、画面の音量メーターの有効または無効を切り替えます。



1	ボリュームアイコン	2	音量メーター	3	ミュートアイコン

メーターが有効の場合、音量を調節するにはボリュームコントロールボタンを使用するか、または以下のキーを押します。

- 音量を上げるには、<Fn><PageUp> を押します。
- 音量を下げるには、<Fn><PageDn> を押します。
- 音量をミュートするには、<Fn><End> を押します。

QuickSet の詳細に関しては、タスクバーにある アイコンを右クリックして、**ヘルプ** をクリックします。

画像の調整

現在設定している解像度と色数はメモリの使用量が多すぎて DVD を再生できません、というエラーメッセージが表示される場合、画面のプロパティで画像設定の調節をします。

Microsoft Windows XP

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。

2 **作業を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。

3 **画面の解像度** で、バーをクリックしてドラッグし、解像度の設定を下げます。

4 **画面の色** のドロップダウンメニューで、**中（16 ビット）**を選択し、**OK** をクリックします。

Microsoft Windows Vista® オペレーティングシステム

1 Windows Vista スタートボタン  をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）、次に **Appearance and Personalization**（デザインとカスタマイズ）をクリックします。

2 **Personalization**（カスタマイズ）で、**Adjust Screen Resolution**（画面の解像度を調整）をクリックします。

   Display Properties（画面のプロパティ）ウィンドウが表示されます。

3 Resolution:（解像度：）で、バーをクリックしドラッグして、解像度の設定を下げます。

4 **Colors:**（画面の色：）のドロップダウンメニューで、**Medium（16 bit）**（中（16 ビット））をクリックします。

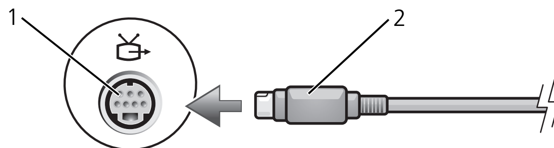
5 **OK** をクリックします。

お使いのコンピュータのテレビへの接続

メモ：テレビまたはその他のデバイスとコンピュータを接続するためのビデオケーブルは、必ずしもお使いのコンピュータに付属しているとは限りません。

お使いのコンピュータには S ビデオ TV 出力コネクタが装備されており、標準の S ビデオケーブル、コンポジットビデオアダプタケーブル、またはコンポーネントビデオアダプタケーブル（同梱されていません）を使用して、コンピュータをテレビに接続することができます。

お使いのテレビには、S ビデオ入力コネクタ、コンポジットビデオ入力コネクタ、またはコンポーネントビデオ入力コネクタのいずれかがあります。テレビで使用可能なコネクタのタイプによって、市販の S ビデオケーブル、コンポジットビデオケーブル、またはコンポーネントビデオケーブルを使用して、コンピュータをテレビに接続できます。



1	S ビデオ TV 出力コネクタ	2	S ビデオコネクタ

テレビの表示設定の有効化

メモ：ディスプレイオプションが正しく表示されるようにするには、ディスプレイ設定を有効にする前に TV をコンピュータに接続してください。

Microsoft Windows XP

1 **スタート** ボタンをクリックし、**設定** をポイントして、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **画面** をクリックして **設定** タブをクリックします。
3 **詳細** をクリックします。
4 お使いのビデオカードのタブをクリックします。

メモ：コンピュータに取り付けられたビデオカードのタイプを確認するには、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、**スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。**作業を選びます** で **ツールを使ってコンピュータ情報を表示し問題を診断する** をクリックします。次に、**マイコンピュータの情報** で **ハードウェア** を選択します。

5 表示デバイスの項で、シングルディスプレイまたはマルチディスプレイのいずれを使用するか、該当するオプションを選択し、画面設定が選択内容に対して正しいことを確認します。

Microsoft Windows Vista

1 Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）、次に **Appearance and Personalization**（デザインとカスタマイズ）をクリックします。
2 **Personalization**（カスタマイズ）で、**Adjust Screen Resolution**（画面の解像度を調整）をクリックします。

   Display Properties（画面のプロパティ）ウィンドウが表示されます。

3 **Advanced**（詳細）をクリックします。
4 お使いのビデオカードのタブをクリックします。

メモ：コンピュータに取り付けられたビデオカードのタイプを確認するには、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows Vista でヘルプとサポートセンターにアクセスするには、Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。**Pick a Task**（作業を選びます）で **Use Tools to view your computer information and diagnose problems**（ツールを使ってコンピュータ情報を表示し問題を診断する）をクリックします。次に、**My Computer Information**（マイコンピュータの情報）で **Hardware**（ハードウェア）を選択します。

5 表示デバイスの項で、シングルディスプレイまたはマルチディスプレイのいずれを使用するか、該当するオプションを選択し、画面設定が選択内容に対して正しいことを確認します。

6

ディスプレイの使い方

輝度の調節

Dell™ コンピュータがバッテリで動作している場合、<Fn> とキーボードの上下矢印キーを押して、ディスプレイの輝度を快適に使用できる最低の設定にして節電することができます。



メモ : 輝度キーの組み合わせは、お使いのノートブックコンピュータのディスプレイにのみ設定され、コンピュータ本体やドッキングデバイスに接続された外付けモニタまたはプロジェクタには有効ではありません。お使いのコンピュータが外付けモニタを接続している場合に、輝度レベルの変更を行っても、輝度メーターは表示されますが、外付けデバイスの輝度レベルは変更されていません。

次のキーを押すと、ディスプレイの輝度を調節できます。

- <Fn> と上矢印キーを同時に押すと、内蔵ディスプレイのみ（外付けモニタは該当しません）輝度が上がります。
- <Fn> と下矢印キーを押すと、内蔵ディスプレイのみ（外付けモニタは該当しません）の輝度が下がります。

お使いのコンピュータディスプレイからプロジェクタにビデオイメージを切り替える

外付けデバイス（外付けモニタまたはプロジェクタなど）を取り付け、それらの電源を入れてコンピュータを起動すると、コンピュータのディスプレイまたは外付けデバイスのいずれかに画像が表示されます。

<Fn><F8> を押して画面モードの表示をディスプレイのみ、外付けデバイスのみ、またはディスプレイと外付けデバイスの同時表示に切り替えます。

イメージとテキストを画面で拡大する、またははっきり表示する：画面解像度とリフレッシュレートの設定



メモ : 画面解像度を現在の設定から変更する場合、お使いのコンピュータやディスプレイでサポートしていない設定に解像度を変更すると、イメージがぼやけたり、テキストが読みにくくなることがあります。現在の設定値を控えておき、必要な場合に元の設定値に戻すことができるようにしてから、ディスプレイの設定を変更してください。

画面解像度を調整して、画面上のテキストを読みやすくしたり、イメージの表示を変更することが可能です。解像度を上げると、画面上のアイテムの表示が小さくなります。逆に、解像度を低くすると、テキストやイメージの表示が大きくなるので、視力に障害を持つ方には有用です。特定の解像度でプログラムを表示するには、ビデオカードとディスプレイの両方がプログラムをサポートしていて、さらに、必要なビデオドライバがインストールされている必要があります。



メモ : プリインストールされているビデオドライバは、お使いのコンピュータの性能を最大限に活用できるよう設計されています。

画面のサポートする範囲よりも高い解像度またはカラーパレットを選択した場合、サポートされている設定に最も近いものに自動的に調整されます。

ディスプレイの画面解像度とリフレッシュレートを設定する場合は、お使いのコンピュータが使用しているオペレーティングシステムに対応する次の項の手順を実行します。

Microsoft® Windows® XP

1 **スタート** → **設定** → **コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** にある、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
3 **作業を選びます** で、変更したい項目をクリックします。**またはコントロールパネルを選んで実行します** で、**画面** をクリックします。
4 **画面のプロパティ** ウィンドウで **設定** タブをクリックします。
5 **画面の色** と **画面の解像度** で、別の設定にしてみます。


メモ : 解像度を上げると、画面上でより小さくアイコンやテキストが表示されます。

Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン → **Control Panel**（コントロールパネル）をクリックします。
2 **Appearance and Personalization**（デザインとカスタマイズ）で、**Adjust screen resolution**（画面の解像度を調整）をクリックします。
3 **Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウの **Resolution**（解像度）で、スライドバーを左または右にスライドさせて画面の解像度を下げたり上げたりします。
4 その他の手順に関しては、**How do I get the best display?**（最高の表示を行う方法）をクリックします。

ビデオ解像度の設定が画面のサポートする範囲よりも高い場合、コンピュータはパンモードに入ります。パンモードでは、ビデオイメージ全体を一度に表示することはできません。通常はデスクトップの下部に表示されるタスクバーが表示されなくなる場合があります。表示されていないビデオイメージ部分を表示するには、タッチパッドやトラックスティックを使用してイメージを上下、左右へ「パン表示」（または移動）します。


注意 : 外付けモニタでサポートされていないリフレッシュレートを使用すると、モニタに損傷を与える恐れがあります。外付けモニタのリフレッシュレートを調整する前に、モニタのユーザーズガイドを参照してください。

外付けモニタをコンピュータディスプレイの拡張として同時に使用する

外付けモニタやプロジェクタをコンピュータに取り付けたり、お使いのディスプレイの拡張として使用できます（「デュアルディスプレイ」または「拡張デスクトップ」モードとも呼ばれます）。このモードでは、両方の画面を独立して使用することができ、1 つの画面からもう一方の画面へオブジェクトをドラッグできます。視覚作業スペースが事実上二倍になります。

拡張デスクトップモードを使用する場合は、お使いのコンピュータが使用しているオペレーティングシステムに対応する次の項の手順を実行します。

Microsoft® Windows® XP

1 外付けモニタ、TV、またはプロジェクタをコンピュータに接続します。
2 **スタート** → **設定** → **コントロールパネル** をクリックします。

3 **作業する分野を選びます** にある、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。

4 **作業を選びます** で、変更したい項目をクリックします。**またはコントロールパネルを選んで実行します** で、**画面** をクリックします。

5 **画面のプロパティ** ウィンドウで **設定** タブをクリックします。



メモ： 画面のサポートする範囲よりも高い解像度またはカラーパレットを選択した場合、サポートされている設定に最も近いものに自動的に調整されます。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

6 モニタ 2 アイコンをクリックし、**Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする** チェックボックスをクリックして **適用** をクリックします。

7 両方の画面を適切なサイズにするために、**画像の解像度** を変更して、**適用** をクリックします。

8 コンピュータを再起動するよう指示された場合、**再起動せずに新しい表示設定を適用する** をクリックし、**OK** をクリックします。

9 必要に応じて、**OK** をクリックし、デスクトップのサイズを変更します。

10 必要に応じて、**はい** をクリックし、設定を保存します。

11 **OK** をクリックして、**画面のプロパティ** ウィンドウを閉じます。

デュアルディスプレイモードを無効にするには、以下の手順を実行します。

1 **画面のプロパティ ウィンドウの設定** タブをクリックします。

2 モニタ 2 のアイコンをクリックし、**Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする** オプションのチェックを外して **適用** をクリックします。

必要に応じて <Fn><F8> を押し、コンピュータの元の画面に戻します。

Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）をクリックします。

2 **Appearance and Personalization**（デザインとカスタマイズ）で、**Adjust screen resolution**（画面の解像度を調整）をクリックします。

3 **Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウで、モニタ 2 のアイコンをクリックし、**Extend the desktop onto this monitor**（デスクトップをこのモニタに拡張する）チェックボックスをクリックしてから、**Apply**（適用）をクリックします。

4 **OK** をクリックして、**Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウを閉じます。

拡張デスクトップモードを無効にするには、次の手順を実行します。

1 **Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウで、**Settings**（設定）タブをクリックします。

2 モニタ 2 のアイコンをクリックし、**Extend the desktop onto this monitor**（デスクトップをこのモニタに拡張する）オプションのチェックを外して **Apply**（適用）をクリックします。

外付けモニタをプライマリディスプレイとして使用する：プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの入れ替え

プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの設定を切り替えるには（外付けモニタをドッキングしてプライマリディスプレイとして使用する場合など）、お使いのコンピュータが使用しているオペレーティングシステムに対応する次の項の手順を実行します。

Microsoft® Windows® XP

1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** にある、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
3 **作業を選びます** で、変更したい項目をクリックします。**またはコントロールパネルを選んで実行します** で、**画面** をクリックします。
4 **設定** タブをクリックし、モニタ **1** または モニタ **2** アイコンを選択して、次に **適用** をクリックします。

Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン をクリックし、**Control Panel**（コントロールパネル）をクリックします。
2 **Appearance and Personalization**（デザインとカスタマイズ）で、**Adjust screen resolution**（画面の解像度を調整）をクリックします。
3 **Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウで、モニタ 2 のアイコンをクリックし、**This is my main monitor**（メインのモニタとして設定する）チェックボックスをクリックしたら、**Apply**（適用）をクリックします。
4 **OK** をクリックして、**Display Settings**（ディスプレイの設定）ウィンドウを閉じます。

環境照明センサーの使い方

環境照明センサーは、コンピュータディスプレイの前面に設置されています。このセンサーは、利用可能な環境照明を検知し、ディスプレイの背面ライトを自動的に増減して、環境照明の高低を補正します。

<Fn> と左矢印キーを同時に押すと、環境照明センサーの機能を有効または無効にすることができます。



メモ : 環境照明センサーに粘着ラベルを貼らないでください。環境照明センサーを覆ってしまうと、（有効な場合）センサーは自動的にディスプレイの輝度を最小レベルに設定します。



1　環境照明センサー

コンピュータの出荷時には、環境照明センサーは無効に設定されています。センサーを有効にしてから、ディスプレイの輝度を調整するキーの組み合わせを使用した場合、センサーは無効になり、ディスプレイの輝度はキーの組み合わせに応じて増減されます。

Dell™ QuickSet を使用すると、環境照明センサーの機能を有効あるいは無効に設定できます。QuickSet では、環境照明センサー機能が有効な場合、アクティブになっている最大輝度および最小輝度の設定も調整できます。QuickSet の詳細に関しては、タスクバーにある QuickSet アイコンを右クリックして、**ヘルプ** をクリックしてください。

 **メモ：**コンピュータを再起動すると、環境照明センサーは調整前の設定（有効または無効のいずれか）に戻ります。

 **メモ：**環境照明センサーは、お使いのノートブックコンピュータの輝度のみを調節します。外付けのモニタまたはプロジェクタの輝度は制御しません。

7

ネットワークのセットアップと使い方

ネットワークまたはブロードバンドモデムケーブルの接続

コンピュータをネットワークに接続する前に、お使いのコンピュータにネットワークアダプタが取り付けられていて、ネットワークケーブルが接続されている必要があります。

1 ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

メモ：ケーブルコネクタをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引いて、ケーブルがしっかり取り付けられていることを確認します。

2 ネットワークケーブルのもう一方の端を、ネットワーク接続デバイスまたは壁のネットワークコネクタに接続します。

メモ：ネットワークケーブルを電話ジャックに接続しないでください。



Microsoft® Windows® XP でのネットーワークのセットアップ

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** → **ネットワークセットアップウィザード** → **次へ** → **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ：インターネットに直接接続している と表示された接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack 2（SP2）で提供されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

2 チェックリストを完了します。

3 ネットワーク設定ウィザードに戻り、ウィザードの指示に従います。

Microsoft Windows Vista® でのネットーワークのセットアップ

1 Windows Vista スタートボタン → **Connect To**（接続）→ **Set up a connection or network**（接続またはネットワークのセットアップ）をクリックします。
2 **Choose a connection option**（接続オプションの選択）でオプションを選択します。
3 **Next**（次へ）をクリックし、ウィザードの指示に従います。

ワイヤレスローカルエリアネットワーク（ワイヤレス LAN）

ワイヤレス LAN は、各コンピュータに接続するネットワークケーブルを使用するのではなく、電波を介して互いに通信する一連の相互接続コンピュータです。ワイヤレス LAN では、アクセスポイントまたはワイヤレスルーターと呼ばれる無線通信デバイスがネットワークコンピュータ間を接続し、インターネットやネットワークへのアクセスを提供します。アクセスポイントまたはワイヤレスルーターとコンピュータ内のワイヤレスネットワークカードは、電波を介して各自のアンテナからデータをブロードキャストして通信します。

ワイヤレス LAN 接続の確立に必要なもの

ワイヤレス LAN をセットアップするには、次のものが必要です。

- 高速（ブロードバンド）インターネットアクセス（ケーブルまたは DSL など）
- 接続済みで作動中のブロードバンドモデム
- ワイヤレスルーターまたはアクセスポイント
- ワイヤレスネットワークカード（ワイヤレス LAN に接続する各コンピュータに必要）
- ネットワーク（RJ-45）コネクタ付きのネットワークケーブル

お使いのワイヤレスネットワークカードの確認

コンピュータの構成は、コンピュータ購入時の選択に応じて異なります。お使いのコンピュータにワイヤレスネットワークカードがあるかどうかを確認し、カードのタイプを調べるには、次のいずれかを使用します。

- **スタート** ボタンと **接続** オプション
- お使いのコンピュータのオリジナルの納品書

スタートボタンと接続オプション

Microsoft Windows XP では、**スタート** → **接続** → **すべての接続の表示** をクリックします。

Microsoft Windows Vista では、 → **Connect To**（接続）→ **View network computers and devices**（ネットワークコンピュータとデバイスの表示）をクリックします。

ワイヤレスネットワーク接続 が LAN または高速インターネットに表示されない場合は、お使いのコンピュータにワイヤレスネットワークカードがない可能性があります。

ワイヤレスネットワーク接続が表示されていれば、ワイヤレスネットワークカードが取り付けられています。ワイヤレスネットワークカードの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1 **ワイヤレスネットワーク接続** を右クリックします。
2 **プロパティ** をクリックします。

ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ ウィンドウが表示されます。ワイヤレスネットワークカードの名前と型式番号が **全般** タブに表示されます。



メモ : お使いのコンピュータが **クラシックスタート** メニューオプションに設定されている場合、**スタート** → **設定** → **ネットワーク接続** をクリックすると、ネットワーク接続を表示できます。**ワイヤレスネットワーク接続** が表示されない場合は、お使いのコンピュータにワイヤレスネットワークカードがない可能性があります。

コンピュータの注文確認書

コンピュータを注文したときに受け取られた注文確認書には、コンピュータに付属のハードウェアとソフトウェアが記載されています。

ワイヤレスルーターとブロードバンドモデムを使用した新しいワイヤレス LAN のセットアップ

1 インターネットサービスプロバイダ（ISP）に連絡して、お使いのブロードバンドモデムの接続要件に関する情報を入手します。

2 ワイヤレスインターネット接続をセットアップする前に、ブロードバンドモデムを経由して有線でインターネットにアクセスできる状態にあることを確認してください（49 ページの「ネットワークまたはブロードバンドモデムケーブルの接続」を参照）。

3 お使いのワイヤレスルーターに必要ないずれかのソフトウェアをインストールします。お使いのワイヤレスルーターには、インストール用の CD が付属している場合があります。インストール CD には、通常、インストールとトラブルシューティングに関する情報が含まれています。ルーターの製造元の指示に従って、必要なソフトウェアをインストールします。

4 **スタート** または メニューから、お使いのコンピュータと、周辺にあるワイヤレスが有効なその他すべてのコンピュータをシャットダウンします。

5 ブロードバンドモデムの電源ケーブルをコンセントから外します。

6 ネットワークケーブルをコンピュータとモデムから外します。

7 AC アダプタケーブルをワイヤレスルーターから外し、ルーターに接続された電源がないことを確認します。



メモ : ブロードバンドモデムを外した後、5 分以上待ってから、ネットワークのセットアップを続行します。

8 ネットワークケーブルを電源の入っていないブロードバンドモデムのネットワーク（RJ-45）コネクタに接続します。

9 ネットワークケーブルのもう一方の端を電源の入っていないワイヤレスルーターのインターネットネットワーク（RJ-45）コネクタに接続します。

10 モデムとワイヤレスルーターを接続しているネットワークケーブル以外に、ブロードバンドモデムにネットワークケーブルまたは USB ケーブルが接続されていないことを確認します。



メモ : 接続エラーを防ぐため、以下に記載する順番でワイヤレス機器を再スタートさせます。

11 ブロードバンドモデムのみに電源を入れて、ブロードバンドモデムが安定するまで 2 分以上待ちます。2 分経ったら、手順 12 に進みます。

12 ワイヤレスルーターの電源を入れ、ワイヤレスルーターが安定するまで 2 分以上待ちます。2 分経ったら、手順 13 に進みます。

13 コンピュータを起動し、起動プロセスが完了するまで待ちます。

14 ワイヤレスルーターに付属のマニュアルを参照し、次の操作を実行して、ワイヤレスルーターをセットアップします。
   - コンピュータとワイヤレスルーター間の通信を確立します。
   - ワイヤレスルーターをブロードバンドルーターと通信できるように設定します。
   - ワイヤレスルーターのブロードキャスト名を検索します。ルーターのブロードキャスト名の専門用語は、Service Set Identifier（SSID）またはネットワーク名です。

15 必要に応じて、ワイヤレスネットワークカードを設定し、ワイヤレスネットワークに接続します（52 ページの「ワイヤレス LAN への接続」を参照）。

ワイヤレス LAN への接続

 **メモ :** ワイヤレス LAN に接続する前に、50 ページの「ワイヤレスローカルエリアネットワーク（ワイヤレス LAN）」の手順に従ったことを確認してください。

 **メモ :** 次のネットワークへの接続手順は、Bluetooth® ワイヤレステクノロジ内蔵カードまたは携帯製品には適用されません。

本項では、ワイヤレステクノロジによるネットワークへの接続に関する一般的な手順について説明します。特定のネットワーク名や設定の詳細は異なります。お使いのコンピュータをワイヤレス LAN に接続するための準備に関しては、50 ページの「ワイヤレスローカルエリアネットワーク（ワイヤレス LAN）」を参照してください。

ワイヤレスネットワークカードには、ネットワークに接続するために特定のソフトウェアとドライバが必要です。ソフトウェアはすでにインストールされています。

 **メモ :** ソフトウェアが削除されているか破損している場合は、ワイヤレスネットワークカードのユーザーマニュアルの手順に従ってください。お使いのコンピュータに取り付けられているワイヤレスネットワークカードのタイプを確認してから、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** でカード名を検索します。お使いのコンピュータに取り付けられているワイヤレスネットワークカードのタイプについては、50 ページの「お使いのワイヤレスネットワークカードの確認」を参照してください。

ワイヤレスネットワークデバイスマネージャの確認

お使いのコンピュータにインストールされているソフトウェアによって、ネットワークデバイスを管理するワイヤレス設定ユーティリティが異なる場合があります。

- お使いのワイヤレスネットワークカードのクライアントユーティリティ
- Windows XP または Windows Vista オペレーティングシステム

Windows XP でワイヤレスネットワークカードを管理するワイヤレス設定ユーティリティを確認するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** → **設定** → **コントロールパネル** → **ネットワーク接続** をクリックします。
2 **ワイヤレスネットワーク接続** アイコンを右クリックして、**利用できるワイヤレスネットワークの表示** をクリックします。

ワイヤレスネットワークの選択 ウィンドウで **Windows cannot configure this connection**（Windows ではこの接続を設定できません）というメッセージが表示されたら、ワイヤレスネットワークカードのクライアントユーティリティがワイヤレスネットワークカードを管理しています。

ワイヤレスネットワークの選択 ウィンドウで **Click an item in the list below to connect to a wireless network in range or to get more information**（以下のリストのアイテムをクリックして、範囲内にあるワイヤレスネットワークに接続するか、詳細情報を取得します）というメッセージが表示されたら、Windows XP オペレーティングシステムがワイヤレスネットワークカードを管理しています。

Windows Vista でワイヤレスネットワークカードを管理するワイヤレス設定ユーティリティを確認するには、次の手順を実行します。

1 Windows Vista スタートボタン → **Connect To**（接続）→ **Manage wireless networks**（ワイヤレスネットワークの管理）をクリックします。
2 プロファイルをダブルクリックして、ワイヤレスネットワークのプロパティ画面を開きます。

お使いのコンピュータにインストールされているワイヤレス設定ユーティリティの詳細情報に関しては、Windows ヘルプとサポートセンターでお使いのワイヤレスネットワークのマニュアルを参照してください。**スタート** ボタンあるいは Windows Vista® スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。

ワイヤレス LAN への接続の完了

コンピュータの電源投入時にその地域で（コンピュータに設定のない）ネットワークが検出されると、タスクトレイ（Windows デスクトップの右下隅）にあるネットワークアイコン付近にポップアップが表示されます。

画面に表示されるユーティリティのプロンプトの手順に従ってください。

選択したワイヤレスネットワークをコンピュータに設定すると、もう一度ポップアップが表示され、コンピュータがそのネットワークに接続されたことが通知されます。

これ以降は、選択したワイヤレスネットワークの範囲内でコンピュータにログオンすると、同じポップアップが表示され、ワイヤレスネットワークで接続されていることが通知されます。

メモ：セキュアネットワークを選択した場合、プロンプトが表示されたら WEP キーまたは WPA キーを入力する必要があります。ネットワークセキュリティ設定は、ご利用のネットワーク固有のものです。デルではこの情報をお知らせすることができません。

メモ：コンピュータがネットワークに接続するのに 1 分ほどかかる場合があります。

Dell™ QuickSet を使用したワイヤレスネットワーク接続のステータスのモニタ

ワイヤレスアクティビティインジケータを使用すると、お使いのコンピュータのワイヤレスデバイスの状態を簡単に監視できます。ワイヤレスアクティビティインジケータをオンあるいはオフにするには、タスクバーの QuickSet アイコンをクリックして、**ホットキーポップアップ** を選択します。**Wireless Activity Indicator Off**（ワイヤレスアクティビティインジケータオフ）が選択されていない場合は、インジケータがオンになっています。**Wireless Activity Indicator Off**（ワイヤレスアクティビティインジケータオフ）が選択されている場合、インジケータはオフです。

ワイヤレスアクティビティインジケータには、お使いのコンピュータに搭載のワイヤレスデバイスが有効または無効のどちらの状態になっているかが表示されます。ワイヤレスネットワーク機能をオンまたはオフにすると、ワイヤレスアクティビティインジケータが変化してステータスを表示します。

Dell QuickSet ワイヤレスアクティビティインジケータの詳細については、タスクバーの QuickSet アイコンを右クリックして **ヘルプ** を選択します（123 ページの「Dell™ QuickSet」を参照）。

モバイルブロードバンドまたはワイヤレスワイドエリアネットワーク（ワイヤレス WAN）

ワイヤレス LAN と同様に、モバイルブロードバンドネットワーク（ワイヤレス WAN とも呼ばれます）もワイヤレステクノロジを通じて互いに通信する一連の相互接続コンピュータです。ただし、モバイルブロードバンドネットワークでは携帯電話テクノロジを使用するので、携帯電話サービスを使用できる同一エリアのさまざまな場所からインターネットにアクセスできます。お使いのコンピュータは、携帯電話サービスプロバイダのサービスエリアにある限り、物理的な場所とは関係なくモバイルブロードバンドネットワーク接続を維持することができます。



メモ : ある場所で、お使いの携帯電話から電話をかけることができても、その場所が必ずしもセルラーデータのサービスエリアであるとは限りません。

モバイルブロードバンドネットワーク接続の設定に必要なもの



メモ : お使いのコンピュータによって、モバイルブロードバンド ExpressCard またはミニカードのいずれかを使用してモバイルブロードバンドネットワーク接続を設定できます。ただし、両方のカードを同時には使用できません。

モバイルブロードバンドネットワーク接続を設定するには、次のものが必要です。

- モバイルブロードバンド ExpressCard またはミニカード（お使いのコンピュータの設定によって異なります）ExpressCard の使い方については、57 ページの「カードの使い方」を参照してください。
- 有効なモバイルブロードバンド ExpressCard またはご利用のサービスプロバイダで有効になっている SIM カード。
- Dell モバイルブロードバンドカードユーティリティ（コンピュータの購入時にカードを購入された場合は、すでにインストール済みです。コンピュータとは別に購入された場合は、カードに付属する CD に収録されています）。

  このユーティリティが破損したかコンピュータから削除された場合は、Dell モバイルブロードバンドカードユーティリティのユーザーズガイドで手順を参照してください。ユーザーズガイドは、Windows ヘルプとサポートセンターから入手できます。コンピュータとは別にカードを購入した場合は、カードに付属の CD にも収録されています。ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、11 ページの「Windows ヘルプとサポートセンター」を参照してください。

モバイルブロードバンドカードの確認

コンピュータの構成は、コンピュータ購入時の選択に応じて異なります。お使いのコンピュータの構成を確認するには、次のいずれかを参照してください。

- お客様の注文確認書
- Microsoft Windows ヘルプとサポートセンター

Windows ヘルプとサポートセンターでモバイルブロードバンドカードを確認するには、次の手順を実行します。

1. スタート → ヘルプとサポート → **Tools to view your computer information and diagnose problems**（ツールを使ってコンピュータ情報を表示し問題を診断する）をクリックします。
2. **ツール** で **マイコンピュータの情報** → **コンピュータにインストールされているハードウェアに関する情報を検索する** をクリックします。

マイコンピュータの情報 - ハードウェア 画面に、お使いのコンピュータに取り付けられたモバイルブロードバンドカードのタイプとその他のハードウェアコンポーネントが表示されます。



メモ : モバイルブロードバンドカードは **モデム** の下に表示されます。

モバイルブロードバンドネットワークへの接続

 **メモ：**以下の手順は、モバイルブロードバンド ExpressCard またはミニカードのみに適用されます。これらの手順は、ワイヤレステクノロジ内蔵カードには適用されません。

 **メモ：**インターネットに接続する前に、お使いの携帯サービスプロバイダを介してモバイルブロードバンドサービスを有効にする必要があります。Dell Mobile Broadband Card Utility の使い方と追加情報に関しては、Windows ヘルプとサポートセンターで入手できるユーザーズガイドを参照してください。ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、**スタート** あるいは → **ヘルプとサポート** をクリックします。ユーザーズガイドは、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** でもご覧いただけます。また、コンピュータとは別にカードを購入した場合は、カードに付属の CD に収録されています。

次の手順で Dell モバイルブロードバンドカードユーティリティを使用して、インターネットへのモバイルブロードバンドネットワーク接続を確立し、管理します。

1 Windows タスクバーにある Dell Mobile Broadband Card ユーティリティのアイコン をクリックして、ユーティリティを実行します。
2 **接続** をクリックします。

 **メモ：Connect**（接続）ボタンが **Disconnect**（切断）ボタンに変わります。

3 画面上の指示に従い、ユーティリティを使ってネットワーク接続を管理します。

または

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **Dell Wireless**（デルワイヤレス）をクリックします。
2 **Dell Wireless Broadband**（デルワイヤレスブロードバンド）をクリックして、画面に表示される指示に従います。

Dell モバイルブロードバンドカードの有効化および無効化

 **メモ：**モバイルブロードバンドネットワークに接続できない場合は、モバイルブロードバンド接続を設定するためのすべてのコンポーネント（54 ページの「モバイルブロードバンドネットワーク接続の設定に必要なもの」を参照）が揃っていることを確認し、ワイヤレススイッチの設定を確認して、モバイルブロードバンドカードが有効であることを確かめます。

モバイルブロードバンドカードは、お使いのコンピュータのワイヤレススイッチを使って有効または無効にできます。

お使いのコンピュータのワイヤレスデバイスは、コンピュータ左側面（17 ページの「左側面図」を参照）にあるワイヤレススイッチを使ってオンまたはオフにできます。

「オン」の位置にあるスイッチを「オフ」にすると、そのスイッチとモバイルブロードバンドカードが無効になります。「オフ」の位置にあるスイッチを「オン」にすると、そのスイッチと Dell モバイルブロードバンドカードが有効になります。ワイヤレススイッチの位置については、18 ページの「ワイヤレススイッチ」を参照してください。

お使いのワイヤレスデバイスのステータスをモニタするには、53 ページの「Dell™ QuickSet を使用したワイヤレスネットワーク接続のステータスのモニタ」を参照してください。

Dell QuickSet ロケーションプロファイラを使用したネットワーク設定の管理

QuickSet ロケーションプロファイラを使用すると、お使いのコンピュータの物理的な位置に合わせてネットワーク設定を管理できます。プロファイルには、以下の 2 通りの設定があります。

- **ロケーションプロファイルの設定**
- **General Mobility Settings**（一般的な移動用設定）

ロケーションプロファイルの設定 を使用して、オフィス、自宅、またはインターネットサービスを提供するその他の公共の場所で、お使いのコンピュータからインターネットにアクセスするためのプロファイルを作成します。**General Mobility Settings**（一般的な移動用設定）では、ネットワーク接続の操作方法を変更できます。プロファイルには、違う場所でコンピュータを使用する際必要になるさまざまなネットワーク設定および機器が含まれています。

Dell QuickSet の詳細に関しては、123 ページの「Dell™ QuickSet」を参照してください。

Dell™ Wi-Fi Catcher™ ネットワークロケータ

Dell コンピュータのワイヤレススイッチは、Dell Wi-Fi Catcher™ ネットワークロケータを使用して、近隣の WiFi ワイヤレス LAN（WLAN）を取り込みます。

 **メモ :** ワイヤレススイッチについては、18 ページの「ワイヤレススイッチ」を参照してください。

WiFi ワイヤレス LAN を取り込むには、スイッチを「一時的」の位置にし、そのまま数秒間維持します。
Wi-Fi Catcher ネットワークロケータは、スイッチが WiFi ネットワーク接続を制御するよう QuickSet または BIOS（セットアップユーティリティ）で設定されていれば、お使いのコンピュータのオンおよびオフ、休止状態モード、スタンバイモードに関係なく機能します。

 **メモ :** Dell Wi-Fi Catcher ネットワークロケータのライトは、コンピュータがオフで、ワイヤレスネットワークがセットアップユーティリティで有効に設定されている場合に点灯します。Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用して作業をしている間は、このライトは点灯しません。

コンピュータがお手元に届いたとき、Wi-Fi Catcher ネットワークロケータは無効かつ未設定であるため、最初に Dell QuickSet を使用してスイッチを有効にし、WiFi ネットワーク接続を制御するよう設定する必要があります。

Wi-Fi Catcher ネットワークロケータの詳細、および QuickSet を使ってネットワークロケータを有効にする方法については、『Dell QuickSet ヘルプ』を参照してください。『ヘルプ』ファイルにアクセスするには、タスクバーにある Quickset アイコンを右クリックします。

インターネット接続ファイアウォール

インターネット接続ファイアウォールでは、インターネット接続時に、許可されていないユーザーのコンピュータへのアクセスに対する基本的な保護が提供されます。ファイアウォールはネットワークセットアップウィザードを実行するときに自動的に有効になります。ネットワーク接続にファイアウォールが有効になると、コントロールパネルの **ネットワーク接続** に赤い背景のあるファイアウォールアイコンが表示されます。

インターネット接続ファイアウォールを有効にしても、ウイルス対策ソフトウェアは必要です。

詳細に関しては、Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムのヘルプとサポートセンターを参照してください。ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、**スタート** ボタンあるいは Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。

8

カードの使い方

カードタイプ

サポートされているカードタイプに関しては、125 ページの「仕様」を参照してください。

 **メモ :** PC カードは起動デバイスではありません。

PC カードスロットには、タイプ I またはタイプ II カード 1 枚に対応するコネクタが 1 つあります。PC カードスロットは、カードバステクノロジおよび拡張型 PC カードをサポートしています。カードの「タイプ」とは、その機能のことではなく、厚さのことを意味します。

ExpressCard カードスロットは、54 mm カード対応のコネクタを 1 つ備えています。このスロットは、34 mm カードにも使用できます。

ダミーカード

お使いのコンピュータには、カードスロットにプラスチック製のダミーカードが取り付けられています。ダミーカードは、埃や他の異物から未使用のスロットを保護します。他のコンピュータのダミーカードは、お使いのコンピュータとサイズが合わないことがありますので、スロットに PC カードを取り付けない時のためにダミーカードを保管しておきます。

ダミーカードの取り外しについては、60 ページの「カードまたはダミーカードの取り外し」を参照してください。

拡張カード

拡張カード（たとえば、ワイヤレスネットワークアダプタ）は標準のカードより長く、コンピュータの外側にはみ出しています。拡張型 PC カードまたは ExpressCard を使用する場合、次の注意事項に従ってください。

- 取り付けたカードのはみ出した部分を保護します。カードの端をぶつけると、システム基板が損傷する恐れがあります。
- コンピュータをキャリーケースに入れる前に、必ず拡張カードを取り外してください。

PC カードまたは ExpressCard の取り付け

PC カードまたは ExpressCard は、コンピュータの実行中に取り付けることができます。コンピュータは自動的にカードを検出します。

カードには通常、スロットへの挿入方向を示す矢印や三角形などが描かれています。カードは一方向にしか挿入できないように設計されています。カードの挿入方向がわからない場合は、カードに付属のマニュアルを参照してください。

 **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

PC カード

1 カード上面を上にして、挿入方向を示す印がスロットを指すようにカードを持ちます。ラッチを「中に入れた」位置にしてからカードを挿入する必要がある場合があります。

2 PC カードコネクタにカードが完全に収まるまで、カードをスロットにスライドします。

カードがきちんと入らないときは、無理にカードを押し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。



コンピュータはほとんどのカードを認識し、自動的に適切なデバイスドライバをロードします。設定プログラムで製造元のドライバをロードするよう表示されたら、PC カードに付属のフロッピーディスクまたは CD を使用します。

ExpressCard

1 カード上面を上にして、挿入方向を示す印がスロットを指すようにカードを持ちます。ラッチを「中に入れた」位置にしてからカードを挿入する必要がある場合があります。

2 PC カードコネクタにカードが完全に収まるまで、カードをスロットにスライドします。

カードがきちんと入らないときは、無理にカードを押し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。



コンピュータはほとんどのカードを認識し、自動的に適切なデバイスドライバをロードします。設定プログラムで製造元のドライバをロードするよう表示されたら、カードに付属のフロッピーディスクまたは CD を使用します。

次に示すようなアダプタがあれば、PC カードスロットに 34 mm の ExpressCard を使用できます。PC カードスロットの使用方法については、58 ページの「PC カード」を参照してください。



カードまたはダミーカードの取り外し

 **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

 **注意 :** タスクバーにある アイコンをクリックしてカードを選択し、カードの動作を停止してからコンピュータから取り外します。設定ユーティリティでカードの動作を停止しないでカードを取り外すと、データを失う恐れがあります。ケーブルが付いている場合、カードを取り外す際にケーブルそのものを引っぱってカードを取り外さないでください。

ラッチを押してカードまたはダミーカードを取り外します。ラッチによっては、ラッチを 2 回押す必要があります。1 回目でラッチが外れ、2 回目でカードが出てきます。

9

コンピュータのセキュリティ保護

 **メモ：**旅行などでコンピュータを携帯する場合のセキュリティ保護に関しては、91 ページの「ノートブックコンピュータを携帯するときは」を参照してください。

セキュリティケーブルロック

 **注意：**盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

 **メモ：**お使いのコンピュータには、セキュリティケーブルロックは付属していません。

セキュリティケーブルロックは、市販の盗難防止用品です。このロックを使用するには、Dell™ コンピュータのセキュリティケーブルスロットにロックを取り付けます。詳細に関しては、盗難防止用品に付属のマニュアルを参照してください。



スマートカード

スマートカードについて

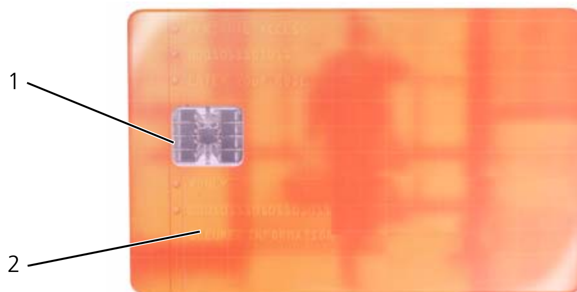
スマートカードは集積回路が内蔵された、持ち運びのできる、クレジットカードと同じ形のデバイスです。スマートカードの表の面には通常、金製の導体パッドの下に内蔵プロセッサが搭載されています。スマートカードは小型で集積回路が内蔵されていますので、安全性、データストレージ、および特殊なプログラム用の便利なツールとして利用できます。スマートカードを使って、ユーザーが持っているもの（スマートカード）とユーザーが知っているもの（暗証番号）を組み合わせて、パスワードだけの場合よりも確実なユーザー認証を提供し、システムの安全性を向上することができます。

スマートカードの取り付け

コンピュータの実行中にスマートカードをコンピュータに取り付けることができます。コンピュータは自動的にカードを検出します。

スマートカードを取り付けるには、次の手順を実行します。

1 スマートカードを金製の導体パッドが上を向き、スマートカードスロットに向くように持ちます。



1 金製の導体パッド　　2 スマートカード（上部）

2 スマートカードがコネクタに完全に装着されるまで、カードをスマートカードスロットに差し込みます。スマートカードはスロットから約 1.5 cm 突き出ます。スマートカードスロットは、PC カードスロットの下にあります。

カードがきちんと入らないときは、無理にカードを押し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。



パスワード

 **メモ：**ご購入時には、パスワードは設定されていません。

プライマリ（またはシステム）パスワードやシステム管理者パスワード、およびハードディスクドライブパスワードは、お使いのコンピュータへの不正なアクセスを様々な方法で防ぎます。以下の表に、お使いのコンピュータで利用可能なパスワードの種類と機能について示します。

パスワードの種類	機能
プライマリおよびシステム	• 使用を許可されていないユーザーのアクセスからコンピュータを保護します。
システム管理者	• コンピュータを修理または再設定するシステム管理者または技術者がアクセスします。 • 初期パスワードによってコンピュータへのアクセスを制限できるのと同様に、セットアップユーティリティへのアクセスも制限できます。 • 初期パスワードの代わりに使用することもできます。
ハードディスクドライブ	• 使用を許可されていないユーザーのアクセスからハードディスクドライブまたは外付けハードディスクドライブ（使用している場合）のデータを保護するために使用します。

 **注意：**パスワードは、コンピュータやハードディスクドライブのデータに対して高度なセキュリティ機能を提供します。ただし、この機能だけでは万全ではありません。データのセキュリティをより確実なものにするために、スマートカード、データ暗号化プログラム、または暗号化機能の付いた PC カードなどを使って、ユーザー自身が保護設定を追加する必要があります。

 **メモ：**ハードディスクドライブによっては、ハードディスクドライブパスワードをサポートしません。

パスワードを忘れてしまった場合は、システム管理者に尋ねるか、またはデルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。その際、使用を許可されていないユーザーによる不正使用を防ぐため、デルのサポート担当者はお客様がコンピュータの所有者であるかどうかを確認します。

 **メモ：**システム管理者がリモートでパスワードを割当てるには、コンピュータに Dell OpenManage™ Client Instrumentation のバージョン 7.3 以降がインストールされている必要があります。

プライマリおよびシステムパスワードの使い方

プライマリ（システム）パスワードを使用すると、認証されていないユーザーのアクセスからコンピュータを保護できます。

コントロールパネル から **ユーザーアカウント** にアクセスして、ユーザーアカウントを作成し、パスワードを追加または変更します。プライマリパスワードを設定すると、コンピュータの電源を入れるたびにパスワードを入力する必要があります。

2 分以内にパスワードを入力しないと、自動的に直前の状態に戻ります。

 **注意：**システム管理者パスワードを無効にすると、同時にプライマリパスワードも無効になります。

システム管理者パスワードが設定されている場合は、プライマリパスワードの代わりに使用することもできます。通常、コンピュータ画面でシステム管理者パスワードの入力は必要ありません。

システム管理者パスワードの使い方

システム管理者パスワードは、コンピュータを修理または再設定するシステム管理者またはサービス技術者のためのものです。システム管理者または技術者は、同じシステム管理者パスワードをコンピュータのグループに割り当て、固有のプライマリパスワードを割り当てることができます。

システム管理者パスワードを設定または変更するには、コントロールパネルにある **ユーザーアカウント** にアクセスします。

システム管理者パスワードを設定すると、セットアップユーティリティの **Configure Setup** オプションが有効になります。**Configure Setup** オプションは、プライマリパスワードによってコンピュータへのアクセスを制限できるのと同様に、セットアップユーティリティへのアクセスが制限できます。

システム管理者パスワードは、プライマリパスワードの代わりに使用することもできます。プライマリパスワードの入力を求められた場合、常にシステム管理者パスワードで代用できます。

 **注意 :** システム管理者パスワードを無効にすると、同時にプライマリパスワードも無効になります。

 **メモ :** システム管理者パスワードを使ってコンピュータへのアクセスはできますが、ハードディスクドライブパスワードが設定されている場合、ハードディスクドライブへのアクセスはできません。

システム管理者パスワードを設定せずに、プライマリパスワードを忘れてしまった場合、または両方のパスワードを設定し、どちらも忘れてしまった場合は、システム管理者に尋ねるか、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ハードディスクドライブパスワードの使い方

ハードディスクドライブパスワードは、使用を許可されていないユーザーのアクセスからハードディスクドライブ上のデータを保護するために使用します。外付けハードディスクドライブをご使用の場合、そのドライブにプライマリハードディスクドライブと同じ、または異なるパスワードを設定することもできます。

ハードディスクドライブパスワードを設定すると、コンピュータの電源を入れるたびにパスワードを入力する必要があります。また、スタンバイモードから通常の動作に復帰する際にも、必ず入力する必要があります。

ハードディスクドライブパスワードを有効にした場合、コンピュータを起動するたびにハードディスクドライブパスワードを入力する必要があります。ドライブパスワードを入力するよう、メッセージが表示されます。

続行するには、パスワード（8 文字以内）を入力し、<Enter> を押します。

2 分以内にパスワードを入力しないと、自動的に直前の状態に戻ります。

入力したパスワードが間違っていると、パスワードが無効であることを知らせます。再度試すには、<Enter> を押します。

パスワードが 3 回以内に正しく入力されないと、セットアップユーティリティの **Boot First Device** オプションで別のデバイスから起動できるように設定されている場合、別のデバイスから起動が試みられます。**Boot First Device** オプションで別のデバイスから起動するように設定されていない場合は、コンピュータの電源を入れたときの動作状態に戻ります。

ハードディスクドライブパスワード、外付けハードディスクドライブパスワード、およびプライマリパスワードが同じ場合、プロンプトでプライマリパスワードの入力だけが求められます。ハードディスクドライブパスワードがプライマリパスワードと異なる場合、プロンプトで両方のパスワードの入力が求められます。2 つのパスワードを別々に設定することで、セキュリティをさらに強化することができます。

 **メモ :** システム管理者パスワードを使ってコンピュータへのアクセスはできますが、ハードディスクドライブパスワードが設定されている場合、ハードディスクドライブへのアクセスはできません。

プライマリハードディスクのパスワードを作成する際にシステム管理者パスワードがインストールされていると、システム管理者パスワードをプライマリハードディスクパスワードの代わりとして使用できます。この機能により、システム管理者は、コンピュータを展開する前にシステム管理者パスワードをインストールしている場合に限り、パスワードで保護されているハードディスクのロックを解除できます。

ハードディスクパスワードの保全性を保護するのに役立つこの機能には、次の 2 つの関連動作があります。

- システム管理者パスワードは、ハードディスクパスワードが作成されているコンピュータ上のハードディスクのロックを解除する場合のみに動作します。つまり、パスワードで保護されているハードディスクをコンピュータから取り外して他のコンピュータに移動し、その移動先のコンピュータでシステム管理者パスワードを使用してロックの解除を行うことはできません。
- ハードディスクパスワードを作成した後にコンピュータへシステム管理者パスワードをインストールしても、システム管理者パスワードによるハードディスクのロック解除を行うことはできません。

Trusted Platform Module（TPM）



メモ：中国に配送されるコンピュータには、TPM 機能が装備されていません。



メモ：オペレーティングシステムで TPM がサポートされている場合にのみ、TPM 機能により暗号化がサポートされます。詳細に関しては、ソフトウェアに同梱されている TPM ソフトウェアのマニュアルおよびヘルプファイルを参照してください。

TPM は、コンピュータ生成の暗号キーを作成および管理することができる、ハードウェアベースの保護機能です。保護ソフトウェアと共に使用することにより、TPM はファイルプロテクション機能や E- メール保護などの機能を有効にして、既存のネットワークおよびコンピュータセキュリティをさらに強化します。TPM 機能はセットアップオプションから有効にします。



注意：TPM のデータおよび暗号化キーを保護するため、EMBASSY Security Center（EMBASSY セキュリティセンター）ヘルプファイルの「Archive and Restore（アーカイブおよび復元）」の項に示されているバックアップの手順に従ってください。バックアップが不完全であったり、紛失、または損傷した場合、デルでは暗号化されたデータのリカバリを援助することはできません。

TPM 機能の有効化

1 TPM ソフトウェアを有効にします。

a コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。

b **Security** → **TPM Security** を選択し、<Enter> を押します。

c **TPM Security** の下で **On** を選択します。

d <Esc> を押してセットアッププログラムを終了します。

e プロンプトが表示されたら、**Save/Exit** をクリックします。

2 TPM セットアッププログラムを有効にします。

a コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。

b **Security** → **TPM Activation**（TPM のアクティブ化）を選択し、<Enter> を押します。

c **TPM Activation** の下の **Activate** を選択し、<Enter> を押します。



メモ：プログラムは一度だけ有効にすれば、以後は必要ありません。

d プロセスが完了したら、コンピュータが自動的に再起動するか、コンピュータの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

セキュリティ管理ソフトウェア

セキュリティ管理ソフトウェアは、次に示す 4 つの機能を使って、コンピュータのセキュリティ保護を行うように設計されています。

- ログイン管理
- 起動前認証（指紋リーダー、スマートカード、またはパスワードを使用）
- 暗号化
- 個人情報管理

ソフトウェアの使い方およびさまざまなセキュリティ機能の詳細に関しては、ソフトウェアの『はじめに』を参照してください。

スタート → **すべてのプログラム** → **Wave Systems Corp**→ **はじめに** をクリックします。

コンピュータ追跡ソフトウェア

コンピュータ追跡ソフトウェアは、コンピュータを紛失したり盗難に遭った場合に、コンピュータの位置を突き止めることができます。このソフトウェアはオプションで、Dell ™ コンピュータの注文時に購入するか、このセキュリティ機能に関して、デルの営業担当者にお問い合わせください。



メモ : コンピュータ追跡ソフトウェアは、すべての国で使用できるとは限りません。



メモ : コンピュータ追跡ソフトウェアを備えたコンピュータを紛失したり盗難に遭った場合は、追跡サービスを提供する会社にコンピュータの紛失を届け出てください。

コンピュータを紛失するか盗難に遭った場合

- 警察に、コンピュータの紛失または盗難を届け出ます。コンピュータの説明をする際に、サービスタグをお知らせください。届け出番号などをもらったら控えておきます。できれば、応対した担当者の名前も尋ねておきます。



メモ : コンピュータを紛失した場所または盗難に遭った場所を覚えている場合、その地域の警察に届け出ます。覚えていない場合は、現在住んでいる地域の警察に届け出てください。

- コンピュータが会社所有の場合は、会社の担当部署へ連絡します。
- デルカスタマーサービスに、コンピュータの紛失を届け出ます。コンピュータのサービスタグ、警察への届け出番号、コンピュータの紛失を届け出た警察の名称、住所、電話番号をお知らせください。できれば、担当者名もお知らせください。

デルのカスタマーサービス担当者は、コンピュータのサービスタグをもとに、コンピュータを紛失または盗難に遭ったコンピュータとして登録します。連絡されたサービスタグを使ってデルテクニカルサポートに連絡した人物がいた場合、そのコンピュータは自動的に紛失または盗難に遭ったものと認識されます。担当者は連絡してきた人物の電話番号と住所の照会を行います。その後、デルは紛失または盗難に遭ったコンピュータについて警察に連絡を取ります。

10

トラブルシューティング

Dell テクニカル Update Service

デルテクニカルアップデートサービスは、お使いのコンピュータに関するソフトウェアおよびハードウェアのアップデートを E- メールにて事前に通知するサービスです。このサービスは無償で提供され、内容、フォーマット、および通知を受け取る頻度をカスタマイズすることができます。

デルテクニカルアップデートサービスに登録するには、**support.dell.com/technicalupdate**（英語）にアクセスしてください。

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、テクニカルサポートに問い合わせる前に、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意 : Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

メモ :『Drivers and Utilities』メディアはオプションのため、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードディスクドライブまたは『**Drivers and Utilities**』メディアから Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムをハードディスクドライブから起動する場合

Dell Diagnostics（診断）プログラムは、ハードディスクドライブの診断ユーティリティ用隠しパーティションに格納されています。

メモ : コンピュータに画面が表示されない場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

メモ : コンピュータがドッキングデバイスに接続されている場合、ドッキングを解除します。ドッキングデバイスの手順については、付属のマニュアルを参照してください。

1 コンピュータが、正確に動作することが確認されているコンセントに接続されていることを確認します。

2 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

3 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、以下のいずれかの方法で起動します。

a DELL™ のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。起動メニューから Diagnostics（診断）を選択し、<Enter> を押します。

 **メモ：** キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されたときには、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

 **メモ：** オプション B を試す前に、コンピュータの電源を完全に切る必要があります。

b コンピュータが起動する間、<Fn> キーを押し続けます。

 **メモ：** 診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、『Drivers and Utilities』メディアから Dell Diagnostics（診断）を実行します。

起動前システムアセスメント（PSA）が実行され、システム基板、キーボード、ディスプレイ、メモリ、ハードディスクドライブなどの一連の初期テストが実行されます。

- このシステムの評価中に、表示される質問に答えます。
- 起動前システムアセスメントの実行中に問題が検出された場合は、エラーコードを書き留め、135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

起動前システムアセスメントが正常に終了した場合、`Booting Dell Diagnostic Utility Partition.Press any key to continue`（Dell 診断ユーティリティパーティションを起動中。続けるには任意のキーを押します）というメッセージが表示されます。

4 任意のキーを押すと、ハードディスクドライブ上の診断プログラムユーティリティパーティションから Dell Diagnostics（診断）プログラムが起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを Drivers and Utilities メディア から起動する場合

1 『Drivers and Utilities』メディアを挿入します。

2 コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。

 **メモ：** キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されたときには、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

 **メモ：** 次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

3 起動デバイスのリストが表示されたら、**CD/DVD/CD-RW** をハイライト表示して <Enter> を押します。

4 表示されたメニューから、**CD-ROM** からのブートオプションを選択し、<Enter> を押します。

5 `1` を入力して、CD メニューを開始し、<Enter> を押して続行します。

6 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選択します。複数のバージョンがリストにある場合は、コンピュータに適切なバージョンを選択します。

7 Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu** 画面が表示されたら、実行するテストの種類を選択します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1 Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了すると、メインメニュー画面が表示されるので、必要なオプションのボタンをクリックします。

 **メモ：** `Test System` を選択して、コンピュータを完全にテストすることをお勧めします。

オプション	機能
Test Memory	スタンドアロンメモリテストを実行します。
Test System	システム Diagnostics（診断）を実行します。
Exit	Diagnostics（診断）を終了します。

2 メインメニューで Test System オプションを選択すると、次のメニューが表示されます。



メモ：以下のメニューから Extended Test を選択して、コンピュータ内のデバイスでさらに詳細なチェックを実行することをお勧めします。

オプション	機能
Express Test	システム内のデバイスに簡単なテストを実行します。このテストは、通常 10 ～ 20 分程度かかります。
Extended Test	システム内のデバイスに詳細なチェックを実行します。このテストは、通常 1 時間以上かかる場合があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストしたり、実行するテストをカスタマイズする場合に使用します。
Symptom Tree	起きている問題の症状に基づいたテストを選択できるオプションです。最も一般的な症状を一覧表示します。

3 テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の状況を書き留め、デルに問い合わせしてください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。



メモ：各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせいただく場合は、テクニカルサポート担当者がサービスタグをお尋ねします。

4 Custom Test または Symptom Tree オプションからテストを実行する場合は、該当するタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムでは、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイスリストに表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに取り付けられたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

5 テストが完了したら、テスト画面を閉じて メインメニュー 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、メインメニュー 画面を閉じます。

6 Dell『Drivers and Utilities』メディアを取り出します（該当する場合）。

デルサポートユーティリティ

デルサポートユーティリティは、お使いのコンピュータにインストールされています。タスクバーのデルサポート アイコン または **スタート** ボタンから使用できます。このサポートユーティリティは、セルフサポート情報、ソフトウェアのアップデート、およびお使いのコンピュータ環境の状態をスキャンする場合に使用します。

デルサポートユーティリティへのアクセス

デルサポートユーティリティは、タスクバーの アイコンまたは **スタート** メニューからアクセスできます。

デルサポートアイコンがタスクバーに表示されていない場合、次の手順を実行します。

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **Dell Support**（Dell サポート）→ **Dell Support Settings**（Dell サポート設定）をクリックします。

2 **Show icon on the taskbar**（タスクバーのアイコンを表示する）オプションがチェックされていることを確認します。



メモ： デルサポートユーティリティが **スタート** メニューから利用できない場合は、**support.jp.dell.com** からソフトウェアをダウンロードしてください。

デルサポートユーティリティは、お使いのコンピュータ環境にカスタマイズされます。

タスクバーの アイコンは、アイコンをクリック、ダブルクリック、右クリックする場合でそれぞれ機能が異なります。

デルサポートアイコンのクリック

次のタスクを実行するには、 アイコンをクリックまたは右クリックします。

- お使いのコンピュータ環境のチェック
- デルサポートユーティリティ設定の表示
- デルサポートユーティリティのヘルプファイルへのアクセス
- よくあるお問い合わせ（FAQ）の表示
- デルサポートユーティリティの詳細の表示
- デルサポートユーティリティの終了

デルサポートアイコンのダブルクリック

アイコンをダブルクリックすると、お使いのコンピュータ環境の手動チェック、よくあるお問い合わせ（FAQ）の表示、デルサポートユーティリティのヘルプファイルへのアクセス、デルサポート設定の表示を実行できます。

デルサポートユーティリティの詳細に関しては、**Dell™ Support**（デルサポート）画面の上部にある疑問符（**?**）をクリックしてください。

ドライブの問題

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

これらのチェックを完了したら、Diagnostics（診断）チェックリスト（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）に記入します。

MICROSOFT® WINDOWS® がドライブを認識しているか確認します —

Windows XP の場合

- **スタート** → **マイコンピュータ** をクリックします。

Windows Vista の場合

- Windows Vista スタートボタン → **Computer**（コンピュータ）をクリックします。

フロッピー、CD、または DVD ドライブが一覧に表示されない場合、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックを行い、ウイルスを調査して除去します。ウイルスが原因で Windows がドライブを検出できないことがあります。

ドライブをテストします —

- 元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認するため、別のディスクを挿入します。
- 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

ドライブやディスクをクリーニングします — 137 ページの「コンピュータのクリーニング」を参照してください。

CD ドライブトレイのスピンドルに CD がきちんとはまっていることを確認します

ケーブルの接続を確認します

ハードウェアの非互換性を確認します — 96 ページの「Windows XP と Windows Vista オペレーティングシステムでのハードウェアに関するトラブルシューティングの使い方」を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラムを実行します — 67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。

CD および DVD ドライブの問題

 **メモ :** 高速な CD ドライブや DVD ドライブの振動は一般的なもので、ノイズを引き起こすこともあります。CD や DVD ドライブの故障ではありません。

 **メモ :** 様々なファイル形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

CD/DVD-RW ドライブへの書き込み問題

その他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

CD/DVD-RW ディスクに書き込みを行う前に、WINDOWS のスタンバイモードをオフにします — 29 ページの「スタンバイモード」を参照してください。または Windows ヘルプとサポートセンターでキーワードスタンバイを検索します。

書き込み処理速度を低く設定します — お使いの CD または DVD 作成ソフトウェアのヘルプファイルを参照してください。

CD、CD-RW、DVD、または DVD+RW ドライブトレイが取り出せない場合

1 コンピュータの電源が切れていることを確認します。
2 クリップをまっすぐに伸ばし、一方の端をドライブの前面にあるイジェクト穴に挿入します。トレイの一部が出てくるまでしっかりと押し込みます。
3 トレイが止まるまで慎重に引き出します。

聞き慣れない摩擦音またはきしむ音がする場合

- 実行中のプログラムによる音ではないことを確認します。
- ディスクが正しく挿入されていることを確認します。

ハードディスクドライブの問題

コンピュータが室温に戻るまで待ってから電源を入れます — ハードディスクドライブが高温になっているため、オペレーティングシステムが起動しないことがあります。コンピュータが室温に戻るまで待ってから電源を入れます。

チェックディスクを実行します —

Windows XP の場合

1 **スタート** → **マイコンピュータ** をクリックします。
2 **ローカルディスク C:** を右クリックします。
3 **プロパティ** → **ツール** → **チェックする** をクリックします。
4 **不良なセクタをスキャンし、回復する** → **開始** をクリックします。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン → **Computer**（コンピュータ）をクリックします。
2 **Local Disk C:**（ローカルディスク C:）を右クリックします。
3 **Properties**（プロパティ）→ **Tools**（ツール）→ **Check Now**（チェックする）をクリックします。

    **メモ : User Account Control**（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合には、システム管理者に問い合わせて、必要な処理を続けます。

4 **Scan for and attempt recovery of bad sectors**（不良なセクタをスキャンし、回復する）→ **Start**（開始）をクリックします。

E- メール、モデム、およびインターネットの問題

 **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

 **メモ :** モデムは必ずアナログ電話回線に接続してください。デジタル電話回線（ISDN）に接続した場合、モデムは動作しません。

MICROSOFT OUTLOOK® EXPRESS のセキュリティ設定を確認します — E- メールの添付ファイルが開けない場合、次の手順を実行します。

1 Outlook Express で、**ツール** → **オプション** → **セキュリティ** をクリックします。

2 **ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない** をクリックして、チェックマークを外します。

電話線の接続をチェックします
電話のコネクタをチェックします
モデムを直接電話コネクタに接続します
別の電話線を使用します —

- 電話線がモデムのコネクタに接続されているか確認します （コネクタは緑色のラベル、もしくはコネクタの絵柄の横にあります。）
- 電話線コネクタをモデムに差し込んだときにカチッという感触があるか確認します。
- モデムから電話線を外して、電話に接続します。電話の発信音を聞きます。
- 留守番電話、FAX、サージプロテクタ、またはラインスプリッタなど、その他の電話デバイスで回線を共有している場合、これらのデバイスをバイパスし、モデムを直接電話コネクタに差し込みます。3 m 以内の電話線を使用します。

MODEM HELPER DIAGNOSTICS（診断）を実行します — **スタート** → **すべてのプログラム** → **Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別し、その問題を解決します。（一部のコンピュータでは、Modem Helper を使用できません）。

モデムが WINDOWS と通信しているか確認します —

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **電話とモデムのオプション** → **モデム** をクリックします。

2 モデムが Windows と通信していることを確認するために、お使いのモデムの COM ポートをクリックし、次に **プロパティ** → **診断** → **モデムの照会** をクリックします。

   すべてのコマンドに応答がある場合、モデムは正しく動作しています。

インターネットへの接続を確認します — ISP（インターネットサービスプロバイダ）との契約が済んでいることを確認します。E- メールプログラム Outlook Express を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックしてマークを外し、インターネットに接続します。問題がある場合、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

コンピュータでスパイウェアをスキャンします — コンピュータのパフォーマンスが遅いと感じたり、ポップアップ広告を受信したり、インターネットとの接続に問題がある場合は、スパイウェアに感染している恐れがあります。アンチスパイウェア保護を含むアンチウィルスプログラムを使用して（ご使用のプログラムをアップグレードする必要があるかもしれません）、コンピュータのスキャンを行い、スパイウェアを取り除いてください。

エラーメッセージ

これらのチェックを完了したら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に記入します。

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

補助デバイスエラー — タッチパッド、トラックスティックまたは外付けマウスに問題がある可能性があります。外付けマウスを使用している場合、ケーブル接続を確認します。セットアップユーティリティで Pointing Device オプションの設定を有効にします。問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

コマンド名またはファイル名が違います — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。

障害によりキャッシュが無効になりました — マイクロプロセッサに内蔵の 1 次キャッシュに問題が発生しました。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

CD ドライブコントローラエラー — CD ドライブにコンピュータからコマンドの応答がありません（70 ページの「デルサポートユーティリティ」を参照）。

データエラー — ハードディスクドライブがデータを読み取ることができません（70 ページの「デルサポートユーティリティ」を参照）。

使用可能メモリ減少 — メモリモジュールに問題があるか、またはメモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして、必要であれば交換します（109 ページの「メモリ」を参照）。

ディスク C：初期化失敗 — ハードディスクドライブの初期化に失敗しました。Dell Diagnostics（診断）プログラムのハードディスクドライブテストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

ドライブの準備ができていません — 操作を続行する前に、ベイにはハードディスクドライブが必要です。ハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを取り付けます（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）。

PCMCIA カードの読み取りエラー — コンピュータが、PC カードを認識できません。カードをもう一度挿入しなおすか、別の PC カードを挿入します（57 ページの「カードの使い方」を参照）。

拡張メモリの容量が変更されています — NVRAM に記録されているメモリ容量が、実際に取り付けられているメモリ容量と一致しません。コンピュータを再起動します。エラーが再度表示される場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

コピーするファイルが大きすぎて受け側のドライブに入りません — 指定のディスクにコピーするにはファイルサイズが大きすぎます。またはディスクがいっぱいで入りません。他のディスクにコピーするか容量の大きなディスクを使用します。

ファイル名には次の文字は使用できません：¥ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

GATE A20 エラー — メモリモジュールがしっかりと接続されていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして、必要であれば交換します（109 ページの「メモリ」を参照）。

一般的な障害 — オペレーティングシステムはコマンドを実行できません。通常、このメッセージのあとには具体的な情報（例えば、`Printer out of paper` [プリンタの用紙がありません]）が付きます。適切な対応策に従います。

ハードディスクドライブ設定エラー — コンピュータがドライブの種類を識別できません。コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを取り外して（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）、次に CD または DVD からコンピュータを起動します。次に、コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを再度取り付けて、コンピュータを再起動します。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Hard-Disk Drive** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

ハードディスクドライブコントローラエラー 0 — ハードディスクドライブがコンピュータからのコマンドに応答しません。コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを取り外して（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）、次に CD または DVD からコンピュータを起動します。次に、コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを再度取り付けて、コンピュータを再起動します。問題が解決しない場合、別のドライブを取り付けます。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Hard-Disk Drive** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

ハードディスクドライブエラー — ハードディスクドライブがコンピュータからのコマンドに応答しません。コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを取り外して（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）、次に CD または DVD からコンピュータを起動します。次に、コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを再度取り付けて、コンピュータを再起動します。問題が解決しない場合、別のドライブを取り付けます。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Hard-Disk Drive** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

ハードディスクドライブ読み取りエラー — ハードディスクドライブに問題がある可能性があります。コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを取り外して（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）、次に CD または DVD からコンピュータを起動します。次に、コンピュータをシャットダウンし、ハードディスクドライブを再度取り付けて、コンピュータを再起動します。問題が解決しない場合、別のドライブを取り付けます。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Hard-Disk Drive** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

起動用メディアを挿入します — オペレーティングシステムが、起動用以外の CD または DVD から起動しようとしています。起動用の CD または DVD を挿入してください。

システム情報が間違っています。セットアップユーティリティを実行してください — システム設定情報がハードウェア構成と一致しません。メモリモジュールの取り付け後などにこのメッセージが表示されることがあります。セットアップユーティリティ内の対応するオプションを修正します（87 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。

キーボードクロックラインエラー — 外付けキーボードを使用している場合は、ケーブル接続を確認します。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **KeyBoard Controller** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

キーボードコントローラエラー — 外付けキーボードを使用している場合は、ケーブル接続を確認します。コンピュータを再起動し、起動ルーチン中にキーボードまたはマウスに触れないようにします。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **KeyBoard Controller** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

キーボードデータラインエラー — 外付けキーボードを使用している場合は、ケーブル接続を確認します。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **KeyBoard Controller** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

キーボードスタックキーエラー — 外付けキーボードまたはキーパッドの、ケーブル接続を確認します。コンピュータを再起動し、起動ルーチン中にキーボードまたはキーに触れないようにします。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Stuck Key** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

アドレス、読み取り値、期待値におけるメモリアドレスラインエラー — メモリモジュールに問題があるか、メモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして、必要であれば交換します（109 ページの「メモリ」を参照）。

メモリの割り当てエラー — 実行しようとしているソフトウェアが、オペレーティングシステム、他のアプリケーションプログラム、またはユーティリティと拮抗しています。コンピュータをシャットダウンし、30 秒待ってから再起動します。プログラムを再度実行します。エラーメッセージが依然として表示される場合、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

アドレス、読み取り値、期待値におけるメモリデータラインエラー — メモリモジュールに問題があるか、メモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして（109 ページの「メモリ」を参照）、必要であれば交換します。

アドレス、読み取り値、期待値におけるメモリダブルワードロジックエラー — メモリモジュールに問題があるか、メモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして（109 ページの「メモリ」を参照）、必要であれば交換します。

アドレス、読み取り値、期待値におけるメモリ奇数 / 遇数ロジックエラー — メモリモジュールに問題があるか、メモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして（109 ページの「メモリ」を参照）、必要であれば交換します。

アドレス、読み取り値、期待値におけるメモリ読み書きエラー — メモリモジュールに問題があるか、メモリモジュールが正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおして（109 ページの「メモリ」を参照）、必要であれば交換します。

起動デバイスがありません — コンピュータがハードディスクドライブを見つけることができません。ハードディスクドライブが起動デバイスの場合、ドライブが適切に装着されており、起動デバイスとして区分（パーティション）されているか確認します。

ハードディスクドライブにブートセクターがありません — オペレーティングシステムが壊れている可能性があります。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

タイマーチック割り込み信号がありません — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **System Set** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やりなおします — 開いているプログラムの数が多すぎます。すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません — ハードディスクドライブを再インストールします（102 ページの「ハードディスクドライブ」を参照）。問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

オプション ROM のチェックサムが違います — オプション ROM に問題があります。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

必要な .DLL ファイルが見つかりません — 実行しようとしているプログラムに必要なファイルがありません。プログラムを削除してから、再インストールします。

1. **スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムの追加と削除** をクリックします。
2. 削除したいプログラムを選択します。
3. **削除** ボタンまたは **変更と削除** ボタンをクリックし、画面の指示メッセージに従います。
4. インストール手順については、プログラムに付属されているマニュアルを参照してください。

セクターが見つかりません — オペレーティングシステムがハードディスクドライブ上のセクターを見つけることができません。ハードディスクドライブが不良セクターを持っているか、FAT が破壊されている可能性があります。Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、ハードディスクドライブのファイル構造を調べます。手順については、Microsoft Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。**スタート** ボタンあるいは Windows Vista® スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。多くのセクターに障害がある場合データをバックアップして、ハードディスクドライブを再フォーマットします。

シークエラー — オペレーティングシステムがハードディスクドライブ上の特定のトラックを見つけることができません。

シャットダウンが失敗しました — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **System Set** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

内部時計の電力低下 — システム設定が破損しています。コンピュータをコンセントに接続してバッテリを充電します。問題が解決されない場合は、セットアップユーティリティを起動してデータの復元を行います（87 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。それからすぐにプログラムを終了します。メッセージが再表示される場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

内部時計が停止しました — システム設定をサポートする予備バッテリに、再充電が必要である可能性があります。コンピュータをコンセントに接続してバッテリを充電します。問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

時計が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください — セットアップユーティリティで設定した時刻または日付が内部時計と一致しません。**Date** および **Time** オプションの設定を修正します（87 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。

タイマーチップカウンタ 2 が失敗しました — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **System Set** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

プロテクトモードで予期せぬ割り込みがありました — キーボードコントローラが誤動作しているか、メモリモジュールの接続に問題がある可能性があります。Dell Diagnostics（診断）プログラムの **System Memory** テストおよび **Keyboard Controller** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

X:¥ にアクセスできません。デバイスの準備ができていません — ドライブにディスクを入れ、もう一度試してみます。

警告：バッテリが極めて低下しています — バッテリの充電量が不足しています。バッテリを交換するか、コンピュータをコンセントに接続します。または、休止状態モード をアクティブにするか、コンピュータをシャットダウンします。

IEEE 1394 デバイスの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

WINDOWS が IEEE 1394 デバイスを認識しているか確認します —

Windows XP の場合

1 **スタート** → **コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** に表示されている**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **システム** をクリックします。
4 **システムのプロパティ** ウインドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
5 **デバイスマネージャ** をクリックします。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン → **Control Panel**（コントロールパネル）→ **System and Maintenance**（システムとメンテナンス）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : User Account Control（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合には、システム管理者に問い合わせて、必要な処理を続けます。

IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合、Windows はデバイスを認識しています。

IEEE 1394 デバイスに問題がある場合 — デル製のデバイスの場合には、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。デバイスが別の製造元から提供されている場合は、その製造元にお問い合わせください。

IEEE 1394 デバイスが正しくコネクタに挿入されているか確認します

キーボードの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

さまざまなチェックを実行しながら Diagnostics（診断）チェックリストに記入します（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）。

メモ : Dell Diagnostics（診断）プログラムまたはセットアップユーティリティを実行するときは、内蔵キーボードを使用します。外付けキーボードをコンピュータに接続しても、内蔵キーボードの機能はそのまま使用できます。

外付けキーボードの問題

 **メモ：**外付けキーボードをコンピュータに接続しても、内蔵キーボードの機能はそのまま使用できます。

キーボードケーブルを確認します — コンピュータをシャットダウンします。キーボードケーブルを取り外し、損傷していないか確認して、ケーブルをしっかりと接続しなおします。

キーボード延長ケーブルを使用している場合、延長ケーブルを外してキーボードを直接コンピュータに接続します。

外付けキーボードを確認します —

1 コンピュータをシャットダウンし、1 分たってから再度電源を入れます。
2 起動ルーチン中にキーボードの Num Lock、Caps Lock、および Scroll Lock のライトが点灯していることを確認します。
3 Windows デスクトップから、**スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **メモ帳** をクリックします。
4 外付けキーボードで何文字か入力し、画面に表示されることを確認します。

   これらの手順を確認ができない場合、外付けキーボードに問題がある可能性があります。

外付けキーボードによる問題であることを確認するため、内蔵キーボードを確認します —

1 コンピュータをシャットダウンします。
2 外付けキーボードを取り外します。
3 コンピュータの電源を入れます。
4 Windows デスクトップから、**スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **メモ帳** をクリックします。
5 内蔵キーボードで何文字か入力し、画面に表示されることを確認します。

   内蔵キーボードでは文字が表示されるのに外付けキーボードでは表示されない場合、外付けキーボードに問題がある可能性があります。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

キーボードの診断テストを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムの **PC-AT Compatible Keyboard** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。テストの結果により、外付けキーボードの問題であると示された場合、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

入力時の問題

テンキーパッドを無効にします — 文字の代わりに数字が表示される場合、<Num Lk> を押して、テンキーパッドを無効にします。NumLock ライトが点灯していないことを確認します。

フリーズおよびソフトウェアの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータが起動しない

AC アダプタがコンピュータとコンセントにきちんと接続されていることを確認します

コンピュータの応答が停止した

注意 : オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを消失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータから応答がない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押します。次に、コンピュータを再起動します。

プログラムの応答が停止するか、プログラムがクラッシュを繰り返す場合

メモ : 通常、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスク、CD 、または DVD に収録されています。

プログラムを終了します —

1 <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2 **タスクマネージャ** → **アプリケーション** をクリックします。
3 反応がなくなったプログラムを選択します。
4 **タスクの終了** をクリックします。

プログラムのマニュアルを参照します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

プログラムが以前の Microsoft® Windows® オペレーティングシステム向けに設計されている

プログラム互換性ウィザードを実行します — Windows XP には、Windows XP オペレーティングシステム環境とは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **プログラム互換性ウィザード** → **次へ** をクリックします。
2 画面に表示される指示に従ってください。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータから応答がない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押します。次に、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティング情報については、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- コンピュータにインストールされているオペレーティングシステムと互換性があるか確認します。
- コンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムと拮抗していないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します

ウイルススキャンプログラムを使って、ハードディスクドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、[スタート] メニューからコンピュータをシャットダウンします

コンピュータでスパイウェアをスキャンします — コンピュータのパフォーマンスが遅いと感じたり、ポップアップ広告を受信したり、インターネットとの接続に問題がある場合は、スパイウェアに感染している恐れがあります。アンチスパイウェア保護を含むアンチウィルスプログラムを使用して（ご使用のプログラムをアップグレードする必要があるかもしれません）、コンピュータのスキャンを行い、スパイウェアを取り除いてください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラムを実行します — 67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。

メモリの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に必要事項を記入します。

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない開いているすべてのプログラムを終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、メモリを増設します（109 ページの「メモリ」を参照）。
- メモリモジュールを取り付けなおして、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します（109 ページの「メモリ」を参照）。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

その他の問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを取り付けなおして（109 ページの「メモリ」を参照）、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（109 ページの「メモリ」を参照）。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

ネットワークの問題

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

一般的注意事項

ネットワークケーブルのコネクタを確認します — ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタおよびネットワークジャックの両方に、しっかりと差し込まれているか確認します。

ネットワークコネクタのネットワークライトを確認します — ライトが点灯しない場合、ネットワークと通信していないことを示しています。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータに A/C 電源アダプタを接続します — バッテリ電源のみの場合は、QuickSet ユーティリティでオンボードネットワークカードを無効にして、バッテリを節約できます。QuickSet ユーティリティの詳細については、123 ページの「Dell™ QuickSet」を参照してください。

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しくて、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ネットワークの種類の詳細については、49 ページの「ネットワークのセットアップと使い方」を参照してください。

PC カードまたは ExpressCard の問題

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

カードを確認します — カードが正しくコネクタに挿入されているか確認します。

WINDOWS でカードが認識されているか確認します — Windows タスク バーにある **ハードウェアの安全な取り外し** アイコンをダブルクリックします。カードが一覧表示されていることを確認します。

デルから購入したカードに問題がある場合 — デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

デル以外から購入したカードに問題がある場合 — PC カードの製造元にお問い合わせください。

電源の問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に必要事項を記入します。

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

電源ライトを確認します — 電源ライトが点灯または点滅している場合は、コンピュータに電源が入っています。電源ライトが点滅している場合、コンピュータはスタンバイモードに入っています。電源ボタンを押してスタンバイモードを終了します。ライトが消灯している場合、電源ボタンを押してコンピュータの電源を入れます。

バッテリを充電します — バッテリが充電されていないことがあります。

1 バッテリを取り付けなおします。
2 AC アダプタをコンピュータとコンセントに接続して使用します。
3 コンピュータの電源を入れます。

メモ : バッテリ駆動時間（バッテリが電力を供給できる時間）は、時間の経過に従って短くなります。バッテリの使用頻度および使用状況によって駆動時間が変わるので、コンピュータの寿命がある間でも新しくバッテリを購入する必要がある場合もあります。

バッテリステータスライトを確認します — バッテリステータスライトが橙色に点滅しているか橙色に点灯している場合は、バッテリの充電が不足しているか、または充電されていません。コンピュータをコンセントに接続します。

バッテリステータスライトが緑色と橙色に点滅している場合、バッテリが高温になっていて、充電できません。コンピュータをシャットダウンし、コンピュータをコンセントから抜いて、バッテリとコンピュータの温度を室温まで下げます。

バッテリステータスライトが速く橙色に点滅している場合、バッテリが不良である可能性があります。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

バッテリの温度を確認してください — バッテリの温度が 0 ℃ 以下では、コンピュータは起動しません。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

AC アダプタを確認します — AC アダプタケーブルの接続を確認します。AC アダプタにライトがある場合、ライトが点灯しているか確認します。

コンピュータを直接コンセントへ接続します — お使いの電源保護装置、電源タップ、および延長コードを取り外して、コンピュータの電源が入るか確認します。

電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、またはその他の機器の電源を切ります。

電源のプロパティを調整します — 30 ページの「電源管理の設定」を参照してください。

メモリモジュールを再度取り付けます — コンピュータの電源ライトが点灯しているのに画面に何も表示されない場合、メモリモジュールを取り付けなおします（109 ページの「メモリ」を参照）。

コンピュータへの十分な電力の確保

お使いのコンピュータは、65 W または 90 W の AC アダプタで使用するように設計されています。ただし、最適なシステムパフォーマンスを得るには、常に 90 W アダプタを使用してください。

65 W の AC アダプタを含む低電力の AC アダプタを使用すると、警告メッセージが表示されることがあります。

ドッキング時の電力

コンピュータが Dell D/Dock ドッキングデバイスに接続されている場合、電力の消費が増加するために、バッテリのみでの通常のコンピュータの動作はできません。コンピュータが Dell D/Dock ドッキングデバイスに接続されている場合、AC アダプタがコンピュータに接続されているか確認します。

コンピュータの電源が入っている状態でのドッキング

コンピュータが動作中に Dell D/Dock ドッキングデバイスまたは Dell D/Port ドッキングデバイスに接続されている場合、AC アダプタがコンピュータに接続されるまでドッキングデバイスは検出されません。

コンピュータがドッキングされている状態で AC 電源が切れた場合

Dell D/Dock ドッキングデバイスまたは Dell D/Port ドッキングデバイスに接続されている間にコンピュータの AC 電源が切れる場合、コンピュータはすぐに低パフォーマンスモードになります。

プリンタの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に必要事項を記入します。

 **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

 **メモ :** プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタの電源がオンになっていることを確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続の情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかり接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

WINDOWS でプリンタを検出します —

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。
2 プリンタが表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。
3 **プロパティ** → **ポート** をクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1: プリンタポート** に設定します。USB プリンタの場合、印刷先のポート が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタに付属されているマニュアルを参照してください。

スキャナの問題

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ : スキャナのテクニカルサポートについては、スキャナの製造元にお問い合わせください。

スキャナのマニュアルを確認します — スキャナのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細に関しては、スキャナのマニュアルを参照してください。

スキャナのロックを解除します — スキャナに固定タブやボタンがある場合、ロックが解除されているか確認します。

コンピュータを再起動して、もう一度スキャンしてみます

ケーブルの接続を確認します —

- ケーブル接続の詳細については、スキャナのマニュアルを参照してください。
- スキャナのケーブルがスキャナとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

MICROSOFT WINDOWS がスキャナを認識しているか確認します —

スタート → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **スキャナとカメラ** をクリックします。

お使いのスキャナが一覧に表示されている場合、Windows はスキャナを認識しています。

スキャナドライバを再インストールします — 手順については、スキャナに付属しているマニュアルを参照してください。

サウンドおよびスピーカの問題

以下を確認しながら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に必要事項を記入します。

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

内蔵スピーカから音が出ない場合

WINDOWS で音量を調節します — 画面右下にある黄色のスピーカのアイコンをダブルクリックして、音量つまみを調節してください。音量が上げてあること、ミュートが選択されていないことを確認します。音の歪みを除去するために音量、低音または高音の調節をします。

サウンド（オーディオ）ドライバを再インストールします — 94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照してください。

外付けスピーカから音が出ない場合

サブウーハーおよびスピーカの電源が入っているか確認します — スピーカに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。

WINDOWS のボリュームコントロールを調節します — 画面右下角にあるスピーカのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあること、ミュートが選択されていないことを確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — コンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカからの音声は聞こえなくなります。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。

オーディオドライバを再インストールします — 94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラムを実行します — 67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。

 **メモ：**MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレイヤーの音量が十分か確認してください。

ヘッドフォンから音が出ない場合

ヘッドフォンのケーブル接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。

WINDOWS で音量を調節します — 画面右下角にあるスピーカのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあること、ミュートが選択されていないことを確認します。

タッチパッドまたはマウスの問題

タッチパッドの設定を確認します —

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **プリンタとその他のハードウェア** → **マウス** をクリックします。
2 設定を変更してみます。

マウスケーブルを確認します — コンピュータをシャットダウンします。マウスケーブルを取り外し、損傷していないか確認して、ケーブルをしっかりと接続しなおします。

マウス延長ケーブルを使用している場合、延長ケーブルを外してマウスを直接コンピュータに接続します。

マウスによる問題であることを確認するため、タッチパッドを確認します —

1 コンピュータをシャットダウンします。
2 マウスを外します。
3 コンピュータの電源を入れます。
4 Windows デスクトップで、タッチパッドを使用してカーソルを動かし、アイコンを選択して開きます。
   タッチパッドが正常に動作する場合、マウスが不良の可能性があります。

セットアップユーティリティの設定をチェックします — セットアップユーティリティで、ポインティングデバイスオプションに正しいデバイスが表示されていることを確認します。（コンピュータは設定を調整しなくても自動的に USB マウスを認識します。）セットアップユーティリティの使い方に関しては、87 ページの「セットアップユーティリティ」を参照してください。

マウスコントローラをテストします — マウスコントローラ（ポインタの動きに影響します）およびタッチパッドまたはマウスボタンの動作を確認するには、Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Pointing Devices** テストグループの **Mouse** テストを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

タッチパッドドライバを再インストールします — 94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照してください。

ビデオおよびディスプレイの問題

これらのチェックを完了したら、Diagnostics（診断）チェックリスト（136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」を参照）に記入します。

 **警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

画面に何も表示されない場合

 **メモ：**お使いのコンピュータに対応する解像度よりも高い解像度を必要とするプログラムをご使用の場合は、外付けモニタをコンピュータに取り付けることをお勧めします。

バッテリを確認します — コンピュータをバッテリで動作している場合は、充電されたバッテリの残量が消耗されています。AC アダプタを使ってコンピュータをコンセントに接続して、コンピュータの電源を入れます。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。

AC アダプタを確認します — AC アダプタケーブルの接続を確認します。AC アダプタにライトがある場合、ライトが点灯しているか確認します。

コンピュータを直接コンセントへ接続します — お使いの電源保護装置、電源タップ、および延長コードを取り外して、コンピュータの電源が入るか確認します。

電源のプロパティを調整します — Windows ヘルプとサポートセンターでスタンバイというキーワードを検索します。**スタート** あるいは → **ヘルプとサポート** をクリックします。

画面モードを切り替えます — コンピュータが外付けモニタに接続されている場合は、<Fn><F8> を押して画面モードをディスプレイに切り替えます。

画面が見にくい場合

輝度を調節します — <Fn> と上下矢印キーを押します。

外付けのサブウーハーをコンピュータまたはモニタから離します — 外付けスピーカにサブウーハーが備わっている場合は、サブウーハーをコンピュータまたは外付けモニタから 60 センチ以上離します。

電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、またはその他の機器の電源を切ります。

コンピュータの向きを変えます — 画質低下の原因となる日光の反射を避けます。

WINDOWS のディスプレイ設定を調節します —

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2 変更したいエリアをクリックするか、**画面** アイコンをクリックします。
3 **画面の解像度** と **画面の色** で、別の設定にしてみます。

VIDEO 診断テストを実行します — エラーメッセージが表示されず、画面の問題があるにもかかわらず画面の一部は表示される場合、Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Video** デバイスグループを実行します（67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。その後、デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

「エラーメッセージ」を参照してください — エラーメッセージが表示される場合、74 ページの「エラーメッセージ」を参照してください。

画面の一部しか表示されない場合

外付けモニタを接続します —

1 コンピュータをシャットダウンして、外付けモニタをコンピュータに取り付けます。
2 コンピュータおよびモニタの電源を入れ、モニタの輝度およびコントラストを調整します。

外付けモニタが動作する場合、コンピュータのディスプレイまたはビデオコントローラが不良の可能性があります。デルにお問い合わせください（135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

11

セットアップユーティリティ

概要



メモ : セットアップユーティリティで使用可能なオプションのほとんどは、オペレーティングシステムによって自動的に設定され、ご自身がセットアップユーティリティで設定したオプションを無効にします。**External Hot Key** オプションは例外で、セットアップユーティリティからのみ有効または無効に設定できます。オペレーティングシステムの設定機能の詳細に関しては、ヘルプとサポートセンターにアクセスしてください（スタート → ヘルプとサポート をクリックします）。

以下のような場合に、セットアップユーティリティを使用します。

- コンピュータのパスワードなど、ユーザーが選択可能な機能を設定または変更する場合
- システムのメモリ容量など現在の設定情報を確認する場合

コンピュータをセットアップしたら、セットアップユーティリティを起動して、システム設定情報とオプション設定を確認します。後で参照できるように、画面の情報を控えておいてください。

セットアップユーティリティ画面では、以下のような現在のコンピュータのセットアップ情報や設定が表示されます。

- システム設定
- 起動順序
- 起動設定およびドッキングデバイス構成の設定
- 基本デバイス構成の設定
- システムセキュリティおよびハードディスクドライブのパスワード設定



注意 : 熟練したコンピュータのユーザーであるか、またはデルテクニカルサポートから指示された場合を除き、セットアップユーティリティプログラムの設定を変更しないでください。設定を間違えるとコンピュータが正常に動作しなくなる可能性があります。

セットアップユーティリティ画面の表示

1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2 DELL™ のロゴが表示されたらすぐに <F2> を押します。入力が遅れて Windows のロゴが表示されたら、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

セットアップユーティリティ画面



メモ : セットアップユーティリティ画面上の特定のオプションの情報を参照するには、そのオプションをハイライト表示して、画面の ヘルプ 領域を参照してください。

セットアップユーティリティでは、設定の主な項目が左側に表示されます。カテゴリの設定タイプを表示するには、そのカテゴリをハイライト表示して、<Enter> を押します。設定タイプをハイライト表示すると、画面の右側にその設定タイプの値が表示されます。画面の明るい色で表示されているオプションの設定は、変更することができます。コンピュータで自動設定され、変更できない値は、明るさを抑えた色で表示されています。

画面の下部には、セットアップユーティリティで使用できるキーの機能が表示されています。

一般的に使用される設定

特定の設定では、新しい設定を有効にするためにコンピュータを再起動する必要があります。

起動順序の変更

起動順序は、オペレーティングシステムを起動するのに必要なソフトウェアがどこにあるかをコンピュータに知らせます。起動順序をコントロールし、デバイスを有効または無効にするには、**System** 項目にある **Boot Sequence** ページを使用します。

 **メモ：**1 回だけの起動順序を変更するには、88 ページの「一回のみの起動の実行」を参照してください。

Boot Sequence のページでは、お使いのコンピュータに搭載されている起動可能なデバイスの一般的なリストが表示されます。以下のような項目がありますが、これ以外の項目が表示されることもあります。

- **Diskette Drive**
- **Modular bay HDD**
- **Internal HDD**
- **CD/DVD/CD-RW drive**

起動ルーチン中に、コンピュータは有効なデバイスをリストの先頭からスキャンし、オペレーティングシステムのスタートアップファイルを検索します。コンピュータがファイルを検出すると、検索を終了してオペレーティングシステムを起動します。

起動デバイスを制御するには、上矢印キーまたは下矢印キーを押してデバイスを選び（ハイライト表示し）ます。これでデバイスを有効または無効にしたり、一覧の順序を変更したりできます。

- デバイスを有効または無効にするには、アイテムをハイライト表示して、スペースキーを押します。有効なアイテムは白く表示され、左側に小さな三角形が表示されます。無効なアイテムは青色または暗く表示され、三角形は付いていません。
- デバイス一覧を再び指示するには、デバイスをハイライト表示して、<U> または <D>（大文字と小文字を区別しない）を押して、ハイライト表示されたデバイスを上または下に動かします。

新しい起動順序は、変更を保存し、セットアップユーティリティを終了するとすぐに有効になります。

一回のみの起動の実行

セットアップユーティリティを起動せずに一回だけの起動順序が設定できます。（ハードディスクドライブ上の診断ユーティリティパーティションにある Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動するためにこの手順を使うこともできます。）

1 **スタート** メニューから、コンピュータをシャットダウンします。
2 コンピュータをドッキングデバイスに接続している場合は、ドッキングを解除します。ドッキングデバイスの手順については、付属のマニュアルを参照してください。
3 コンピュータをコンセントに接続します。

4 コンピュータの電源を入れます。DELL のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。入力が遅れて Windows のロゴが表示されたら、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

5 起動デバイス一覧が表示された場合は、起動したいデバイスをハイライト表示して、<Enter> を押します。

   コンピュータは選択されたデバイスを起動します。

次回コンピュータを再起動するときは、以前の起動順序に戻ります。

COM ポートの変更

Onboard Devices 項目にある **Serial Port** を使って、シリアルポートの COM アドレスをマップしたり、シリアルポートとアドレスを無効にしたりできます。コンピュータのリソースが空くので、別のデバイスが使用できるようになります。

12

ノートブックコンピュータを携帯するときは

コンピュータの識別

- コンピュータにネームタグまたはビジネスカードを取り付けます。
- サービスタグをメモして、コンピュータやキャリングケースとは別の安全な場所に保管します。コンピュータを紛失したり盗難に遭ったりした場合、警察等の公的機関およびデルに連絡する際に、このサービスタグをお知らせください。
- Microsoft® Windows® デスクトップに、**PC の所有者** というファイルを作成します。名前、住所、および電話番号などの情報をこのファイルに記入しておきます。
- クレジットカード会社に問い合わせて、ID タグコードを発行しているかを確認します。

コンピュータの梱包

- コンピュータに取り付けられているすべての外付けデバイスを取り外して、安全な場所に保管します。PC カードに接続されているすべてのケーブルを外し、すべての拡張型 PC カードを取り外します（60 ページの「カードまたはダミーカードの取り外し」を参照）。
- コンピュータをなるべく軽くするため、モジュールベイにあるすべてのデバイスを取り外して、Dell TravelLite™ モジュールを取り付けます。
- メインバッテリおよび携帯するすべての予備バッテリをフル充電します。
- コンピュータをシャットダウンします。
- AC アダプタを取り外します。

注意：ディスプレイを閉じる際に、キーボードまたはパームレスト上に物が残っているとディスプレイに損傷を与える恐れがあります。

- ペーパークリップ、ペン、および紙などの物をキーボードまたはパームレスト上から取り除いた後、ディスプレイを閉じます。
- コンピュータとアクセサリを一緒に入れる場合は、オプションの Dell™ キャリングケースをご利用ください。
- 荷造りの際、コンピュータをシェービングクリームやコロン、香水、食べ物などと一緒に入れないでください。

注意：低温の環境から暖かいところに、または高温の環境から涼しいところにコンピュータを移動する場合は、1 時間程室温にならしてから電源を入れてください。

- コンピュータ、バッテリ、およびハードディスクドライブは、直射日光、汚れ、ほこり、液体などから保護し、極端に高温や低温になる場所を避けてください。
- コンピュータは、車のトランクまたは飛行機の手荷物入れの中で動かないように梱包してください。

携帯中のヒントとアドバイス

 **注意 :** データ損失を防ぐために光学ドライブを使用している間は、コンピュータを動かさないでください。

 **注意 :** コンピュータを荷物として預けないでください。

- バッテリの駆動時間を最大にするために、電力の管理のオプション設定を変更します（30 ページの「電源管理の設定」を参照）。
- 海外にコンピュータを携帯する場合は、通関で所有や使用権を証明する書類（会社所有のコンピュータの場合）が必要な場合があります。訪問予定国の通関規則を調べた上で、自国政府から国際通行許可証（商品パスポートとも呼ばれます）を取得するようお勧めします。
- 渡航先の国ではコンセントの形状がどのタイプなのか確認しておいて下さい。また、それに合ったパワーアダプターを携帯してください。
- クレジットカード会社の多くは、困ったときに便利なサービスをノートブックコンピュータユーザーに提供していますのでご確認ください。

飛行機内での利用

 **注意 :** コンピュータは、金属探知機には絶対に通さないでください。X 線探知機に通すか、手検査を依頼してください。

- 手荷物チェックの際に、コンピュータに電源を入れてチェックする場合もあるので、必ず充電されたバッテリか、AC アダプタと電源ケーブルを携帯してください。
- 飛行機に搭乗する前に、コンピュータの使用が許可されていることを確認してください。航空会社によっては、飛行中の電子機器の使用を禁止している場合があります。すべての航空会社が離着陸の際の使用を禁止しています。

13

ソフトウェアの再インストール

ドライバ

ドライバとは ?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いのデルコンピュータには、出荷時に必要なドライバおよびユーティリティがすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

注意 :『Drivers and Utilities』メディアには、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも収録されている場合があります。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft® Windows® オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合には、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバを更新してください。

Microsoft Windows XP

1 **スタート** → **コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** にある、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **システム** をクリックします。
4 **システムのプロパティ** ウインドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
5 **デバイスマネージャ** をクリックします。

Microsoft Windows Vista®

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。
2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : User Account Control（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合には、システム管理者に問い合わせて必要な処理を続けます。

一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符（[！] の付いた黄色い丸）が付いているものがないか確認します。

デバイス名の横に感嘆符が付いている場合は、再インストールが必要な場合があります。94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照してください。

ドライバおよびユーティリティの再インストール

注意：デルサポートサイト **support.jp.dell.com** および『Drivers and Utilities』メディアでは、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールする場合、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

Windows デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

Windows XP の場合

1 **スタート** をクリックして、**マイコンピュータ** を右クリックします。
2 **プロパティ** → **ハードウェア** → **デバイスマネージャ**
3 新しいドライバがインストールされたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
4 **ドライバ** → **ドライバのロールバック** をクリックします。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。
2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

   メモ：User Account Control（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせて デバイスマネージャ を起動します。

3 新しいドライバがインストールされたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
4 **ドライバ** → **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、97 ページの「Microsoft Windows のシステムの復元の使い方」で、コンピュータを新しいドライバをインストールする前の動作状態に戻します。

Drivers and Utilities メディアの使い方

デバイスドライバのロールバックあるいはシステムの回復を使用しても 問題が解決しない場合は、『Drivers and Utilities』メディアからドライバを再インストールします。

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2 『Drivers and Utilities』メディアを挿入します。

   ほとんどの場合、メディアは自動的に実行されます。実行されない場合、Windows エクスプローラを起動し、CD または DVD ドライブのディレクトリをクリックしてメディアの内容を表示し、次に **autorcd.exe** ファイルをダブルクリックします。CD または DVD を初めて使用する場合、セットアップファイルをインストールするように表示されることがあります。**OK** をクリックして、画面に従って続行します。

3 ツールバーの **言語** ドロップダウンメニューから、ドライバまたはユーティリティに適切な言語（利用可能な場合）をクリックします。**Dell システムをお買い上げくださり、ありがとうございます** 画面が表示されます。

4 **次へ** をクリックします。

メディアは自動的にハードウェアをスキャンし、お使いのコンピュータで使用されているドライバおよびユーティリティを検出します。

5 メディアによるハードウェアのスキャンが終了した後、他のドライバやユーティリティも検出できます。**検索基準** で、**システムモデル**、**オペレーティングシステム**、および **トピック** のドロップダウンメニューから適切なカテゴリを選びます。

コンピュータで使用される特定のドライバとユーティリティのリンクが表示されます。

6 特定のドライバまたはユーティリティのリンクをクリックして、インストールするドライバまたはユーティリティについての情報を表示します。

7 **インストール** ボタン（表示されている場合）をクリックして、ドライバまたはユーティリティのインストールを開始します。画面の指示に従ってインストールを完了します。

インストール ボタンが表示されない場合、自動インストールは選択できません。インストールの手順については、該当する以下の手順を参照するか、または **解凍** をクリックして展開手順に従い、readme ファイルを参照してください。

ドライバファイルへ移動するように指示された場合、ドライバ情報ウィンドウで CD または DVD のディレクトリをクリックして、そのドライバに関連するファイルを表示します。

手作業によるドライバの再インストール

前項で記述されているように、ハードディスクドライブへドライバファイルを解凍して、次の手順を実行します。

Windows XP の場合

1 **スタート** をクリックして、**マイコンピュータ** を右クリックします。

2 **プロパティ** → **ハードウェア** → **デバイスマネージャ** をクリックします。

3 インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします（たとえば、**オーディオ** または **ビデオ**）。

4 インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。

5 **ドライバ** → **ドライバの更新** → **一覧あるいは特定の場所からインストールする（詳細）** → **次へ** をクリックします。

6 **参照** をクリックして、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。

7 適切なドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。

8 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン をクリックして、**Computer**（コンピュータ）を右クリックします。

2 **Properties**（プロパティ）→ **Device Manager**（デバイスマネージャ）をクリックします。

メモ : **User Account Control**（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合は、システム管理者に問い合わせて デバイスマネージャ を起動します。

3 インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします（たとえば、**Audio**（オーディオ）または **Video**（ビデオ））。
4 インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。
5 **Driver**（ドライバ）→ **Update Driver**（ドライバの更新）→ **Browse my computer for driver software**（マイコンピュータでドライバを参照）をクリックします。
6 **Browse**（参照）をクリックして、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。
7 適切なドライバの名前が表示されたら、そのドライバ名をクリックして、**OK** → **Next**（次へ）をクリックします。
8 **Finish**（完了）をクリックして、コンピュータを再起動します。

Windows XP と Windows Vista オペレーティングシステムでのハードウェアに関するトラブルシューティングの使い方

デバイスが OS のセットアップ中に検知されない、または、検知されても設定が正しくない場合は、非互換性の問題を解決するためにハードウェアに関するトラブルシューティングを使用できます。

Windows XP の場合

1 **スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。
2 検索フィールドでハードウェアに関するトラブルシューティングと入力し、次に <Enter> を押して検索を始めます。
3 **問題を解決する** セクションで、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** のリストで、現在の不具合に最も近いオプションを選択し、**次へ** をクリックして、残りのトラブルの解決手順に従います。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。
2 検索フィールドで `hardware troubleshooter`（ハードウェアに関するトラブルシューティング）と入力し、次に <Enter> を押して検索を始めます。
3 **hardware troubleshooter**（ハードウェアに関するトラブルシューティング）の検索結果で、現在の不具合に最も近いオプションを選択し、残りのトラブルの解決手順に従います。

オペレーティングシステムの復元

次の方法で、お使いのオペレーティングシステムを復元することができます。

- Microsoft® Windows® XP と Windows Vista® のシステムの復元では、データファイルに影響を及ぼすことなく、お使いのコンピュータを以前の動作状態に戻します。データファイルを保護しながら、オペレーティングシステムを復元する最初の解決策として、システムの復元を使用してください。
- コンピュータに『オペレーティングシステム』メディアが付属している場合は、このメディアを使ってオペレーティングシステムを復元できます。ただし、『オペレーティングシステム』メディアを使用すると、ハードディスクドライブ上のデータもすべて削除されます。システムの復元でオペレーティングシステムの問題を解決できなかった場合*のみ*、このメディアを使用してください。

Microsoft Windows のシステムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft Windows オペレーティングシステムのシステムの復元オプションを使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元でコンピュータに行った変更はすべて元の状態へ完全に戻すことが可能です。

 **注意：**データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元は、データファイルの変更を監視したり、データファイルを復元することはできません。

 **メモ：**このマニュアルの手順は、Windows のデフォルトビュー用ですので、お使いの Dell™ コンピュータを Windows クラシック表示に設定していると動作しない場合があります。

システムの復元の開始

Windows XP の場合

 **注意：**コンピュータを前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **システムの復元** をクリックします。

2 **コンピュータを以前の状態に復元する** または **復元ポイントの作成** のいずれかをクリックします。

3 **次へ** をクリックします。画面に表示される残りのプロンプトに従います。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。

2 検索ボックスで、**System Restore**（システムの復元）と入力し、<Enter> を押します。

 **メモ：User Account Control**（ユーザーアカウントの管理）ウィンドウが表示されます。コンピュータのシステム管理者の場合は、**Continue**（続行）をクリックします。システム管理者ではない場合には、システム管理者に問い合わせて必要な処理を続けます。

3 **Next**（次へ）をクリックします。画面に表示される残りのプロンプトに従います。

システムの復元により不具合が解決しなかった場合、最後に行ったシステムの復元を取り消すことが可能です。最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、97 ページの「最後のシステムの復元を元に戻す」を参照してください。

最後のシステムの復元を元に戻す

 **注意：**最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

Windows XP の場合

1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** → **システムの復元** をクリックします。

2 **以前の復元を取り消す** → **次へ** をクリックします。

Windows Vista の場合

1 Windows Vista スタートボタン → **Help and Support**（ヘルプとサポート）をクリックします。

2 検索ボックスで、**System Restore**（システムの復元）と入力し、<Enter> を押します。

3 **Undo my last restoration**（以前の復元を取り消す）→ **Next**（次へ）をクリックします。

システムの復元の有効化

 **メモ :** Windows Vista では、利用可能なディスク領域の大きさに関わらず、システムの復元は無効化されません。したがって、次の手順は Windows XP にのみ適用されます。

200 MB より空容量が少ないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** → **コントロールパネル** → **パフォーマンスとメンテナンス** → **システム** → **システムの復元** をクリックします。

2 **システムの復元を無効にする** にチェックマークが付いていないことを確認します。

オペレーティングシステムメディアの使い方

作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows オペレーティングシステムを再インストールすることを検討する前に、まず Windows のデバイスドライバのロールバックを試してみます。94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照してください。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合、システムの復元を使ってオペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。97 ページの「Microsoft Windows のシステムの復元の使い方」を参照してください。

 **注意 :** インストールを実行する前に、お使いのプライマリハードディスクドライブ上のすべてのデータファイルのバックアップを作成しておいてください。標準的なハードディスクドライブ構成において、プライマリハードディスクドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム』メディア
- Dell『Drivers and Utilities』メディア

 **メモ :** Dell『Drivers and Utilities』メディアには、工場の組み立て時にインストールされたドライバが収録されています。Dell『Drivers and Utilities』メディアを使用して、必要なドライバをロードします。お使いのコンピュータの購入場所、メディアの注文の有無により、Dell『Drivers and Utilities』メディアおよび『オペレーティングシステム』メディアがコンピュータに付属されない場合があります。

Windows の再インストール

再インストール処理を完了するには、1 ～ 2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

 **注意 :**『オペレーティングシステム』メディアは、Windows の再インストール用のオプションを提供しています。オプションはファイルを上書きして、ハードディスクドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows を再インストールしないでください。

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

2 『オペレーティングシステム』メディアを挿入します。`Install Windows`（のインストール）のメッセージが表示されたら、**終了** をクリックします。

3 コンピュータを再起動します。

DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ：キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されたときには、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるのを待ち、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおしてください。

メモ：次の手順は、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

4 起動デバイスのリストが表示されたら、**CD/DVD/CD-RW Drive** をハイライト表示して <Enter> を押します。

5 **Boot from CD-ROM** を選択するにはいずれかのキーを押します。

6 画面の指示に従ってインストールを完了します。

デバイスドライバの再インストール

システムのデバイスドライバを再インストールまたは、アップデートする必要がある場合、Microsoft Windows ではそのインストール手順について、特に規定はしていません。ただし、デルでは以下の手順でインストールすることをお勧めします。

1	ノートブックシステムソフトウェア（NSS）	重要なオペレーティングシステムアップデートのコンパイル
2	チップセット	オペレーティングシステムによる、システム基板コンポーネントとコントローラのコントロールをサポートします。
3	ビデオコントローラ	ビデオパフォーマンスの拡張
4	ネットワークインタフェースカード（NIC）	ネットワークコントローラの有効化と拡張
5	サウンドデバイス	オーディオコントローラの有効化と拡張
6	モデム	モデムの有効化と拡張
7	ワイヤレスネットワークカード	ワイヤレスネットワークコントローラの有効化と拡張
8	BlueTooth® モジュール	Bluetooth コントローラの有効化と拡張
9	PC カード /ExpressCard コントローラ	PC カードまたは ExpressCard コントローラの有効化と拡張
10	タッチパッド	ポインティングデバイス機能の拡張
11	その他	コンピュータに接続されたハンドヘルドコンピュータ、スキャナ、MP3 プレーヤ、またはデジタルカメラなどのその他のデバイスや周辺機器

14

部品の増設および交換

作業を開始する前に

本章では、コンピュータのコンポーネントの取り付けおよび取り外しの手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 101 ページの「コンピュータの電源を切る」および 101 ページの「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- お使いの Dell™ 『製品情報ガイド』の安全に関する情報を読んでいること。

奨励するツール

このマニュアルで説明する操作には、以下のツールが必要です。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- 細めのプラスチックスクライブ
- フラッシュ BIOS のアップデートプログラム（デルサポートサイト **support.jp.dell.com** を参照）

コンピュータの電源を切る


注意 : データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1 オペレーティングシステムをシャットダウンします。

a 開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムを終了し、**スタート** → **シャットダウン** をクリックします。

b **シャットダウン** → **OK** を選択します。

オペレーティングシステムのシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。

2 コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 4 秒間押し続けて 電源を切ります。

コンピュータ内部の作業を始める前に

コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。


警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

 **警告 : 部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく端を持つようにしてください。**

 **注意 :** コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。

 **注意 :** ケーブルを外すときは、コネクタまたはプルタブの部分を持ち、ケーブル自身を引っ張らないでください。ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを抜く場合、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。

 **注意 :** コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1 コンピュータのカバーに傷がつかないように、作業台が平らであり、汚れていないことを確認します。

2 コンピュータの電源を切ります（101 ページの「コンピュータの電源を切る」を参照）。

 **注意 :** ネットワークケーブルを外すには、まずネットワークケーブルをコンピュータから外し、次に壁のネットワークコネクタから外します。

3 電話ケーブルとネットワークケーブルをすべてコンピュータから外します。

4 コンピュータ、および取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから外します。

 **注意 :** システム基板の損傷を防ぐため、コンピュータで作業を行う前にメインバッテリを取り外してください。

5 バッテリを取り外します（31 ページの「バッテリの交換」を参照）。

6 電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。

7 取り付けられている ExpressCard または PC カードをすべて取り外します（60 ページの「カードまたはダミーカードの取り外し」を参照）。

ハードディスクドライブ

 **警告 : ドライブがまだ熱いうちにハードディスクドライブをコンピュータから取り外す場合は、ハードディスクドライブの金属製のハウジングに手を触れないでください。**

 **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

 **注意 :** データの損失を防ぐため、ハードディスクドライブを取り外す前に必ずコンピュータの電源を切ってください。コンピュータの電源が入っているとき、スタンバイモードのとき、または休止状態モードのときにハードディスクドライブを取り外さないでください。

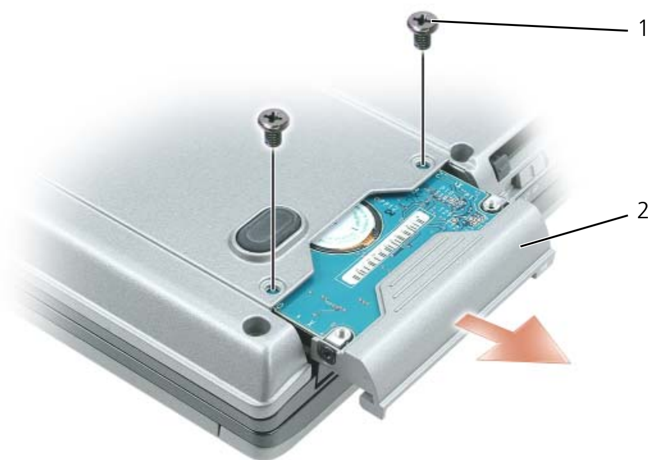
 **注意 :** ハードディスクドライブは大変壊れやすく、わずかにぶつけただけでもドライブが損傷を受ける場合があります。

 **メモ :** デルではデル製品以外のハードディスクドライブに対する互換性の保証およびサポートの提供は行っておりません。

 **メモ :** デル製品以外のハードディスクドライブを取り付ける場合は、オペレーティングシステム、ドライバ、およびユーティリティを新しいハードディスクドライブにインストールする必要があります。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 コンピュータを裏返して、シャーシにハードディスクドライブキャリアを固定している 2 本のネジを取り外します。



1	ネジ（2）	2	ハードディスクドライブ

注意：ハードディスクドライブをコンピュータに取り付けていないときは、保護用静電気防止パッケージに保管します。『製品情報ガイド』の「静電気障害への対処」を参照してください。

3 ハードディスクドライブキャリアをコンピュータから引き出します。

4 新しいドライブを梱包から取り出します。

ハードディスクドライブを保管するためや配送のために、梱包を保管しておいてください。

注意：ドライブを所定の位置に挿入するには、均等に力を加えてください。力を加えすぎると、コネクタが損傷する恐れがあります。

5 新規のハードディスクドライブを、ベイおよびコネクタに完全に収まるまでスライドさせます。

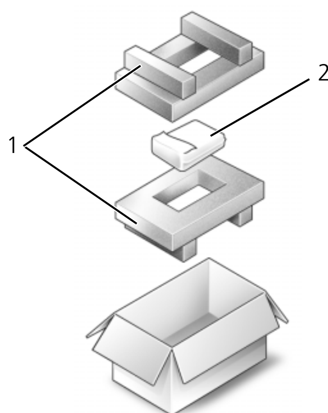
6 ネジを締めます。

7 お使いのコンピュータで使用するオペレーティングシステムをインストールします（96 ページの「オペレーティングシステムの復元」を参照）。

8 ドライバおよびユーティリティをインストールします（94 ページの「ドライバおよびユーティリティの再インストール」を参照）。

ハードディスクドライブをデルに返品する場合

ハードディスクドライブをデルに返品する場合は、そのドライブが梱包されていた箱、または同等の発泡スチロール製の梱包材に入れて返送してください。正しく梱包しないと、ハードディスクドライブが運搬中に破損する場合があります。



1	発泡スチロール製の梱包材	2	ハードディスクドライブ

メディアベイ

 **メモ :** デバイス固定ネジが取り付けられていない場合は、コンピュータが動作中でドッキングデバイスに接続されている間でも、デバイスを取り外したり取り付けたりすることができます。

デバイス固定ネジの取り外し

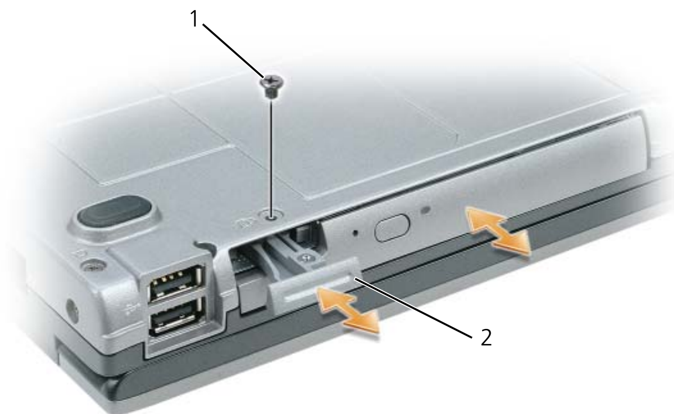
デバイス固定ネジが取り付けてある場合、デバイスを取り外す前に、デバイス固定ネジを取り外す必要があります。

1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してから、コンピュータをシャットダウンします。

2 コンピュータがドッキングデバイスに接続されている場合、ドッキングを解除します。ドッキングデバイスの手順については、付属のマニュアルを参照してください。

3 ディスプレイを閉じて、コンピュータを裏返します。

4 細めのプラスドライバを使って、コンピュータの底面からデバイス固定ネジを取り外します。



1 デバイス固定ネジ　　2 デバイスリリースラッチ

メディアベイデバイスの取り外しと取り付け

注意 : デバイスへの損傷を防ぐため、コンピュータにデバイスを取り付けない場合、デバイスは乾燥した安全な場所に保管し、上から力を加えたり、重いものを載せたりしないでください。

メモ : デバイス固定ネジが取り付けられていない場合は、コンピュータが動作中で、ドッキングデバイスに接続されている間でも、デバイスを取り外したり、取り付けたりすることができます。

1 デバイス固定ネジが取り付けられている場合は、コンピュータの底面からこのネジを外します（104 ページの「デバイス固定ネジの取り外し」を参照）。

2 コンピュータが実行中である場合は、タスクバーにある **ハードウェアの安全な取り外し** アイコンをダブルクリックし、取り出すデバイスをクリックして **停止** をクリックします。

3 デバイスリリースラッチを押します。

4 デバイスをメディアベイから取り出します。



5 新しいデバイスがベイにカチッと収まるまで押します。

ヒンジカバー

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : 静電気放出を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用したり、定期的に塗装されていない金属面（コンピュータの背面にあるコネクタなど）に触れたりして、静電気を除去します。

注意 : ヒンジカバーは壊れやすいので、無理な力を加えると損傷する可能性があります。ヒンジカバーの取り外しには注意してください。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 コンピュータの表面を上にして、ディスプレイを約 180 度開き、作業面に対して平らになるようにします。

注意 : ヒンジカバーへの損傷を防ぐため、カバーの両側を同時に持ち上げないでください。

3 スクライブをくぼみに差し込んで、ヒンジカバーの右側を慎重に持ち上げます。



1	ヒンジカバー	2	くぼみ

4 ヒンジカバーを緩めて持ち上げ、右から左に動かして取り外します。

5 ヒンジカバーを取り付けるには、まず左側をヒンジカバースロットに挿入して左から右に押し、カバーを所定の位置にカチッという感触が持てるまではめ込みます。

キーボード

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : 静電気放出を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用したり、定期的に塗装されていない金属面（コンピュータの背面にあるコネクタなど）に触れたりして、静電気を除去します。

キーボードを取り外すには、以下の手順を実行します。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

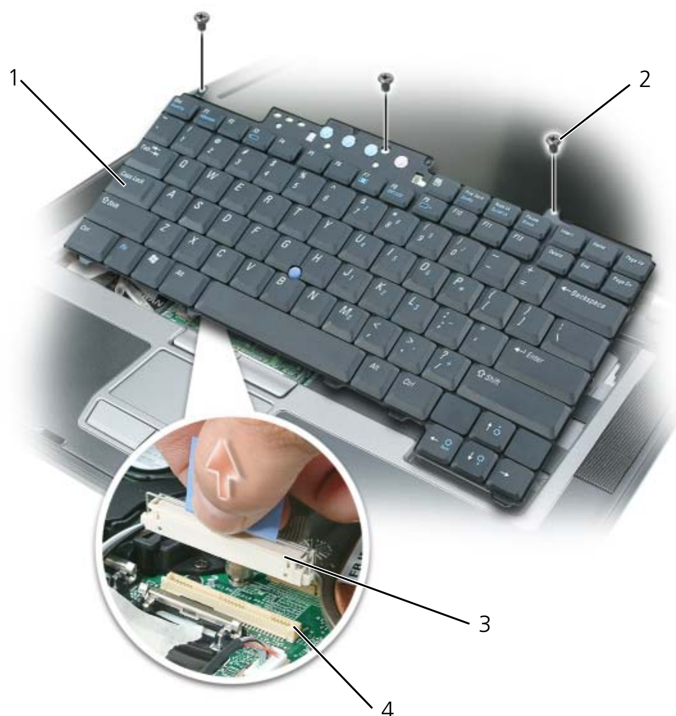
2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。

3 キーボードの上部にある 3 本 のネジを外します。

注意 : キーボード上のキーキャップは壊れたり、外れたりしやすく、また取り付けに時間がかかります。キーボードの取り外しや取り扱いには注意してください。

4 キーボードを前方に回転させてパームレストの上に置き、システム基板のキーボードコネクタにアクセスできるようにします。

5 プルタブを引き上げて、キーボードケーブルコネクタをシステム基板のキーボードコネクタから外します。



1	キーボード	2	キーボードネジ	3	ケーブルコネクタ
4	キーボードコネクタ				

注意：キーボード取り付け中にパームレストの損傷を防ぐため、キーボード前面の端についているタブをパームレストに差し込んでから、キーボードを所定の位置に固定します。

キーボードを取り付けるには、以下の手順を実行します。

1 キーボードコネクタをシステム基板に取り付けます。
2 キーボードの前面の端に沿ってあるタブをパームレストに差し込み、キーボードをパームレストの上に下ろします。
3 キーボード上部の 3 本のネジを元どおりに取り付けます。
4 ヒンジカバーを取り付けます。

メモリ

システム基板にメモリモジュールを取り付けると、コンピュータのメモリ容量を増やすことができます。お使いのコンピュータに対応するメモリの情報については、125 ページの「仕様」を参照してください。必ずお使いのコンピュータ用のメモリモジュールのみを取り付けてください。

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意 : システム基板の損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を行う前にメインバッテリを取り外してください。

メモ : デルから購入されたメモリモジュールは、お使いのコンピュータの保証範囲に含まれます。

コンピュータには、「DIMM A」および「DIMM B」という 2 つのメモリスロットがあります。DIMM A は、コンピュータ上部のキーボードの下にあります。DIMM B は、コンピュータ下部のメモリモジュールの下にあります。DIMM A は出荷時に構成された基本的なメモリモジュールを保持します。増設メモリを購入していない場合は、DIMM B は空のままです。通常、メモリを追加する場合は DIMM B を使用します。メモリをアップグレードする場合は、メモリを DIMM A および B（アップグレードの規模により異なります）に取り付ける必要があります。

DIMM A コネクタのメモリモジュールを取り付ける場合は、以下の操作を実行します。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。
3 キーボードを取り外します（107 ページの「キーボード」を参照）。
4 コンピュータ背面にある塗装されていない金属製のコネクタに触れて、身体の静電気を除去します。

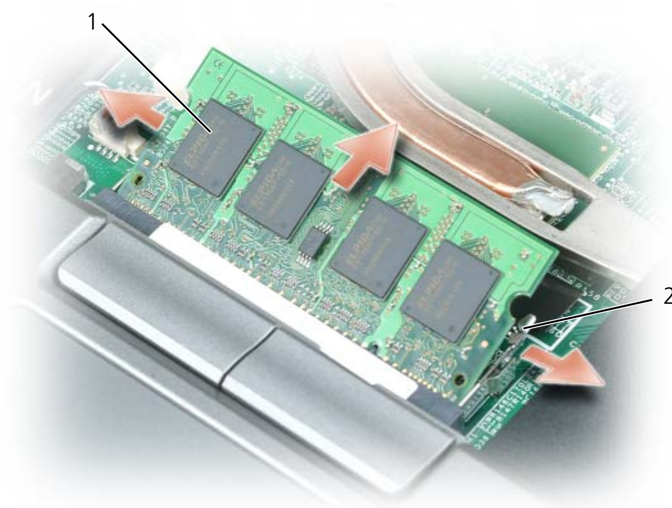
注意 : その場を離れた後、コンピュータに戻るときには再び静電気を除去してください。

5 メモリモジュールを交換する場合は、既存のモジュールを取り外します。

注意 : メモリモジュールコネクタへの損傷を防ぐため、メモリモジュールの固定クリップを広げるためにツールを使用しないでください。

a メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップをモジュールが持ち上がるまで指先で慎重に広げます。

b モジュールをコネクタから取り外します。



1　メモリモジュール　　2　固定クリップ（2）

 **注意：**メモリモジュールは、コネクタへの損傷を防ぐために 45 度の角度で差し込んでください。

 **メモ：**メモリモジュールが正しく取り付けられていない場合、コンピュータは正常に起動しません。この場合、エラーメッセージは表示されません。

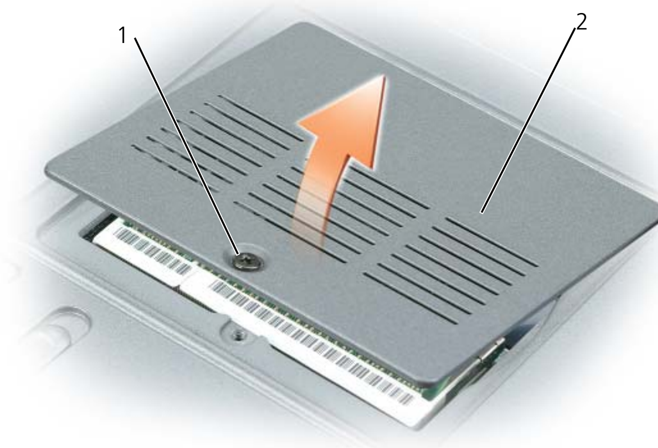
6 身体の静電気を除去してから、新しいメモリモジュールを取り付けます。
   a モジュールエッジコネクタの切り込みをコネクタスロットのタブに合わせます。
   b モジュールを 45 度の角度でしっかりとスロットに挿入し、メモリモジュールがカチッと所定の位置に収まるまで押し下げます。カチッという感触が得られない場合、モジュールを取り外し、もう一度取り付けます。
7 キーボードを取り付けます（107 ページの「キーボード」を参照）。
8 ヒンジカバーを取り付けます（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。
9 バッテリをバッテリベイに取り付けるか、または AC アダプタをコンピュータおよびコンセントに接続します。
10 コンピュータの電源を入れます。

コンピュータは起動時に、増設されたメモリを検出してシステム構成情報を自動的に更新します。

コンピュータに取り付けられたメモリ容量を確認するには、**スタート** あるいは → **ヘルプとサポート** → **コンピュータの情報** をクリックします。

DIMM B コネクタのメモリモジュールを取り付ける場合は、以下の操作を実行します。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
2 コンピュータを裏返して、メモリモジュールカバーのネジを緩め、カバーを取り外します。



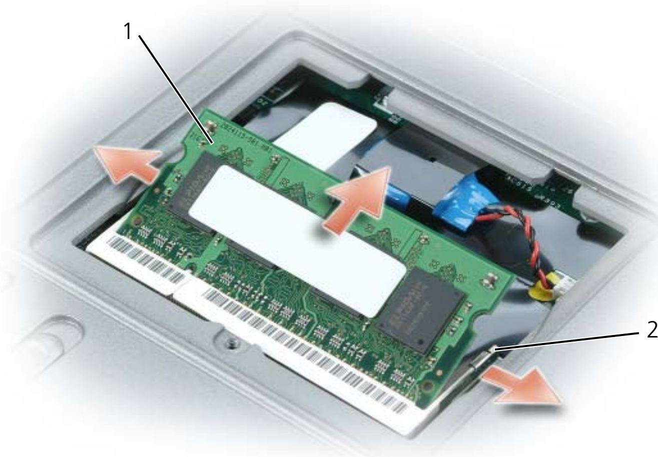
1	ネジ	2	メモリモジュールカバー

注意：メモリモジュールコネクタへの損傷を防ぐため、メモリモジュールの固定クリップを広げるためにツールを使用しないでください。

3 メモリモジュールを交換する場合は、既存のモジュールを取り外します。

a メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップをモジュールが持ち上がるまで指先で慎重に広げます。

b モジュールをコネクタから取り外します。



1	メモリモジュール	2	固定クリップ（2）

注意：2 つのコネクタにメモリモジュールを取り付ける必要がある場合は、先に「DIMMA」とラベルされているコネクタにメモリモジュールを取り付けてから、「DIMMB」とラベルされているコネクタにモジュールを取り付けます。コネクタの損傷を避けるために、メモリモジュールを 45 度の角度で挿入します。

メモ：メモリモジュールが正しく取り付けられていない場合、コンピュータは正常に起動しません。この場合、エラーメッセージは表示されません。

4 身体の静電気を除去してから、新しいメモリモジュールを取り付けます。

a モジュールエッジコネクタの切り込みをコネクタスロットのタブに合わせます。

b モジュールを 45 度の角度でしっかりとスロットに挿入し、メモリモジュールがカチッと所定の位置に収まるまで押し下げます。カチッという感触が得られない場合、モジュールを取り外し、もう一度取り付けます。

5 メモリモジュールカバーを取り付け、ネジを締めます。

注意：カバーが閉まりにくい場合、モジュールを取り外して、もう一度取り付けます。無理にカバーを閉じると、コンピュータを破損する恐れがあります。

6 バッテリをバッテリベイに取り付けるか、または AC アダプタをコンピュータおよびコンセントに接続します。

7 コンピュータの電源を入れます。

コンピュータは起動時に、増設されたメモリを検出してシステム構成情報を自動的に更新します。

コンピュータに取り付けられたメモリ容量を確認するには、**スタート** あるいは → **ヘルプとサポート** → **コンピュータの情報** をクリックします。

SIM カード

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 バッテリを取り外します（31 ページの「バッテリの交換」を参照）。



1 SIM カード

3 角が切り取られている方を実装部から遠ざけて持ち、SIM カードを実装部にスライドさせて差し込みます。

ワイヤレスカード

コンピュータと一緒にワイヤレス LAN カードまたはワイヤレス WAN カードを注文された場合、カードはすでに取り付けてあります。

⚠ **警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意 : システム基板の損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を行う前にメインバッテリを取り外してください。

ワイヤレスローカルエリアネットワーク（ワイヤレス LAN）カード

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。

3 キーボードを取り外します（107 ページの「キーボード」を参照）。

4 コンピュータ背面にある塗装されていない金属製のコネクタに触れて、身体の静電気を除去します。

メモ : その場を離れた後、コンピュータに戻るときには再び静電気を除去してください。

5 まだカードが取り付けられていない場合は、手順 6 を行ってください。カードを交換する場合は、既存のカードを取り外します。

a アンテナケーブルをカードから外します。



1 アンテナケーブル

b カードがわずかに浮き上がるまで、金属製の固定ブラケットをカードから押し離して、カードを取り出します。



1	ワイヤレス LAN カード	2	金属製の固定ブラケット

c　カードをコネクタから取り外します。

注意：カードコネクタは正しく挿入できるよう設計されています。挿入時に抵抗がある場合は、カードがコネクタと揃うように取り付けなおします。

メモ：WLAN カードコネクタに WWAN カードを挿入しないでください。

メモ：ワイヤレス LAN カードには、注文したカードのタイプによって 2 つまたは 3 つのアンテナコネクタが付いています。

6　カードを取り付けるには、次の手順を実行します。

注意：ワイヤレス LAN カードの損傷を避けるため、カードの上や下に決してケーブルを置かないでください。

a　ワイヤレス LAN カードのスペースを確保するため、アンテナケーブルを邪魔にならない位置に動かします。

b　カードを 45 度の角度でコネクタに合わせ、カチッという感触が得られるまで、カードをコネクタに押し込みます。

メモ：ワイヤレス LAN カードには、注文したカードのタイプによって 2 つまたは 3 つのアンテナコネクタが付いています。ほとんどのアンテナコネクタは、ケーブルの色に対応する色で印が付けられています。

メモ：どのケーブルをどのコネクタに接続するかという具体的な情報に関しては、お使いのワイヤレス LAN カードに付属のマニュアルを参照してください。

7　アンテナケーブルをワイヤレス LAN カードに接続して、ケーブルを正しく配線します。

モバイルブロードバンドまたはワイヤレスワイドエリアネットワーク（ワイヤレス WAN）カード

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。

3 キーボードを取り外します（107 ページの「キーボード」を参照）。

4 コンピュータ背面にある塗装されていない金属製のコネクタに触れて、身体の静電気を除去します。

メモ：その場を離れた後、コンピュータに戻るときには再び静電気を除去してください。

5 まだカードが取り付けられていない場合は、手順 6 を行います。カードを交換する場合は、既存のカードを取り外します。

a アンテナケーブルをカードから外します。



1 アンテナケーブル

b カードがわずかに浮き上がるまで、金属製の固定ブラケットをカードから押し離して、カードを取り出します。



1	ワイヤレス WAN カード	2	金属製の固定ブラケット

c カードをコネクタから取り外します。

注意：カードコネクタは正しく挿入できるよう設計されています。挿入時に抵抗がある場合は、カードがコネクタと揃うように取り付けなおします。

6 カードを取り付けます。

注意：ワイヤレス LAN カードの損傷を避けるため、カードの上や下に決してケーブルを置かないでください。

a カードを 45 度の角度でコネクタに合わせ、カチッという感触が得られるまで、カードをコネクタに押し込みます。

メモ：ほとんどのアンテナコネクタは、ケーブルの色に対応する色で印が付けられています。どのケーブルをどのコネクタに接続するかという具体的な情報に関しては、お使いのワイヤレス WAN カードに付属のマニュアルを参照してください。

b アンテナケーブルをワイヤレス WAN カードに接続します。ケーブルが正しく配線されていることを確認してください。

フラッシュキャッシュモジュール（FCM）

FCM あるいはフラッシュキャッシュモジュールとは、お使いのコンピュータの性能を改善するのに有用な内蔵のフラッシュドライブです。

メモ：このカードは、Microsoft Windows Vista® オペレーティングシステムのみと互換性があります。

メモ：コンピュータと一緒に FCM カードを注文された場合は、カードはすでに取り付けられています。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。

3 キーボードを取り外します（107 ページの「キーボード」を参照）。

4 コンピュータ背面にある塗装されていない金属製のコネクタに触れて、身体の静電気を除去します。

メモ : その場を離れた後、コンピュータに戻るときには再び静電気を除去してください。

5 保護スリーブからアンテナケーブルをずらして、FCM カードの先端から外します。

6 カードがわずかに浮き上がるまで、金属製の固定ブラケットをカードから押し離して、カードを取り出します。



1	FCM カード	2	アンテナケーブル（2）	3	金属製固定ブラケット（2）

7 カードをコネクタから取り外します。



1 FCM カード

注意 : このカードを取り付けるときには、2 本のアンテナケーブルがカードの下にないことを確認してください。アンテナケーブルは、FCM カードの上を横切り、保護スリーブに入るように設計されています。これらのアンテナケーブルの先端にカードを取り付けると、お使いのコンピュータが損傷する恐れがあります。FCM カードは WLAN カードコネクタにも、取り付けないでください。FCM カードは WWAN カードコネクタに取り付けて使用するように設計されています。カードを間違ったコネクタに取り付けると、お使いのコンピュータが損傷する恐れがあります。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジ内蔵カード

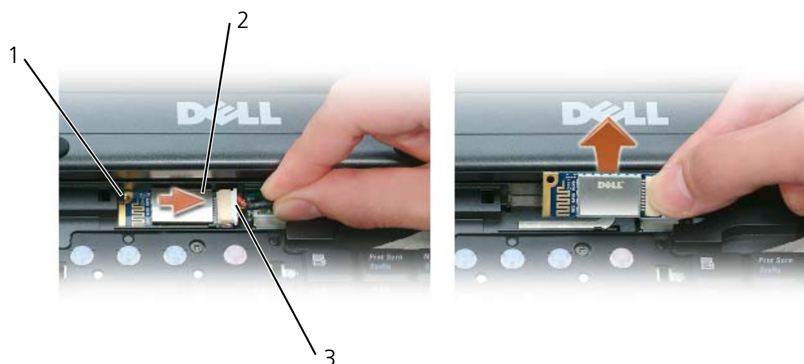
警告 : 以下の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意をよく読み、指示に従ってください。

注意 : 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用したり、コンピュータの背面パネルにあるコネクタなどに定期的に触れたりして、静電気を身体から除去してください。

注意 : システム基板の損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を行う前にメインバッテリを取り外してください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジ内蔵カードを購入された場合は、お使いのコンピュータにすでに取り付けられています。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。



1	金属製のタブ	2	カード	3	ケーブルコネクタ

注意 : カード、カードケーブル、または周辺コンポーネントの損傷を防ぐため、カードの取り外しは慎重に行ってください。

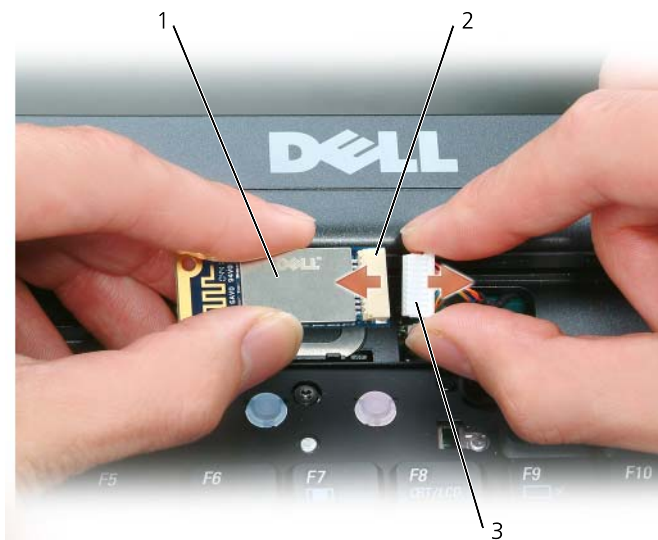
3 カードをコンピュータの実装部から取り外します。

a コンピュータの正面を手前にして、カードを右へスライドさせます。

b カードをコンピュータの正面方向に向かって回転させます。

c カードをコンピュータから取り外します。

4 ケーブルコネクタからカードを取り外します。



1	カード	2	カードコネクタ	3	ケーブルコネクタ

コイン型電池

⚠ **警告 : 以下の手順を実行する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。**

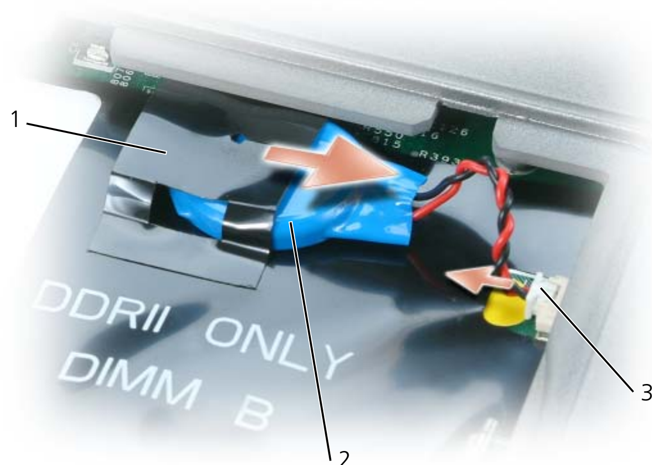
注意 : 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用したり、コンピュータの背面パネルにあるコネクタなどに定期的に触れたりして、静電気を身体から除去してください。

注意 : システム基板の損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を行う前にメインバッテリを取り外してください。

1 101 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。

2 ヒンジカバーを取り外します（106 ページの「ヒンジカバー」を参照）。

3 キーボードを取り外します（107 ページの「キーボード」を参照）。



1	透明シート	2	コイン型電池	3	バッテリケーブルコネクタ

4 バッテリケーブルコネクタをシステム基盤のコネクタから外します。

5 プラスチックを破損しないよう注意しながら、透明シートの隅をバッテリから少し持ち上げます。

6 透明シートを持ち上げた状態でバッテリをつかみ、実装部から引き出します。

15

Dell™ QuickSet

Dell™ QuickSet を使用すると、次に示すタイプの設定や、その設定の表示を簡単に行うことができます。

- ネットワークの接続性
- 電力の管理
- ディスプレイ
- システム情報

Dell™ QuickSet で実行する内容に応じて、Microsoft® Windows® タスクバーにある QuickSet アイコンを クリック、ダブルクリック、または右クリックして、QuickSet を開始します。タスクバーは画面の右下隅にあります。

QuickSet の詳細に関しては、タスクバーにある QuickSet アイコンを右クリックして、**ヘルプ** をクリックします。

16

仕様

プロセッサ	
プロセッサの種類	Intel® Core™ 2 Duo プロセッサ
L1 キャッシュ	64 KB（内蔵）
L2 キャッシュ	4 MB
外付けバスの周波数	800 MHz

システム情報	
システムチップセット	Intel PM965
データバス幅	64 ビット
DRAM バス幅	64 ビット
プロセッサアドレスバス幅	36 ビット
グラフィックスバス	内蔵

PC カード	
カードバスコントローラ	O2Micro OZ711EZ1
PC カードコネクタ	1（タイプ I または タイプ II カード 1 枚に対応）
サポートするカード	3.3 V および 5 V
PC カードコネクタサイズ	80 ピン
データ幅（最大）	PCMCIA 16 ビット カードバス 32 ビット

PCI-E カード	
Intel® Turbo メモリ	512 MB、1 GB（フラッシュキャッシュテクノロジについては 117 ページの「フラッシュキャッシュモジュール（FCM）」を参照してください。）

スマートカード	
読み書き機能	すべての ISO 7816 1/2/3/4 マイクロプロセッサカードに読み書き（T=0、T=1）
サポートするカード	3 V および 5 V
プログラムテクノロジサポート	Java カード
インタフェース速度	9,600 ～ 115,200 BPS
EMV レベル	レベル 1 認定
WHQL 認定	PC/SC
互換性	PKI 環境で互換
取り付け / 取り出しのサイクル	100,000 回まで認定

メモリ	
メモリモジュールコネクタ	ユーザーがアクセス可能な SODIMM ソケット × 2
メモリモジュールの容量	512 MB、1 GB、2 GB
メモリのタイプ	667 DDR2 SDRAM
最小メモリ	1 GB
最大搭載メモリ	デュアルチャネルで最高 4 GB

ポートとコネクタ	
シリアル	9 ピンコネクタ 16550C 互換、16 バイトバッファコネクタ
ビデオ	15 ホールコネクタ（メス）
オーディオ	マイクミニコネクタ、ステレオヘッドフォン / スピーカミニコネクタ
USB	4 ピン USB 2.0 対応コネクタ × 3
IEEE 1394	4 ピン シリアルコネクタ
S ビデオ TV 出力	7 ピンミニ DIN コネクタ（コンポジットビデオアダプタケーブルにオプションの S ビデオ）
モデム	RJ-11 サポート
ネットワークアダプタ	RJ-45 ポート
D-Dock	標準 D-Dock コネクタ、拡張ポートレプリケータおよび拡張ステーションなどのデバイス用

ネットワーク	
モデム：	
タイプ	v.92 56K MDC
コントローラ	ソフトモデム
インタフェース	Intel ハイ・デフィニッション・オーディオバス
ネットワークアダプタ	オンボードの 1 GB Ethernet LAN
ワイヤレス	内蔵 WLAN、WWAN、および Bluetooth® ワイヤレスサポート（オプションカードをご購入の場合）

ビデオ	
ビデオタイプ	システム基板搭載の外付けグラフィックス
ビデオコントローラ	nVIDIA Quadro FX 360M
ビデオメモリ	nVIDIA Quadro FX 360M — 256 MB ビデオメモリ（専用型）512 MB 未満のシステムメモリ、または 512 MB ビデオメモリ（専用型と共有型）、または 1 GB 以上のシステムメモリ
LCD インタフェース	LVDS
テレビサポート	S ビデオおよびコンポジットモードでの NTSC または PAL

オーディオ	
オーディオタイプ	HDA（ハイ・デフィニッション・オーディオ）（ソフトオーディオ）
オーディオコントローラ	SigmaTel STAC9205
ステレオ変換	24 ビット（ステレオ DA 変換） 24 ビット（ステレオ AD 変換）
インタフェース：	
内蔵	PCI バス /HDA
外付け	マイクミニコネクタ、ステレオヘッドフォン / スピーカミニコネクタ
スピーカ	4 Ω スピーカ × 2
内蔵スピーカアンプ	2 W チャネルから 4 Ω
ボリュームコントロール	ショートカットキーまたはプログラムメニュー

ディスプレイ	
タイプ（アクティブマトリックス TFT）	WXGA、WSXGA+、または WUXGA
寸法：	
縦幅	最大 207.0 mm
横幅	331.2 mm
対角線	390.57 mm
動作角度	0（閉じた状態）～ 180°
可視角度：	
WXGA 水平方向	40/40°
WXGA 垂直方向	10/30°
WSXGA+ 水平方向	65/65°
WSXGA+ 垂直方向	50/50°
WUXGA 水平方向	65/65°
WUXGA 垂直方向	50/50°
ピクセルピッチ：	
WXGA	0.2588（15.4 インチディスプレイ）
WSXGA+	0.1971（15.4 インチディスプレイ）
WUXGA	0.1725（15.4 インチディスプレイ）
消費電力（バックライトのパネル）（標準）：	
WXGA	5.0 W（最大）
WSXGA+	5.5 W（最大）
WUXGA	6.0 W（最大）
コントロール	輝度はショートカットキーによって調節可能

キーボード	
キー数	87（アメリカ、カナダ）、88（ヨーロッパ）、91（日本）
キーストローク	2.7 mm ± 0.3 mm
キースペース	19.05 mm ± 0.3 mm
レイアウト	QWERTY / AZERTY / 漢字

タッチパッド	
X/Y 位置解像度（グラフィックステーブルモード）	240 cpi
寸法：	
横幅	64.88 mm（センサー感知領域）
縦幅	48.88 mm の長方形

トラックスティック	
X/Y 位置解像度（グラフィックステーブルモード）	100 gf にて 250 カウント / 秒
サイズ	キーボードより 0.5 mm 高い

バッテリ	
タイプ：	
9 セルリチウムイオンバッテリ	85 WHr
6 セルリチウムイオンバッテリ	56 WHr
寸法:	
長さ	77.2 mm
縦幅	20.0 mm
横幅	187.03 mm
重量：	
9 セルリチウムイオンバッテリ	標準 0.485 kg（標準）
6 セルリチウムイオンバッテリ	標準 0.355 kg（標準）
電圧	11.1 VDC
動作時間	使用状況により変わり、何らかの集中的な電力消費状況により動作時間が著しく減少することがあります（詳細については、27 ページの「バッテリの性能」を参照）。
寿命（概算）	500 回（充電 / 放電）
温度範囲：	
動作時	0 ～ 35 ℃
保管時	–40 ～ 65 ℃

AC アダプタ	
入力電圧	100 ～ 240 VAC
入力電流（最大）	1.5 A
入力周波数	50 ～ 60 Hz
出力電流	4.62 A
出力電力	90 W
定格出力電圧	19.5 VDC
寸法：	
縦幅	27.94 mm
横幅	58.42 mm
長さ	133.85 mm
重量（ケーブル含む）	0.4 kg
温度範囲：	
動作時	0 ～ 35 ℃
保管時	–40 ～ 65 ℃

サイズと重量	
縦幅	35.7 mm
横幅	361 mm
長さ	262.6 mm
重量	約 2.77 kg、設定により異なります。

環境	
温度範囲：	
動作時	0 ～ 35 ℃
保管時	–40 ～ 65 ℃
相対湿度（最大）：	
動作時	10 ～ 90 %（結露しないこと）
保管時	5 ～ 95 %（結露しないこと）
最大振動（ユーザー環境をシミュレートするランダム振動スペクトラムを使用時）：	
動作時	0.66 GRMS
保管時	1.30 GRMS

環境 (続き)	
最大衝撃（ヘッド固定位置のハードディスクドライブと 2 ミリ秒の正弦半波パルスを使用して測定したとき）：	
動作時	122 G
保管時	163 G
高度（最大）：	
動作時	–15.2 ～ 3,048 m
保管時	–15.2 ～ 10,668 m
空気中のほこりなどのレベル	G2 または ISA-S71.04-1985 により規定されたレベルより低いこと

17

困ったときは

サポートを受けるには

警告 : コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから外してください。

お使いのコンピュータに不具合がある場合、以下の手順でその不具合を診断し、問題解決することができます。

1 コンピュータに生じている不具合に関連した情報と手順に関しては、67 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。

2 Dell Diagnositics（診断）プログラムの実行方法の手順については、67 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。

3 136 ページの「Diagnostics（診断）チェックリスト」に記入してください。

4 インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポート（**support.jp.dell.com**）から、広範囲をカバーするオンラインサービスを利用してください。デルサポートオンラインの広範囲をカバーするリストについては、134 ページの「オンラインサービス」を参照してください。

5 これまでの手順で問題が解決されない場合は、135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

メモ : デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。サポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は該当するサポート担当者に転送されます。

デルサポートの使い方の説明は、133 ページの「テクニカルサポートおよびカスタマーサービス」を参照してください。

テクニカルサポートおよびカスタマーサービス

Dell™ のハードウェアに関するお問い合わせは、デルサポートサービスをご利用ください。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答をすぐにお答えします。

デルサポートサービスにお問い合わせになる場合、135 ページの「お問い合わせになる前に」を参照してから、お住まいの地域のお問い合わせ番号に連絡するか、または **support.jp.dell.com** にアクセスしてください。

DellConnect

DellConnect は、ブロードバンド接続を介してデルサービスとサポート担当者がお使いのコンピュータにアクセスできるようにするための、簡易なオンラインアクセスツールで、お客様立会いのもとに不具合の診断や修復を行います。詳細については、**support.jp.dell.com** へアクセスするか、DellConnect をクリックしてください。

オンラインサービス

デル製品およびサービスについては、以下のウェブサイトでご覧いただけます。

www.dell.com

www.dell.com/ap （アジア太平洋地域のみ）

www.dell.com/jp（日本）

www.euro.dell.com（ヨーロッパ）

www.dell.com/la（ラテンアメリカとカリブ諸国）

www.dell.ca（カナダ）

デルサポートへは、以下のウェブサイトおよび E- メールアドレスでご連絡いただけます。

- デルサポートサイト
  support.dell.com

  support.jp.dell.com（日本）

  support.euro.dell.com（ヨーロッパ）

- デルサポートの E- メールアドレス
  mobile_support@us.dell.com

  support@us.dell.com

  la-techsupport@dell.com（ラテンアメリカおよびカリブ諸国のみ）

  apsupport@dell.com（アジア太平洋地域）

24 時間納期案内電話サービス

ご注文になったデル製品の状況を確認するには、support.jp.dell.com にアクセスするか、または、24 時間納期案内電話サービスにお問い合わせください。 音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。

ご注文に関する問題

欠品、誤部品、請求書の間違いなどの注文に関する問題がある場合は、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。

製品情報

デルが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文をする場合は、デルウェブサイト **www.dell.com/jp/** をご覧ください。お住まいの地域のお問い合わせ先電話番号および販売担当者の電話番号に関しては、135 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照してください。

保証期間中の修理または返品について

『サービス & サポートのご案内』をご覧ください。

お問い合わせになる前に



メモ : お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードがあると、デルで自動電話サポートシステムをお受けになる場合に、より効率良くサポートが受けられます。また、お客様のサービスタグをお尋ねする場合もございます(お使いのコンピュータの背面または底面にあります)。

必ず Diagnostics(診断)チェックリスト(136 ページの「Diagnostics(診断)チェックリスト」を参照)に記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。



警告 : コンピュータ内部の作業を始める前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

デルへのお問い合わせ

米国のお客様は、800-WWW-DELL(800-999-3355)にお問い合わせください。



メモ : インターネットにアクセスできない場合には、注文書、配送伝票、請求書、あるいはデル製品カタログより問い合わせ情報を入手できます。

デルでは、各種のオンラインとお電話によるサポートおよびサービスのオプションを提供しています。ご利用状況は国や製品により異なるため、一部のサービスはお客様の地域でご利用いただけない場合があります。営業、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスの問題に関するデルへのお問い合わせは次の手順を実行します。

1 **support.jp.dell.com** へアクセスします。
2 ページの下部にある **国 / 地域** ドロップダウンメニューで、お客様の国または地域を確認します。
3 ページの左側にある **お問い合わせ** をクリックします 。
4 必要に応じて、該当するサービスまたはサポートリンクを選択します。
5 お客様のご都合の良いデルへのお問い合わせ方法を選択します。

Diagnostics（診断）チェックリスト

名前：

日付：

住所：

電話番号：

サービスタグ（コンピュータの背面または底面にあるバーコード）：

エクスプレスサービスコード：

返品番号（デルサポート担当者から提供された場合）：

オペレーティングシステムとバージョン：

周辺機器：

拡張カード：

ネットワークに接続されていますか？　はい　いいえ

ネットワーク、バージョン、およびネットワークアダプタ：

プログラムとバージョン：

システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。

エラーメッセージ、ビープコード、または診断コード：

問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

18

付録

コンピュータのクリーニング

警告 : 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータ、キーボード、およびディスプレイ

警告 : コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータをコンセントから抜いて、取り付けてあるバッテリをすべて外します。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- キーボードのキーの間のほこりをクリーニングするには、圧縮空気の缶スプレーを使用します。

注意 : コンピュータやディスプレイへの損傷を防ぐため、ディスプレイに直接クリーナーをスプレーしないでください。ディスプレイ専用のクリーニング用品のみお使いいただき、その製品に付属している手順書に従ってください。

- 水、またはディスプレイ用クリーナーで湿らせた柔らかく、糸くずの出ない布でディスプレイをきれいになるまで拭きます。

注意 : 反射防止コーティングへの損傷を防ぐため、ディスプレイは洗剤やアルコール液で拭かないでください。

- 糸くずの出ない柔らかい布を水で湿らせ、コンピュータとキーボードを拭きます。布から水がにじみ出てタッチパッドやパームレストにしみ込まないようにしてください。
- モニタの画面をクリーニングする場合は、柔らかくきれいな布を水でわずかに湿らせてください。モニタの静電気防止コーティング用の画面クリーニングティッシュや溶液を使用することもできます。
- キーボード、コンピュータ、モニタのプラスチックは、水 3 に対し食器用洗剤 1 を混ぜ合わせた溶液で湿らせたクリーニング用の柔らかい布を使用して拭きます。

  この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

タッチパッド

1. コンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータに取り付けられているすべてのデバイスを取り外して、コンセントから抜きます。
3. 取り付けられているすべてのバッテリを取り外します（31 ページの「バッテリの交換」を参照）。
4. 水で湿らせた柔らかく糸くずの出ない布で、タッチパッドの表面をそっと拭きます。布から水がにじみ出てタッチパッドやパームレストにしみ込まないようにしてください。

マウス

 **注意：**マウスをクリーニングする前に、コンピュータからマウスを外します。

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。

非光学式マウスのクリーニング

1 低刺激性の清浄液で湿らせた布でマウスの外側のケースを拭きます。
2 マウスの底面にある固定リングを反時計回りにまわしてボールを取り出します。
3 ボールは糸くずのないきれいな布で拭きます。
4 ボールケージの中に慎重に風を送るか、または圧縮空気の缶スプレーを使用して、ほこりやくずを取り除きます。
5 ボールケージの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
6 ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
7 ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

光学式マウスのクリーニング

低刺激性の清浄液で湿らせた布でマウスの外側のケースを拭きます。

フロッピードライブ

 **注意：**ドライブヘッドを綿棒でクリーニングしないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用によって付いたドライブヘッドの汚れを落とすように前処理されたフロッピーが入っています。

CD および DVD

 **注意：**CD/DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気の製品に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

1 ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

 **注意：**円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷を付ける恐れがあります。

2 柔らかく、糸くずの出ない布でディスクの裏側（ラベルのない側）を中央から外側の縁に向かって放射状にそっと拭きます。

   頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

Macrovision 製品通知

この製品には、米国特許権および知的所有権によって保護されている著作権保護技術が組み込まれています。本製品の著作権保護テクノロジは Macrovision に使用権限があり、同社の許可がない限り、家庭内および限定的な表示にのみ使用することを目的としています。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

FCC の通達（アメリカ合衆国のみ）

FCC クラス B

この装置は、ラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、放射する可能性があります。製造元のマニュアルに従わずに取り付けて使用した場合、ラジオやテレビに受信障害を生じさせる場合があります。本装置は、試験の結果、FCC 規則パート 15 に準拠するクラス B デジタル装置の規制に適合しています。

この装置は FCC（米国連邦通信委員会）規定の第 15 項に適合しています。次の 2 つの条件にしたがって使用してください。

1 本装置が有害な障害を引き起こさないこと。

2 本装置は、受信障害を起こすと、望ましくない操作が必要になる場合もあります。

 **注意：**FCC 規則では、デルによって明確に許可されていない変更修正を行った場合、その装置を使用する権限が無効になることがあると規定されています。

この規制は、個人の家に取り付けた場合に、有害な障害に対する適正な保護を提供するよう設計されています。ただし、特定の設定で電波障害が発生しないという保証はありません。本装置のスイッチをオンオフすることにより、本装置がラジオやテレビに受信障害を引き起こしていることが確認された場合は、次の方法をお試しになるようお勧めします。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に対してシステムを再配置してください。
- 受信機からシステムを遠ざけてください。
- システムを別のコンセントにつないで、システムと受信機を別々の分岐回路上に置いてください。

詳細については、デルの担当者またはラジオ / テレビの技術者にご相談ください。

次の情報は、FCC 規則に準拠する本書で取り扱う装置に関するものです。

製品名：	Dell Precision™ M4300
モデル番号：	PP04X
会社名：	Dell Inc. Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs One Dell Way Round Rock, TX 78682 USA 512-338-4400

用語集

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC — alternating current（交流）— コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと流れる電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

AHCI — Advanced Host Controller Interface — SATA ハードディスクドライブ対応のホストコントローラです。AHCI を使用することにより、ストレージドライバでネイティブコマンドキューイング（NCQ）やホットプラグなどのテクノロジが使用可能になります。

ALS — 環境照明センサー — ディスプレイの輝度を調整する機能です。

ASF — alert standards format — 管理コンソールにハードウェアとソフトウェアの警告を報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるように設計されています。

B

BIOS — basic input/output system（基本入出力システム）— コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェースの役割をするプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれています。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジ — 短距離（9 メートル）内にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジ標準です。

bps — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する単位です。

BTU — British thermal unit（英国熱量単位）— 熱量の単位です。

C

C — セルシウス（摂氏）— 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。

CD-RW ドライブ — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW/DVD ドライブ — コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CMOS — 電子回路の一種です。コンピュータでは、日付や時刻、セットアップオプションを保持するために、少量のバッテリ電源を使用する CMOS メモリを使用します。

COA — Certificate of Authenticity（実物証明書）— お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数文字のコードです。プロダクトキーやプロダクト ID とも呼ばれます。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM）— メモリチップのない特別なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに取り付けます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM）— データバーストサイクルを倍にして、システムの性能を向上させる SDRAM の一種です。

DDR2 SDRAM — double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM）— 4 ビットのプリフェッチおよびその他のアーキテクチャの変更を使用して、メモリスピードを 400 MHz 以上に向上させる、DDR SDRAM の一種です。

DIMM — dual in-line memory module（デュアルインラインメモリモジュール）— システム基板上のメモリモジュールに接続する、メモリチップ搭載の回路基板です。

DIN コネクタ — 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は、PS/2 キーボードまたはマウスケーブルのコネクタを接続するために使用します。

DMA — direct memory access — DMA チャネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory — コンデンサが搭載された集積回路に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線）— アナログ電話回線を介して高速インターネット接続を常時提供するテクノロジです。

DVD-R — DVD recordable — 記録可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

DVD+RW — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。（DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。）

DVD+RW ドライブ — DVD やほとんどの CD メディアを読み込んだり、DVD+RW（書き換え可能 DVD）に書き込んだりすることができるドライブです。

DVI — digital video interface（デジタルビデオインタフェース）— コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル送信の標準です。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正）— メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの拡張仕様の 1 つです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — は、ハードディスクドライブと光学ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害）— 電磁放射線によって引き起こされる電気障害です。

Energy Star® — Environmental Protection Agency（米国環境保護局）が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP — enhanced parallel port — 双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。

ESD — electrostatic discharge（静電気放出）— 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

ExpressCard — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。ExpressCard の一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCard は、PCI Express と USB 2.0 の両規格をサポートします。

F

Fahrenheit — ファーレンハイト（華氏）。温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

FBD — fully-buffered DIMM（完全バッファ型 DIMM）— DDR2 DRAM チップ、および DDR2 SDRAM チップとシステム間の通信を高速化するアドバンスドメモリバッファ（AMB）を搭載した DIMM です。

FCC — Federal Communications Commission（米国連邦通信委員会）— コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus — マイクロプロセッサと RAM 間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protocol（ファイル転送プロトコル）— インターネットに接続されたコンピュータ間で、ファイルを交換するための標準インターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1,024 MB（1,073,741,824 バイト）です。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz — ギガヘルツ — 周波数の単位です。1 GHz は、1,000,000,000 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーと相互にやり取りするソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムは GUI です。

H

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ（kHz）、メガヘルツ（MHz）、ギガヘルツ（GHz）、またはテラヘルツ（THz）単位で計測される場合もあります。

I

IC — integrated circuit（集積回路）— コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板またはチップです。

IDE — integrated device electronics — ハードディスクドライブまたは光学ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output（入出力）— コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力したりする動作またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA — Infrared Data Association — 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ — interrupt request（割り込み要求）— デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider — ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、E- メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb — キロビット — データの単位です。1 Kb は、1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 周波数の単位です。1 kHz は 1,000 Hz です。

L

LAN — local area network（ローカルエリアネットワーク）— 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD — liquid crystal display（液晶ディスプレイ）— ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード）— コンピュータの状態を示す光を発する電子部品です。

LPT — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続のためのポートです。

M

Mb — メガビット — メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps — メガビット / 秒 — 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — 1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位です。または 1,024 KB を表します。ハードディスクドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1 MHz は、1,000,000 サイクル / 秒です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

MP — メガピクセル — デジタルカメラで使用される画像の解像度の単位です。

ms — ミリ秒 — 1,000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ）— コンピュータの電源が切れたり、外部電源が停止したりした場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、現在の日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI — peripheral component interconnect（周辺機器相互接続）— PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCI Express — プロセッサとそれに取り付けられたデバイスとのデータ転送速度を向上させる、PCI インタフェースの修正版です。PCI Express は、250 MB/ 秒～ 4 GB/ 秒の速度でデータを転送できます。PCI Express チップセットおよびデバイスが異なる速度で使用できる場合は、動作速度が遅くなります。

PCMCIA — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIO — programmed input/output — データパスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test（電源投入時の自己テスト）— BIOS が自動的にロードする Diagnostics（診断）プログラムです。メモリ、ハードディスクドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — pre-boot execution environment — WfM（Wired for Management）標準で、オペレーティングシステムがないネットワークコンピュータを設定し、リモートで起動できるようにします。

R

RAID — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。般的に実装される RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。

RAM — random-access memory — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference（無線電波障害）— 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory（読み取り専用メモリ）— コンピュータが削除したり書き込んだりできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1 分間に発生する回転数です。ハードディスクドライブ速度の計測に使用します。

RTC — real time clock — システム基板上にあるバッテリで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST — real-time clock reset — いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SAS — serial attached SCSI — 原型の SCSI パラレルアーキテクチャとは対照的に、より高速のシリアルバージョンの SCSI インタフェースです。

SATA — serial ATA（シリアル ATA）— より高速のシリアルバージョンの ATA（IDE）インタフェースです。

SCSI — small computer system interface — ハードディスクドライブ、光学ドライブ、プリンタ、またはスキャナなどのデバイスをコンピュータに接続するための高速インタフェースです。SCSI では、単一のコントローラを使って多数のデバイスを接続できます。SCSI コントローラバスでは、個々の識別番号を使って各デバイスにアクセスします。

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ）— DRAM の一種で、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

SIM — サブスクライバ識別モジュール — SIM カードには、音声通信およびデータ通信を暗号化するマイクロチップが内蔵されています。SIM カードは電話やノートブックコンピュータに使用できます。

S/PDIF — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

Strike Zone™ —（コンピュータの電源がオンまたはオフに関わらず）コンピュータが共振ショックを受けた場合、または落下した場合に制動装置として機能し、ハードディスクドライブを保護するプラットフォームベースの強化領域です。

SVGA — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。SVGA の通常の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768 です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニタ、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの容量によって異なります。

S ビデオ TV 出力 — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ — super-extended graphics array plus — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

TPM — trusted platform module — ハードウェアベースのセキュリティ機能です。セキュリティソフトウェアと併用して、ファイルや E- メールの保護などの機能を有効にすることにより、ネットワークおよびコンピュータのセキュリティを強化します。

U

UAC — user account control（ユーザーアカウントコントロール）— Microsoft Windows® Vista® のセキュリティ機能です。有効に設定すると、ユーザーアカウントとオペレーティングシステム設定へのアクセス間のセキュリティに追加レイヤが提供されます。

UMA — unified memory allocation（統合メモリ振り分け）— ビデオに動的に振り分けられるシステムメモリです。

UPS — uninterruptible power supply（無停電電源装置）— 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus（ユニバーサルシリアルバス）— USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、スピーカ、プリンタ、ブロードバンドデバイス（DSL およびケーブルモデム）、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デイジーチェーン型に接続することもできます。

UTP — unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア）— ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 — バッテリのおおよその充電容量を表すのに通常使われる単位です。たとえば、66 WHr のバッテリは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

WLAN — Wireless Local Area Network（ワイヤレスローカルエリアネットワーク）の略です。インターネットアクセスを可能にするアクセスポイントやワイヤレスルーターを使用し、電波を介して互いに通信する一連の相互接続コンピュータを指します。

WWAN — Wireless Wide Area Network（ワイヤレスワイドエリアネットワーク）の略です。セルラーテクノロジを使用した、ワイヤレスの高速データネットワークで、WLAN よりもはるかに広い地域に対応します。

WXGA — wide-aspect extended graphics array — 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

X

XGA — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできるソケットやコネクタの一種です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約 2 倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア — お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E- メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。

か

カーソル — キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタに印刷される、またはモニタに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合いです。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み保護 — ファイルやメディアのデータ内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード — 拡張型 PC カードは、取り付けたときに PC カードスロットからカードの端がはみ出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なる場合もあります）。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

壁紙 — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

カルネ — 物品を外国へ一時的に持ち込む場合、一時輸入通関ができる通関手帳です。商品パスポートとも呼ばれます。

キーの組み合わせ — 複数のキーを同時に押して実行するコマンドです。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードディスクドライブが損傷したり、コンピュータがウィルスに感染した場合には、起動 CD、DVD、またはフロッピーディスクが必要になりますので、常備しておきます。

起動メディア — CD、DVD、またはフロッピーディスクなど、コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードディスクドライブが損傷したり、コンピュータがウィルスに感染した場合には、起動 CD、DVD、またはフロッピーディスクが必要になりますので、常備しておきます。『Drivers and Utilities』メディア（または 『ResourceCD』）は、起動可能な CD または DVD です。

キャッシュ — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

L1 キャッシュ — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュです。

L2 キャッシュ — プロセッサに外付け、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンドキャッシュです。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードディスクドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードディスクドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

クロックスピード — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

グラフィックモード — x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

光学ドライブ — CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。光学式ドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

コントローラ — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するための Windows ユーティリティです。

さ

サージプロテクタ — コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷雨などの原因で）から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの **support.jp.dell.com** にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話で問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

指紋リーダー — コンピュータのセキュリティ保護のため、固有の指紋を使ってユーザーの身元証明を行うストリップセンサーです。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スキャンディスク — Microsoft のユーティリティで、ファイル、フォルダ、ハードディスクの表面のエラーをチェックします。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節約する省電力モードです。

スマートカード — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー — ケーブルを利用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するのに使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

た

タスクトレイ — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

テキストエディタ — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成、および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

デバイス — コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルコア — 1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させた Intel® テクノロジです。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルモニタとも呼ばれます。

トラベルモジュール — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ドッキングデバイス —APR を参照してください。

ドメイン — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

な

内蔵 — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。ビルトインとも呼ばれます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードディスクドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードディスクドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

ハイパースレッディング — 1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させ、特定のタスクを同時に実行できるようにすることで、コンピュータのパフォーマンスを全般的に強化する Intel テクノロジです。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バッテリ駆動時間 — ノートブックコンピュータのバッテリがコンピュータに電源を供給する時間（分または時間数）です。

バッテリの寿命 — ノートブックコンピュータのバッテリが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パーティション — ハードディスクドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つまたは複数の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

パラレルコネクタ — I/O ポートは、コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用されます。LPT ポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニタの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供する、ビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックスをモニタに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、x 水平ピクセル数 × y 垂直ピクセル数 × z 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、x 列 × y 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル — ディスプレイ画面の構成単位である点です。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 × 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりする入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プロセッサ — コンピュータ内部で中心的に演算を行うコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ま

ミニカード — 通信用 NIC など内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードの機能は、標準の PCI 拡張カードと同等です。

ミニ PCI — モデムや NIC など通信機能を主とする内蔵周辺機器の規格です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

メディアベイ — 光学ドライブ、セカンドバッテリ、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール — システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ — メディアベイを参照してください。

モデム — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E- メールの交換に使用されます。

や

読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み防止に設定している場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合

ら

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（垂直周波数とも呼ばれます）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。